

# ＜健康食品等に関する日本語記事情報 統合版＞

2023 年後半（7 月号 No.1～12 月号 No.2）

本資料は、公益財団法人日本健康・栄養食品協会 学術情報部が、概ね隔週で会員向けに配信している「健康食品等に関する日本語記事情報」の 2023 年 7 月から 12 月配信分を統合したものです。

公益財団法人日本健康・栄養食品協会 <https://www.jhnfa.org/>

内容についてのお問合せ：学術情報部 E-mail：[gakuj@jhnfa.org](mailto:gakuj@jhnfa.org)

## 健康食品等に関する 日本語記事情報（2023 年 7 月号 No.1）

本文書では、インターネットの日本語記事情報から、（公財）日本健康・栄養食品協会 学術情報部が独自の視点で皆様の事業遂行に役立つと判断したものをご紹介いたします。

（例：法令・行政情報、新製品・新分野の製品の企画開発及び研究開発のお役立ち情報、安全性確保の取組みに活用出来る情報、その他ビジネス環境変化に係る情報等）

なお、記事の内容の正確性を当協会が保証するものではありません。また、特定の企業、食品素材・成分、製品などの情報が含まれる場合においても、当協会が支援・推進・推奨するものではありません。

英文記事情報については別途お送りいたします。

記事によっては短期間でリンク切れになるものがあります。その点ご了承ください。

### ○ 記事一覧

基本情報（記事見出し、出典・日付、URL）、冒頭文または記事のポイントとなる部分（民間の情報源には了承を得た上で転載）を表示しております。なお、基本情報のみで記事内容の把握が可能と思われる場合は基本情報のみとしております。

## ■ 注目記事

### 機能性表示食品に対する景品表示法に基づく措置命令を踏まえた食品表示法における対応について

消費者庁 - 2023/7/7

[https://www.caa.go.jp/policies/policy/food\\_labeling/foods\\_with\\_function\\_claims/#information](https://www.caa.go.jp/policies/policy/food_labeling/foods_with_function_claims/#information)

[機能性表示食品に係る届出資料の再検証等について\(地方自治体宛て\) \(令和5年7月3日付け消食表第358号・消表対第757号\) \[PDF:110KB\]](#)

[機能性表示食品に係る届出資料の再検証等について\(関係団体宛て\) \(令和5年7月3日付け消食表第358号・消表対第758号\) \[PDF:113KB\]](#)

### [FSAI]何故アスパルテームがニュースになっているのか？

食品安全情報 blog2 - 2023/7/3

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2023/07/03/170529>

*追記：7月3日分の中ほどの太字見出しです。前号(6/28配信)でもご紹介しましたが、国際がん研究機関(IARC)によるアスパルテームの評価が物議を醸しています。IARCは7月14日にアスパルテームを発がん性の可能性がある物質リストに収載するとの記事情報が、6月末から日本のネット上でも目に付き始めました。IARCはあくまでもハザード評価機関であり、そのハザードが実際にどの程度の危険性があるのかを評価(リスク評価)したわけではありません。ハザードとリスクを混同したようなメディア報道には注意する必要があります。*

#### 前号(6月号 No.2)でご紹介した内容

食品安全情報 blog2 - 2023/6/21

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2023/06/21/175036>

*なお、6月21日分の最後の「その他」の見出しで、IARC(国際がん研究機関)のアスパルテーム報告書に対するコメント記事が紹介されています。リスクを評価するJECFA(FAO/WHO合同食品添加物専門家会議)とハザード評価をするIARCのスタンスの違いに言及すると共に、後者のスタンスを利用する「活動家科学者」に対して批判的な論調になっています。*

### 【WHO】 国際がん研究機関 (IARC) モノグラフ会合 134 について 更新

食品安全情報（化学物質）No. 14/ 2023（2023. 07. 05）

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2023/foodinfo202314c.pdf>

次のセクションでご紹介している食品安全情報（化学物質）No. 14 の注目記事として挙げられている見出しです。IARC によるアスパルテームの発がん性評価について言及されています。以下、関連部分抜粋です。

“IARC モノグラフ会合のアスパルテームに関する評価結果が、参加者が機密保持の同意書に署名しているにもかかわらず、公式発表の前にメディアにリークされて注目の的になっています。IARC は JECFA との公式発表に先立ち、IARC の評価は発がんの可能性に関する科学的根拠の強さを示しており、がんの発症リスクの程度を示すものではないこと、一方、JECFA の評価は暴露される状況とその量を考慮してリスクの程度を示すものであるという、両者の評価の性質の違いを説明する Q&A を公表しました。両者の評価結果の公式発表については、次号でご紹介する予定です。”

## ■ 安全性関連情報

### 令和 5 年 3 月 29 日指定成分等含有食品等との関連が疑われる健康被害情報への対応ワーキンググループ（第 5 回） 議事録

厚生労働省 - 2023/7/4 [https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage\\_34005.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_34005.html)

### 令和 5 年 2 月 14 日指定成分等含有食品等との関連が疑われる健康被害情報への対応ワーキンググループ（第 4 回） 議事録

厚生労働省 - 2023/7/4 [https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage\\_31252.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_31252.html)

### 食品安全情報（化学物質）No. 14/ 2023（2023. 07. 05）

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2023/foodinfo202314c.pdf>

すでに前のセクションでご紹介したアスパルテーム関連情報以外で目に付いた見出しは以下の通りです。

#### 【WHO】

1. 出版物（食物アレルギーのリスク評価：パート 3、など）
2. 子供たちを食品マーケティングの有害な影響から守る政策についての WHO ガイドライン発表

#### 【FAO】

1. 食品安全と品質 - FAO は化学物質暴露と腸内細菌叢に関する3つのレビューを発表【FDA】

1. 食品中のアスパルテーム及びその他の甘味料

### 全リスト

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/index.html>

## ■ 表示、販売等に関する行政機関のアクション情報等

### さくらフォレスト株式会社に対する景品表示法に基づく措置命令について

消費者庁 - 2023/6/30 <https://www.caa.go.jp/notice/entry/033865/>

消費者庁は、本日、さくらフォレスト株式会社に対し、同社が供給する「きなり匠」と称する機能性表示食品及び「きなり極」と称する機能性表示食品に係る表示について、それぞれ、景品表示法に違反する行為(同法第5条第1号(優良誤認)に該当)が認められたことから、同法第7条第1項の規定に基づき、措置命令を行い-----

### 「一度に体質を改善し、追加費用は不要」などとダイエット希望者を勧誘し、痩身効果をうたうお茶等を次々販売する事業者に関する注意喚起

消費者庁 - 2023/6/28 <https://www.caa.go.jp/notice/entry/033735/>

## ■ 行政・法令関連情報（その他）

### 「コーデックス60周年記念イベント～国際食品安全の今後10年先を見据えて～」を7月24日に開催します

～食品の国際規格に関するオンラインシンポジウムの参加者を募集～

厚生労働省 - 2023/6/30 [https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage\\_33844.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_33844.html)

### 「べにふうき緑茶中のメチル化カテキンの定量－高速液体クロマトグラフ法の日本農林規格の一部改正案についての意見・情報の募集」の結果について

e-Gov パブリック・コメント - 2023/6/27

<https://public-comment.e->

[gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCM1040&id=550003650&Mode=1](http://gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCM1040&id=550003650&Mode=1)

## 「ウンシュウミカン中のβ-クリプトキサンチンの定量－高速液体クロマトグラフ法の日本農林規格の一部改正案についての意見・情報の募集」の結果について

e-Gov パブリック・コメント - 2023/6/27

<https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCM1040&id=550003651&Mode=1>

## 日本農林規格等に関する法律施行規則の一部を改正する省令案についての意見・情報の募集について

e-Gov パブリック・コメント - 2023/7/3 <https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=550003705&Mode=0>

<https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=550003705&Mode=0>

**有機認証制度の同等性関連です。**

## 「食品、添加物等の規格基準の一部を改正する件（案）」（清涼飲料水の規格基準の改正）に関する御意見の募集について

e-Gov パブリック・コメント - 2023/7/3 <https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=495230080&Mode=0>

<https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=495230080&Mode=0>

## 「候補成分のスイッチ OTC 化に係る検討会議での議論」に関する御意見の募集について

e-Gov パブリック・コメント - 2023/7/4

<https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=495230085&Mode=0>

## 食品安全委員会が自ら行う食品健康影響評価（「自ら評価」）の案件候補の募集について

e-Gov パブリック・コメント - 2023/7/3

<https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=095230590&Mode=0>

## 食品健康影響評価におけるベンチマークドーズ法の活用に関する指針の一部改正に関する審議結果（案）についての意見・情報の募集について

e-Gov パブリック・コメント - 2023/7/5

<https://public-comment.e->

[gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=095230600&Mode=0](https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=095230600&Mode=0)

### ■ 海外公的機関情報

## ジェットロ、米国における PFAS 最新情報と企業の対応に関するウェビナーを開催（米国、日本）

日本貿易振興機構（ジェットロ） - 2023/7/4

<https://www.jetro.go.jp/biznews/2023/07/f6ab0f0720a6444c.html>

## 米 FDA、食品トレーサビリティ規則の Q&A を更新（米国）

日本貿易振興機構（ジェットロ） - 2023/7/7

<https://www.jetro.go.jp/biznews/2023/07/4831bf58de236859.html>

## 保健省、チョコレート・同製品とカカオ豆由来製品に関する新告示を施行（タイ）

日本貿易振興機構（ジェットロ） - 2023/7/11

<https://www.jetro.go.jp/biznews/2023/07/dbd82a677eaf585.html>

以下の 8 件は、**食品安全委員会 食品安全総合情報システム**

**(<https://www.fsc.go.jp/fsciis/>) の更新情報 (2023/6/29 確認) の中から、気になったものを選定しました。**

**[見出しのクリックで内容をご覧頂けます。](#)**

20. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、新興リスクに関する EFSA の 2020 年の活動をテクニカルレポートとして公表](#)

29. [米国食品医薬品庁\(FDA\)、消費者向け情報のサイトに「どれほど甘いか：甘味料に関する全て」と題する情報を公表](#)

35. [フランス食品環境労働衛生安全庁\(ANSES\)、食品サプリメントに使用される 118 種類の薬用植物に関する使用上の注意等を列記した附属書を含む意見書を公表](#)
36. [台湾衛生福利部、「ブロッコリー種子エキスの食品原料としての使用制限と表示規則」の制定について公表](#)
37. [台湾衛生福利部、「卵白リゾチーム加水分解物の食品原料としての使用制限と表示規則」の制定について公表](#)
54. [米国食品医薬品庁\(FDA\)、「同等性と食品安全：食品安全に関する国際協力」と題するウェブページを公開](#)
57. [カナダ保健省\(Health Canada\)、 \$\alpha\$ -シクロデキストリン\( \$\alpha\$ -Cyclodextrin\)の各種食品への使用を可能にするための乳化剤、ゲル化剤、安定化剤又は増粘剤の許可リストの変更通知を公表](#)
62. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、新食品としてのイエローミールワーム\(Tenebrio molitor 幼生\)個体全体の UV 処理粉末の安全性に関する科学的意見書を公表](#)

## ■ 市場予測、動向（食品・健康食品全般）

### 富士経済、清涼飲料市場における健康や嗜好などがキーワードの注目 12 品目を調査、2023 年の熱中症対策飲料市場は 3151 億円を見込む

マイライフニュース - 2023/7/10 <https://www.mylifenews.net/drink-food/23808/>

総合マーケティングビジネスの富士経済は、コロナ禍からの回復に加え、価格改定によって拡大している清涼飲料の国内市場について、要素の広がりがみられる「健康」、リフレッシュ・リラックスのニーズ拡大によって新たな兆しがみられる「嗜好」、サステイナブルな取り組みやマーケティングによって多様化する「容器・資材」をキーワードに分析し、注目の市場として 12 品目を調査した。その結果を「転換期を迎える飲料業界の注目市場横断分析&市場環境動向」に-----

### 東京商工リサーチ、主要飲食料品メーカー200社の「価格改定・値上げ」調査、「飲食料品値上げ」上半期の最多は「加工食品」

マイライフニュース - 2023/7/4 <https://www.mylifenews.net/drink-food/23304/>

東京商工リサーチ（TSR）は、国内の主要飲食料品メーカー200社を対象に、1月からの出荷・納品分で価格改定を公表した商品を調査した。その結果、「飲食料品値上げ」上半期の最多は「加工食品」だった。対象品目は約3万品で、秋には値上げ第3波も予想-----

## ■ 具体的健康ニーズ・素材・成分、製品情報 (市場予測・動向等)

### 豊富な機能性 美容・睡眠・抗疲労に利用拡大 (特集：カロテノイド)

健康メディア.com - 2023/7/3 [https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/17793](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/17793)

自然界の動物や植物に広く存在し、厳しい自然環境下で抗酸化や抗紫外線の機能を発揮するカロテノイド。700種類以上が見つかっているが、健康食品素材に主に用いられているのは10種類程度。アイケア、美肌、骨の健康維持などを訴求する製品に利用される。近年では、機能性研究が進み、脳機能、抗疲労のほか、糖尿病、肝臓疾患など様々な生活習慣病の発症に関わる酸化ストレスを低減することが明らかにされ、利用の幅が広がる。カロテノイド類を活用した機能性表示食品は500品を超えており、昨年同時期から100品以上増加。紫外線対策、疲労感軽減などポストコロナを見据えた届出を目指す販売メーカーが増えて---

### エビデンスの蓄積も進む (特集：NMN)

健康メディア.com - 2023/7/3 [https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/17789](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/17789)

健康食品・化粧品におけるエイジングケア対策の人気素材「NMN」。2020年の食薬区分改正以降、利用が広がり、エビデンス研究も活発化している。昨秋の米国FDAによるNMNの食品規制の方針を機に、中国サプライヤーは、日本やヨーロッパ市場に原料提案を強化。市場は米国から中国、日本、ヨーロッパへとシフトしつつある。ワシントン大学や東京大学、慶應義塾大学など、世界トップレベルの大学で研究が進んでいる。歩行能力、聴力、持久力の向上、インスリン感受性の改善、骨密度強化など、NMNのより具体的なエビデンスが発表される中、1日摂取量も200~300mgを主流としながらも、1,000mg以上を推奨するケースも見られるようになった。市場では、ネット直販や医家向けルート等で堅調に売上を伸ばす企業も増えて-----

## ■ 市場・企業動向、注目ビジネス情報

### 日本発の「最適化栄養食」で、人類の「食によるウェルビーイング」の実現を目指す産学医による「日本最適化栄養食協会」を設立

一般社団法人 日本最適化栄養食協会 - 2023/7/3

[https://www.saiteki-eiyo.org/asset/img/top/20230703\\_PressRelease.pdf](https://www.saiteki-eiyo.org/asset/img/top/20230703_PressRelease.pdf)

「一般社団法人 日本最適化栄養食協会」(以下、最適化栄養食協会)は、主要な栄養素がバランスよく適切に調整された「最適化栄養食」の普及と、人類の「食によるウェルビーイング」の実現を目指して、伊藤 裕氏(慶應義塾大学 予防医療センター 特任教授)と村上

秀徳氏（公益財団法人食品等流通合理化促進機構 会長）、さらに、イオン株式会社（執行役員副社長：土谷 美津子）、株式会社セブン-イレブン・ジャパン（代表取締役社長：永松 文彦）、日清食品株式会社（代表取締役社長：安藤 徳隆）が参画し、本日、2023年7月3日に活動を開始したことをお知らせ-----

## **“最適化栄養食”の栄養設計基準に関するJSA規格を発行**

一般財団法人日本規格協会 - 2023/7/3

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000152.000004052.html>

標準化および管理技術の開発、普及、啓発などを行う、一般財団法人日本規格協会（本部：東京都港区、理事長：朝日弘）は、JSA規格『最適化栄養食の栄養設計基準に関する要求事項』（JSA-S1015）を、2023年7月3日に発行いたしました。このJSA規格は、一般社団法人日本最適化栄養食協会が主体となって開発したもので、昨今話題の“最適化栄養食”を対象としています。このJSA規格の発行を通じて、最適化栄養食の普及を図り、人々のウェルビーイングに寄与することが期待され-----

## **■ 消費者意識等の調査・分析**

### **【重視するのは味】女性のプロテイン普及率や摂取目的を調査**

株式会社アースケア - 2023/7/2 <https://earthcare.co.jp/blog/protein>

近年、健康志向が高まる中で、プロテインに対する関心も急速に広がっています。健康やフィットネスに関心を持つ人々にとって、プロテインは重要な栄養補給の手段として注目されています。株式会社アースケアは一般女性100名のプロテイン摂取経験や関心について調査を実施しました。本調査の結果を通じて、プロテインの摂取状況や目的、選び方の実態について明らかにして----- [株式会社アースケア (<https://earthcare.co.jp/>) 調査]

## **■ 食品・食品成分の生理機能、健康関連科学情報**

### **ブロッコリースプラウトなどに含まれる「スルフォラファン」に風邪の症状を抑制する効果を確認**

株式会社村上農園 - 2023/7/7

<https://www.murakamifarm.com/company/release/2023/07/07/002492/>

このたび、株式会社村上農園（本社：広島市、代表取締役社長：村上清貴、以下 村上農園）は、ブロッコリースプラウトなどに含まれる成分「スルフォラファン」について下記の研究が論文化されたことを発表します。

この研究は、医療法人社団盛心会タカラクリニック院長・高良毅先生らによるもので、スルフォラファンを8週間摂取することによって、全身倦怠感やくしゃみ、のどの痛みなどの風邪の症状が抑制されるという結果が明らかになりました。論文は、『Functional Foods in Health and Disease Vol 13, No 6 (2023)』に掲載され-----

(<https://www.ffhdj.com/index.php/ffhd/article/view/1089>)。

## **皮膚の弾力性と真皮の厚みの改善に、筋力トレーニングが関与－立命館大ほか**

QlifePro 医療ニュース - 2023/7/3

<https://www qlifepro.com/news/20230703/resistance-training-aging-skin.html>

▼関連リンク・立命館大学 プレスリリース

[https://www.ritsumeai.ac.jp/profile/pressrelease\\_detail/?id=869](https://www.ritsumeai.ac.jp/profile/pressrelease_detail/?id=869)

### **運動の皮膚への効果は？中年女性対象に運動前後の血液などを解析**

立命館大学は6月30日、40-50代の女性を対象とした運動介入で、有酸素性運動と筋力トレーニングの両方が皮膚の弾力性と真皮構造を改善させること、特に筋力トレーニングは真皮の厚みを増加させ、若々しい外見に貢献する可能性があることを世界で初めて明らかにしたと発表した。この研究は、同大スポーツ健康科学部の藤田聡教授らと、ポーラ化成工業株式会社の共同研究グループによるもの。研究成果は、「Scientific Reports」に掲載され---

## **後期高齢者のフレイル、自治体健診の質問票から特異度高く識別可能－都長寿研ほか**

QLifePro 医療ニュース - 2023/7/11

<https://www qlifepro.com/news/20230711/the-health-assessment.html>

▼関連リンク・東京都健康長寿医療センター プレスリリース

<https://www.tmgig.jp/research/release/2023/0710.html>

### **全国の自治体を実施、後期高齢者の質問票に含まれる「フレイル関連12項目」**

東京都健康長寿医療センターは7月10日、後期高齢者の質問票に含まれる「フレイル関連12項目」について、健康リスクがあると考えられる回答が4項目以上あるとフレイルの可能性のあることを明らかにしたと発表した。この研究は、同センター研究所・福祉と生活ケア研究チームの石崎達郎研究部長ら、大阪大学、慶應義塾大学の研究グループによるもの。研究成果は、「Geriatrics & Gerontology International」に掲載され-----

## **炭酸の真皮組織に対する作用を新たに発見 皮内 pH が低下することでエラスチン、コラーゲン、ヒアルロン酸の産生が促進**

花王株式会社 - 2023/7/4

<https://www.kao.com/jp/newsroom/news/release/2023/20230704-001/>

花王株式会社（社長・長谷部佳宏）生物科学研究所・スキンケア研究所は、炭酸ガス（CO<sub>2</sub>）が経皮吸収された際に起こる組織内の pH 低下に着目し、真皮の主要な構成成分であり皮膚の弾力性維持に重要なエラスチン、コラーゲン、ヒアルロン酸（細胞外マトリックス、以下 ECM）の産生に与える影響を真皮線維芽細胞において評価しました。その結果、低 pH の環境下では、いずれの ECM 産生も促進することを見いだしました。さらに、その作用メカニズムを解析し、細胞内シグナル伝達経路の一端を明らかに-----

## **皮膚老化に対するセラミドの新たな機能の発見**

バリア機能だけではない、セラミドの新たな可能性を見出しました

ロート製薬株式会社 - 2023/6/27

[https://www.rohto.co.jp/research/researchnews/technologyrelease/2023/0627\\_01/](https://www.rohto.co.jp/research/researchnews/technologyrelease/2023/0627_01/)

ロート製薬株式会社（本社：大阪市、社長：杉本雅史）は、セラミドのさらなる機能として皮膚のバリア機能に留まらない作用を探究するなかで、独自のセラミド混合物※1 をナノ化したセラミドコンプレックス※2 が老化細胞によって引き起こされる炎症を抑制する可能性を確認しました。さらに、肌の赤みを抑え、皮膚弾力の向上や毛穴、シミの改善作用も見出し、肌の老化症状に対する改善も認められました。細胞は老化することで慢性的な炎症が生じ、老化が加速することが知られており、セラミドの抗炎症作用は老化に対する新たなアプローチとして有用であると考えられます。今後も、バリア機能にとどまらないセラミドの機能性研究を進めることで、肌悩みの根本から対処することが出来る、より満足度の高い製品開発を目指して-----

## **ビールにがんの抑制効果、岡山大学がマウス実験で確認**

大学ジャーナルオンライン - 2023/7/2 <https://univ-journal.jp/232538/>

ビールにがんの抑制効果があることを、岡山大学大学院医歯薬学総合研究科の高田潤大学院生、岡山大学総合学術研究院の有元佐賀恵元准教授、岡山大学病院の木浦勝行元教授らのマウス実験で明らかに-----

## **人類の老化を遅らせるかもしれない「セノリティクス」に注目！**

ウェルネス総研レポートオンライン - 2023/6/30 <https://wellnesslab-report.jp/2847/>

老化を加速させ、加齢に伴う病気にも影響を与えるとされる「老化細胞」を除去する成分「セノリティクス」が世界的に注目されています。人類の老化を遅らせることができるかもしれないセノリティクスについて解説-----

## 【AsianScientist】テロメアが高齢者のうつ病を予測する可能性

Science Portal Korea - 2023/6/29

[https://spap.jst.go.jp/korea/experience/2023/topic\\_ek\\_28.html](https://spap.jst.go.jp/korea/experience/2023/topic_ek_28.html)

以下の5件は、一般社団法人日本スポーツ栄養協会 公式情報サイト「スポーツ栄養 Web」掲載記事（2023年6月28日～7月11日）から選定したものです。

## 食べる順序を意識すると栄養状態が改善される？ 日本人対象の横断研究

<https://sndj-web.jp/news/002324.php> (2023/6/29)

食事の際に野菜やタンパク質食品を先に食べている人とそうでない人では、さまざまな栄養素摂取量が有意に異なることが明らかになった。また、残っている歯の本数は、この関連にほとんど影響を与えていないものの、唯一、飽和脂肪酸の摂取量については歯の本数が少ない人のほうが多く摂取しているという。神奈川歯科大学歯科保存学講座の青山典生氏らの研究の成果であり、「Nutrients」に論文が掲載-----

## 回復期リハビリの運動療法に分岐鎖アミノ酸を加えると、筋肉の質が改善する

<https://sndj-web.jp/news/002328.php> (2023/6/30)

整形外科疾患の回復期リハビリテーション治療における分岐鎖アミノ酸（BCAA）の重要性を示唆する研究結果が報告された。入院中の運動療法に BCAA を上乘せすると、筋肉の質が改善するという。昭和大学保健医療学部リハビリテーション学科の池田崇氏らの研究によるもので、「Health Science Reports」に論文が掲載-----

## ラストスパートに差が出る？ クレアチンの持久力パフォーマンスへの影響を ISSN がレビュー

<https://sndj-web.jp/news/002330.php> (2023/7/1)

クレアチン摂取による持久力パフォーマンスへの影響をまとめたレビュー論文が、国際スポーツ栄養学会（International Society of Sports Nutrition ; ISSN）の「Journal of the International Society of Sports Nutrition」に掲載された。一部を紹介-----

## ケトジェニック食でエリート競歩選手のトレーニングの質が低下する

<https://sndj-web.jp/news/002335.php> (2023/7/7)

低炭水化物、高脂肪のケトン産生食は、競歩のトレーニングには向かないようだ。エリートレベルの選手を対象に行われた研究の結果、高炭水化物食との比較で、トレーニングの量と強度の双方が低下する可能性が示されたという。詳細は、「International journal of sports physiology and performance」に掲載

## 食事・栄養でうつ病リスクを抑制できるか？ 2018年以降5年間の研究報告のレビュー

<https://sndj-web.jp/news/002337.php> (2023/7/10)

今回は、栄養素の不足とうつ病リスクとの関係に焦点を当てたレビュー論文を紹介する。タンパク質、ビタミンB群、ビタミンD、マグネシウム、亜鉛、セレン、鉄、カルシウム、 $\omega$ 3脂肪酸などの栄養素の欠乏は、脳や神経系の機能に影響を及ぼし、うつ症状の出現に影響を与える可能性が考えられるという。ただ、それらのエビデンスの大半は横断研究から得られたものであり、この領域のさらなる研究の必要性が確認されたとのことだ。また著者らは、食事がうつ病のリスクに影響を与え得る、またはうつ病の治療に役立つ可能性がある、唯一の要因ではないことを忘れてはならないと記して……

## ■ その他の食品関連科学・技術情報

### キリンビール、ブレインパッドとの共同プロジェクトで「製造計画作成アプリ」の運用を開始

IoTNEWS - 2023/7/4 <https://iotnews.jp/manufacturing/228833/>

キリンビール株式会社は、株式会社ブレインパッドとともに、キリンビールのSCM (Supply Chain Management) 業務プロセスにICTを活用する「MJ (未来の需給をつくる) プロジェクト」を、2022年10月より始動させている。両社は、このプロジェクトの第1弾として、2022年12月に共同開発した「資材需給管理アプリ」を運用していたが、本日、第2弾として、2023年7月より「製造計画作成アプリ」の運用を開始することを発表……

### 陶磁器の「うわぐすり」で茶葉発酵過程と同じ反応が、名古屋工業大学が発見

大学ジャーナルオンライン - 2023/7/10 <https://univ-journal.jp/232867/>

名古屋工業大学大学院の白井孝准教授らの研究グループは、陶磁器の釉薬（ゆうやく）表面の触媒作用により、緑茶に含まれるカテキンが選択的に酸化し、紅茶やウーロン茶などの発酵茶に多く含まれるポリフェノールが生成することを世界で初めて発見……

## ■ その他の科学・技術情報

### 植物由来の化学物質を安価に生産する技術、事業化に向けて本格始動へ

MONOist - 2023/6/28 <https://monoist.itmedia.co.jp/mn/articles/2306/28/news030.html>

新エネルギー・産業技術総合開発機構は、同機構の事業から開発された、微生物発酵によって植物由来の希少化学物質を生産する技術について、事業化に向けた本格的な取り組みが開始されたと発表……

### 汗中イオン濃度をリアルタイム測定できるウェアラブルデバイスを開発 —東京理科大

QLifePro 医療ニュース - 2023/7/10

[https://www.qlifepro.com/news/20230710/ion-concentration.html](https://www qlifepro.com/news/20230710/ion-concentration.html)

▼関連リンク・東京理科大学 プレスリリース

[https://www.tus.ac.jp/today/archive/20230706\\_2837.html](https://www.tus.ac.jp/today/archive/20230706_2837.html)

#### 熱転写印刷を応用し、汗中のイオンを継続的に定量化できるウェアラブルデバイスを開発

東京理科大学は7月6日、汗中のイオン濃度をリアルタイムで測定できる小型のイオンセンサの開発に成功し、同イオンセンサを熱転写印刷で衣類に取り付けることで、非侵襲的なウェアラブルデバイスとして使用可能であることを実証したと発表した。この研究は、同大創域理工学部先端化学科の四反田功准教授、同・工学部機械工学科の元祐昌廣教授、同・薬学部薬学科の鈴木立紀准教授、同・教養教育研究院野田キャンパス教養部の柳田信也教授、向本敬洋准教授らの研究グループによるもの。研究成果は、「ACS Sensors」にオンライン掲載され……

### 旭化成ファーマ、高性能細胞で医療品原料の生産性の改善に成功

マイナビニュース - 2023/7/3

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20230703-2716582/>

## 生体分子を低ダメージで細胞内輸送する新しいオプトポレーションを開発 インド

インド科学技術ニュース - 2023/7/4

[https://spap.jst.go.jp/india/news/230701/topic\\_ni\\_02.html](https://spap.jst.go.jp/india/news/230701/topic_ni_02.html)

## 躍進するアダプティブマシン、世界最大級加工包装展示会で見た潮流と進化

MONOist - 2023/6/29 <https://monoist.itmedia.co.jp/mn/articles/2306/29/news006.html>

2023年5月4～10日にドイツのデュッセルドルフで「interpack2023」が開催されました。3年に1回開かれるinterpackは、パッケージング業界や関連するプロセス産業にとって、世界最大かつ最も重要な見本市の1つとなっています。パッケージングマシン、製菓マシン、医療品パッケージ、材料、パッケージング関連サービスなど、幅広い製品群と最新トレンド、テクノロジー、イノベーションを確認することが可能……

## ■ その他

### 農水によるフードテック推進のねらいと小売業の向き合い方

ダイヤモンド・チェーンストアオンライン - 2023/7/5

<https://diamond-rm.net/management/sdgsesg/461964/>

近年、食分野の新しい技術およびその技術を活用したビジネスモデル「フードテック」が注目されている。これに対して政府も動き出し、農林水産省がフードテックを推進する新事業・食品産業部を新たに立ち上げ、技術開発や事業者支援を進めている。こうしたなか食品小売企業はフードテックといかに向き合っていくべきか、レポート……

### 脱炭素とマイクロプラスチックに続く第3の環境課題「窒素廃棄物」の厳しい現状

MONOist - 2023/7/3 <https://monoist.itmedia.co.jp/mn/articles/2307/03/news003.html>

本連載では、カーボンニュートラル、マイクロプラスチックに続く環境課題として注目を集めつつある窒素廃棄物放出の管理（窒素管理）とその解決を目指す窒素循環技術の開発について紹介します。今回は、窒素管理の議論が起こりつつある背景についてご説明……

以上

## 健康食品等に関する 日本語記事情報（2023年7月号 No.2）

本文書では、インターネットの日本語記事情報から、（公財）日本健康・栄養食品協会 学術情報部が独自の視点で皆様の事業遂行に役立つと判断したものをご紹介します。

（例：法令・行政情報、新製品・新分野の製品の企画開発及び研究開発のお役立ち情報、安全性確保の取組みに活用出来る情報、その他ビジネス環境変化に係る情報等）

**なお、記事の内容の正確性を当協会が保証するものではありません。また、特定の企業、食品素材・成分、製品などの情報が含まれる場合においても、当協会が支援・推進・推奨するものではありません。**

英文記事情報については別途お送りいたします。

**記事によっては短期間でリンク切れになるものがあります。その点ご了承ください。**

### ○ 記事一覧

**基本情報（記事見出し、出典・日付、URL）、冒頭文または記事のポイントとなる部分（民間の情報源には了承を得た上で転載）を表示しております。なお、基本情報のみで記事内容の把握が可能と思われる場合は基本情報のみとしております。**

## ■ 注目記事

### 食品安全情報（化学物質） No.15 (2023.07.19)

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2023/foodinfo202315c.pdf>

**本文冒頭の注目記事紹介で、「アスパルテーム関連記事」が挙げられています。冒頭部分の以下の記述が非常に分かりやすいので抜粋してご紹介いたします。**

“消費者にとって最も重要なことは、JECFA の評価ではアスパルテームを摂取する状況と量を考慮しているのに対し、IARC はそこまで踏み込んだ評価はしていないという点でしょう。IARC の評価では、ヒトにがんを引き起こすことについて説得力のある根拠がどの程度あるのかのみを評価しており、結論として分類された 2B の発がん性は、専門家の間では可能性が相当低いものであると考えられています。JECFA は、アスパルテームは消化管内で完全に加水分解されてフェニルアラニンとアスパラギン酸（どちらもアミノ酸の一種）、メタノールになる上、実験動物やヒトに関する新しい研究結果を考慮しても、アスパルテーム

の摂取がヒトに有害影響を及ぼすという説得力のある根拠はない、さらに現在の食事を介したアスパルテームの推定暴露量は健康上の懸念をもたらすものではないと結論しています。”

(別添) アスパルテーム関連記事

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2023/foodinfo202315ca.pdf>

## 参考情報

アスパルテームに関する Q&A (食品安全委員会) **今回の問題への対応**

[https://www.fsc.go.jp/foodsafetyinfo\\_map/aspartame.html](https://www.fsc.go.jp/foodsafetyinfo_map/aspartame.html)

## ■ 安全性関連情報

### 食品安全情報 (化学物質) No.15 (2023.07.19)

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2023/foodinfo202315c.pdf>

(別添) アスパルテーム関連記事

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2023/foodinfo202315ca.pdf>

**別添のアスパルテーム関連記事以外に、今回注目情報として挙げられていたのは、農業の有効成分であるグリホサートについて、重要な懸念分野はないとした EFSA (欧州食品安全機関) のリスク評価結果です。そのほか目に付いた見出しは以下の通りです。**

#### 【WHO】

2. WHO 健康的食事ガイドラインと FAO-WHO 健康的な食事の概念の発表イベント

#### 【EFSA】

1. EFSA プロジェクト GP/EFSA/AFSCO/2017/03 に関する報告書「食品中のアレルゲンの検出・定量化及び食品中の最小誘発用量—アレルギー患者」

#### 【BfR】

1. 昆虫摂取後のアレルギー反応に関する知見はまだほとんどない  
2. 大豆を含む食品とフードサプリメント：健康面

#### 全リスト

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/index.html>

## ■ 表示、販売等に関する行政機関のアクション情報等

今回は特に見当たりませんでした。

## ■ 行政・法令関連情報（その他）

### 「機能性表示食品の届出等に関するガイドライン」の一部改正案に関する意見募集について

e-Gov パブリック・コメント - 2023/7/24

<https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=235080071&Mode=0>

### 特別用途食品の表示許可について(7月14日)

消費者庁 - 2023/7/14 <https://www.caa.go.jp/notice/entry/034041/>

### 「アグリビジネス創出フェア 2023」で最新の研究成果を紹介しませんか

農林水産省 - 2023/7/14 <https://www.affrc.maff.go.jp/docs/press/230714.html>

#### ～出展者等の募集について～

農林水産省は、本日から8月4日（金曜日）までの間、全国の産学官の機関が有する、農林水産・食品分野などの最新の研究成果を分かりやすく紹介し、研究機関同士や、研究機関と事業者との連携を促す「アグリビジネス創出フェア 2023」の出展者等の募集を行います。特に、未来のスタートアップを志向する取組について、多くの出展をお待ちして……

### 醸造酢の日本農林規格の一部改正案についての意見・情報の募集について

e-Gov パブリック・コメント - 2023/7/18

<https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=550003718&Mode=0>

### トマト加工品の日本農林規格の一部改正案についての意見・情報の募集について

e-Gov パブリック・コメント - 2023/7/18

<https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=550003713&Mode=0>

## パン粉の日本農林規格の一部改正案についての意見・情報の募集について

e-Gov パブリック・コメント - 2023/7/18

<https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=550003715&Mode=0>

## 異性化液糖及び砂糖混合異性化液糖の日本農林規格の一部改正案についての意見・情報の募集について

e-Gov パブリック・コメント - 2023/7/18

<https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=550003716&Mode=0>

## ドレッシングの日本農林規格の一部改正案についての意見・情報の募集について

e-Gov パブリック・コメント - 2023/7/18

<https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=550003714&Mode=0>

## ■ 海外公的機関情報

### [UK SACN] 加工食品と健康についての SACN の声明

食品安全情報 blog2 - 2023/7/12

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2023/07/12/181204>

*12 日分の上から 2 番目の太字見出しです。英国の「栄養に関する科学諮問委員会」(SACN) の声明とそれに対する専門家のコメントが紹介されています。最近「超加工食品」の健康への悪影響を論じた研究論文が散見されますが、その多くのベースとなっている「NOVA 分類」について SACN は批判的なスタンスで、これに対してコメントを出した専門家の多くが賛同しているようです。しかし、食品業界としては「科学者の見方」とは別に「一般社会の受けとめ方 (マスメディアの影響大)」にも今後注視していく必要があると思います。*

## [WHO]出版物 健康的な食事指標：世界及び国のモニタリングのための指標の適切性評価

食品安全情報 blog2 - 2023/7/21

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2023/07/21/181907>

**21 日分の 3 番目の太字見出し。**

## [FDA]特定の食品成分の市販後評価に関する FDA の更新情報

食品安全情報 blog2 - 2023/7/21

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2023/07/21/181907>

**21 日分の 2 番目の太字見出し。以下、冒頭部分の一部です。**

本日、米国食品医薬品局(FDA)は、未承認の食品添加物であるために食品への使用が安全でないと FDA が決定した特定の食品成分の公開インベントリ\*と、現在 FDA の審査中の特定の化学物質のリスト\*\*を発表した。FDA はまた、市場にある食品中の成分の評価を強化するための FDA の取り組みについて、専門家との対話も掲載-----

## 米国地質研究所が全米規模では初の PFAS 汚染状況の推定結果を公表 (米国)

日本貿易振興機構 (ジェトロ) - 2023/7/14

<https://www.jetro.go.jp/biznews/2023/07/149c5b100b08c367.html>

**以下の 5 件は、食品安全委員会 食品安全総合情報システム**

**(<https://www.fsc.go.jp/fsciis/>) の更新情報 (2023/7/12 確認) の中から、気になったものを選定しました。**

**見出しのクリックで内容をご覧ください。**

2. 英国毒性委員会(COT)、「母体の食事に含有される麦角アルカロイド類に由来する潜在的リスクに関する第 1 次声明案」を公表

14. ドイツリスク評価研究所(BfR)は、健康上の観点から見た大豆含有食品と食品サプリメントに関する報告書を公表

17. ドイツリスク評価研究所(BfR)、昆虫摂取後のアレルギー反応に関する知識はまだ少ないとの情報を公表

[42. 世界保健機関\(WHO\)、調製乳の有害なマーケティングを防止するためのグローバル会議の開催を公表](#)

[52. 世界保健機関\(WHO\)、食物アレルギーのリスク評価\(パート3:優先順位の高い食物アレルギーの予防的な表示のレビュー及び確立\)に関する議事録を公表](#)

## ■ 市場予測、動向（食品・健康食品全般）

### 食品市場が変わる！？ウェルビーイング時代の食と健康マーケティング

ウェルネス総研レポート online - 2023/7/14 <https://wellnesslab-report.jp/2856/>

90年代、わが国にキシリトールを導入し、2000億円規模の市場創出に関わった株式会社インテグレート 藤田康人 CEO は、現在を食×健康領域におけるマーケティングの変革期と位置づけます。食とマーケティングの関係をウェルビーイングな視点から解き直すことを提案する藤田氏に、今後の「食と健康のあり方」についてお聞き-----

## ■ 具体的健康ニーズ・素材・成分、製品情報 (市場予測・動向等)

### ポストバイオティクスとして世界の評価高まる 免疫、メンタル、オーラル、運動機能など用途拡大（特集：殺菌乳酸菌）

健康メディア.com - 2023/7/18 [https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/17855](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/17855)

ハンドリング・加工特性の良さからあらゆる食品に利用されるようになった殺菌乳酸菌。最近では中食・外食産業でも採用が広がるなど、手軽に健康価値を付与できる食品成分として定着している。本紙が実施した受託企業へのアンケート調査では、乳酸菌は上期の人気受注素材トップに。昨年 NMN にその座を明け渡したが再び 1 位に返り咲いた。圧倒的な人気の要因は多様な機能性にある。特に機能性表示食品では、腸内環境の改善や抗ストレス、肌の保湿など、幅広い受用品が流通する。免疫の維持ではあらたな関与成分も登場し、話題に事欠かない。こうした人気は海外にも-----

### 身体的・精神的疲労、睡眠の質など エビデンスベースの素材提案進む (ZOOM UP：疲労対策)

健康メディア.com - 2023/7/18 [https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/17865](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/17865)

疲労の悩みが増加傾向にあるなか、メーカー各社は現代人のニーズに合わせた商品開発を活発化させている。疲労テーマの機能性表示食品は「日常生活の身体的・精神的疲労」「睡眠の質（寝つき、眠りの深さ、すっきりとした目覚め）の向上」「運動による身体の疲労感軽減」など、計 635 品目となった。他素材とのダブルヘルスクレームが目立ち、腹部脂肪や歩行サポートのダブルヘルスクレームを打ち出した商品開発も進んでいる。ゼリーや飴、ウエハースといった最終製品、外食メニューなど、サプリにとどまらない用途開発で-----

## サプリメントのエンハンス開発を “高吸収” を実現する素材・技術に注目（特集：吸収性向上素材・技術）

健康メディア.com - 2023/7/18 [https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/17859](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/17859)

「体感性アップ」「コスト削減」を両建てする吸収性向上素材・技術。一本買いが主流のエネルギー・滋養強壮系ドリンクや、「お試し 1 週間のサンプル商品」など、体感性がリピーター獲得の生命線となるサプリメントでの採用が進んでいる。有効成分や摂取粒数の少量化や商品の小型化にも繋がるため、コストメリットの面も評価されている。素材分野では、素材自体の吸収性を高めたものや、主剤の吸収性をサポートする“機能性素材のための機能性素材”が流通量を拡大。技術分野では、受託製造企業がナノ（リボソーム）化、微粒子化、発酵技術などを活用-----

## ■ 市場・企業動向、注目ビジネス情報

### アミノサイエンス®の活用によりプラントベースプロテイン・スタートアップ企業をサポート

### 味の素(株)、プラントベース with ニュートリション※の価値提供を強化

味の素株式会社 - 2023/7/14

[https://www.ajinomoto.co.jp/company/jp/presscenter/press/detail/2023\\_07\\_14.html](https://www.ajinomoto.co.jp/company/jp/presscenter/press/detail/2023_07_14.html)

味の素株式会社(社長：藤江 太郎 本社：東京都中央区)は、アミノサイエンス®の活用によるプラントベース with ニュートリションの価値提供の一環として、プラントベースフードの普及を推進するスタートアップ企業、株式会社 TWO(代表取締役 CEO：東 義和 本社：東京都渋谷区、以下 TWO 社)の製品開発をサポートしています。この度 TWO 社より、当社のロイシン高配合必須アミノ酸全 9 種「Amino L40」をミックスした次世代型プラントベースプロテイン「2Protein」が、2023 年 7 月 18 日(火)に新たに発売されます。持ち運びしやすく、いつでもどこでも食べられるタブレットタイプと、さっと食事やドリンクに振りかけることができるパウダータイプがあり、シーンやタイミングに合わせてお好きなタイプをお選び-----

## テックドクターとロッテ、ウェアラブルデバイスを活用した PMS の研究を開始

IoTNEWS - 2023/7/14 <https://iotnews.jp/medical-healthcare/229652/>

月経前症候群（以下、PMS）は、女性の生理開始 3～10 日前にイライラ、頭痛、むくみなどの精神的・身体的症状が現れることをいう。

しかし、PMS のメカニズムには未解明な部分が多く、どのような症状がどの程度現れるかは個人によって大きな違いがある。

そこで株式会社テックドクターと株式会社ロッテは、ロッテ社員及び社員の同居家族を中心に、PMS 定量指標の構築を目指した研究を 2023 年 7 月よりスタート……

## 花王とドコモ、パーソナライズされた健康サポートで健康意識向上・行動変容させる実証実験結果を発表

IoT News - 2023/7/21 <https://iotnews.jp/medical-healthcare/229989/>

花王株式会社と株式会社 NTT ドコモは、2022 年から、顧客ごとに最適なヘルスケアソリューション提案をめざした協業を進めている。

そして本日、ドコモの「d ヘルスケア」で、花王の「仮想人体生成モデル（VITA NAVI）」を活用した実証実験を、2023 年 2 月 20 日から 3 月 31 日の間実施した。「d ヘルスケア」は、毎日の歩数や体重を記録することができるほか、アプリ内のミッションをクリアすると、抽選で d ポイントがたまるスマートフォン向け健康管理・増進アプリ……

## “甘味料 2.0” はおいしくて健康的！米麴由来糖分「ORYZAE（オリゼ）」で新たな顧客価値をつくる OEM と卸販売を開始

砂糖代替甘味料を”安心安全”で選ぶ時代の新たな選択肢

株式会社オリゼ - 2023/7/18

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000032.000087241.html>

日本の伝統発酵技術を用いて社会課題解決を目指す株式会社オリゼ（所在地：東京都目黒区、代表取締役：小泉泰英）は、砂糖に変わる新たな代替甘味料・米麴由来糖分

「ORYZAE（オリゼ）」を活用した商品のホールセール（卸販売）および OEM 製造（委託製造）をサービス提供開始いたし……

## 商社がなぜ野菜作り？ データドリブンな植物工場事業モデルで目指す社会課題解決

MONOist - 2023/7/21 <https://monoist.itmedia.co.jp/mn/articles/2307/21/news016.html>

RYODEN が新規事業の 1 つとして取り組むスマートアグリ事業。商社がなぜ植物工場経営に進出したのか、どのような事業構想を抱いているのかを聞いた。

半 導体や工場自動化システムなどの商社として長く事業展開してきた RYODEN（前 菱 電商事）が、新規事業の 1 つとして取り組んでいるのがスマートアグリ事業だ。2022 年には RYODEN の連結子会社であるブロックファームが静岡県沼津市にブロックファーム植物工場を開設-----

## ■ 消費者意識等の調査・分析

今回は特に見当たりませんでした。

## ■ 食品・食品成分の生理機能、健康関連科学情報

### 日本人男性のローカーボ食、女性のハイカーボ食が死亡リスクを高める可能性一名大ほか

QLifePro 医療ニュース - 2023/7/21

<https://www qlifepro.com/news/20230721/carbohydrate.html>

▼関連リンク・名古屋大学 プレスリリース

[https://www.med.nagoya-u.ac.jp/medical\\_J/research/pdf/The\\_230714.pdf](https://www.med.nagoya-u.ac.jp/medical_J/research/pdf/The_230714.pdf)

#### 日本人の炭水化物・脂質摂取量と死亡リスクとの関連を評価

名古屋大学は 7 月 14 日、男性の低炭水化物摂取および女性の高炭水化物摂取が全死亡リスクとがん死亡リスクを高めること、女性の高脂質摂取が全死亡リスクを下げる可能性があることを発見したと発表した。この研究は、同大大学院医学系研究科予防医学分野の田村高志講師と若井建志教授らの研究グループによるもの。研究成果は、「The Journal of Nutrition」オンライン版に掲載され-----

### 「適度な運動」で高血圧改善の分子メカニズム解明一障害者リハ研ほか

QLifePro 医療ニュース - 2023/7/18

<https://www qlifepro.com/news/20230718/oscillating-head-motion.html>

▼関連リンク・国立障害者リハビリテーションセンター研究所 国リハ Web ニュース

[http://www.rehab.go.jp/rehawebnews/202307\\_3/](http://www.rehab.go.jp/rehawebnews/202307_3/)

#### 有酸素運動に多い「上下動」が身体に好影響を与える？臨床試験含め検討

国立障害者リハビリテーションセンターは 7 月 7 日、ラットを用いた実験とヒト成人を対象とした臨床試験にて、適度な運動が高血圧改善をもたらすメカニズムを発見したと発表した。この研究は、同センター病院臨床研究開発部の澤田泰宏部長、国立循環器病研究センタ

一、東京大学、東京農工大学、九州大学、国際医療福祉大学、関西学院大学、群馬大学、東北大学、大阪大学大学院医学系研究科、岩井医療財団、新潟医療福祉大学、所沢ハートセンターらの研究グループによるもの。研究成果は、「Nature Biomedical Engineering」に掲載され-----

## **老化しにくいハダカデバネズミ、老化細胞を除去する仕組み解明 熊大ら**

財経新聞 - 2023/7/15 <https://www.zaikei.co.jp/article/20230715/729575.html>

熊本大学、科学技術振興機構などは 11 日、ねずみの仲間で、非常に老化しにくいハダカデバネズミについて、その体内で老化細胞を除去する仕組みを解明したと発表した。モノアミン酸化酵素と呼ばれる酵素の働きによって、老化細胞が細胞死すると-----

## **資生堂、「純粋レチノール」が角層を柔軟化し、皮ふ表面から奥へのシワ進行を抑制する新機能を発見**

～シワの根本原因「2層の肌ギャップ」を進行させる角層硬化へ対応～

株式会社資生堂 - 2023/7/13

<https://corp.shiseido.com/jp/news/detail.html?n=00000000003654>

資生堂は、独自開発した「肌内外 3D 弾性イメージング技術※1」を活用し、角層が硬化すると、表情などで皮ふが動く際に真皮に加わるメカニカルストレス※2が増大し、シワの根本原因「2層(角層と真皮)の肌ギャップ」※3を進行させることを確認しました。また、シワを改善する効能効果が認められている有効成分「純粋レチノール」※4に角層柔軟化作用があることを見出し、皮ふ表面から奥へのシワの進行を防ぐ新たな機能があることを明らかに-----

## **日本メナード化粧品、藤田医科大学と 1000 人の肌を対象とした幹細胞の解析を実施！ ～ 見えてきた幹細胞を起源とする肌再生メカニズムの全体像 ～**

日本メナード化粧品株式会社 - 2023/7/20 <https://www.atpress.ne.jp/news/362789>

日本メナード化粧品株式会社(愛知県名古屋市中区丸の内 3-18-15、代表取締役社長：野々川 純一)は、藤田医科大学医学部(愛知県豊明市沓掛町田楽ヶ窪 1-98)と 2003 年より皮膚の幹細胞に関する共同研究を進めてきました。2018 年からは、同大学医学部応用細胞再生医学講座(教授：赤松 浩彦)及び皮膚科学講座(教授：杉浦 一充)に加えて名古屋大学大学院医学系研究科に開設したメナード協同研究講座や公的研究機関の協力を得て『1000 人の肌の幹細胞を解析するプロジェクト』を推進し、この度、目標とした 1000 人の肌を対象とした

幹細胞の解析を完遂しました。この解析から、幹細胞を起源とした私たちの肌の再生メカニズムの全体像を見出し-----

**以下の6件は、一般社団法人日本スポーツ栄養協会 公式情報サイト「スポーツ栄養 Web」掲載記事（2023年7月12日～25日）から選定したものです。**

## **運動習慣が慢性ストレスによる高血圧を予防する仕組みの一端を解明 視床下部の炎症抑制が鍵**

<https://sndj-web.jp/news/002342.php> (2023/7/12)

慢性的なストレスによる高血圧発症の予防に、運動が効果的であるとされるメカニズムの一部が明らかになった。順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科の研究グループの研究によるもので、米国生理学会の「Physiological Genomics」に論文が掲載されるとともに、同大学のサイトにプレスリリースが掲載され-----

## **味覚感度の数値化に成功、実用化すれば個人の味覚を客観的に評価できることが可能に**

<https://sndj-web.jp/news/002343.php> (2023/7/13)

味覚を受けとる遺伝子の解析と客観的・統計的な味覚検査を組み合わせることにより、個人の味覚感度を数値化することに成功したとする研究結果が報告された。大阪大学などの研究グループの研究によるもので、「Nutrients」に論文が掲載されるとともに、同大学のサイトにプレスリリースが掲載された。苦味を受けとる遺伝子のタイプによって、苦味の感度は大きく異なっていたと-----

## **硝酸塩がレジスタンス運動のパフォーマンスが向上させる可能性 いくつかの指標が有意に向上**

<https://sndj-web.jp/news/002346.php> (2023/7/17)

硝酸塩を摂取すると、男性においてレジスタンス運動のパフォーマンスが向上する可能性が報告された。システマティックレビューとメタ解析の結果として、評価指標の一部に有意な変化が認められたと-----

## **クレアチンによる疲労感の軽減、筋肉の張りや硬さの解消・回復促進をヒト対象試験で確認**

<https://sndj-web.jp/news/002358.php> (2023/7/20)

クレアチン摂取によって、運動後の疲労感が軽減され、筋肉の張りや硬さの解消、および筋力の回復が促進されるとする研究結果が、国内外の学会で発表された。いずれも、ヒトを対象とするプラセボ対照比較試験の結果。大正製薬発行の2報のニュースリリースを基に紹介-----

## **第8回「サッカーにおけるクレアチン摂取の有用性」**

<https://sndj-web.jp/news/002357.php> (2023/7/24)

サプリメントを安全かつ効果的に活用するには、サプリメントに関する正しい知識が不可欠です。本シリーズでは、スポーツサプリメントの代表格であるクレアチンについて、エビデンスに基づいた情報を取りまとめ、テーマ別にご紹介いたします。第8回は世界で最も愛されるスポーツである「サッカー」のパフォーマンスへのクレアチンの効果をご紹介致し---

## **日本人男性は“非肥満”でも、わずか6日の高カロリー高脂肪食でインスリン感受性が低下する**

<https://sndj-web.jp/news/002355.php> (2023/7/25)

肥満のない日本人男性では、わずか6日という短期間でも高脂肪食の負荷によって、脂肪肝・脂肪筋の傾向が強まり、それらの組織でのインスリン感受性が低下することが明らかになった。順天堂大学大学院代謝内分泌内科学・スポーツロジセンターの門脇聡氏、田村好史氏らの研究によるもので、「Journal of Clinical Medicine」に論文が掲載-----

## **■ その他の食品関連科学・技術情報**

### **ラトックシステムとハートコンピューター、「もろみ日誌クラウド」と「蔵内」を連携**

IoTNEWS - 2023/7/13 <https://iotnews.jp/digital-transformation/229517/>

### **岐阜大など、ワサビのゲノムを染色体レベルで解読することに成功**

マイナビニュース - 2023/7/14

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20230714-2727593/>

## ■ その他の科学・技術情報

### フローティングリニア技術が開く新たな可能性、パッケージ産業の変化の兆し

MONOist - 2023/7/19 <https://monoist.itmedia.co.jp/mn/articles/2307/19/news008.html>

2023年5月4~10日にドイツのデュッセルドルフで「interpack2023」が開催され、私の所属する B&R Industrial Automation も出展しました。幸運なことに私も日本から参加する機会に恵まれましたので、現場で感じた最新動向を2回に分けてレポートしたいと思います。今回は後編として、注目すべき革新的なシステムなどを取り上げ……

前編：「躍進するアダプティブマシン、世界最大級加工包装展示会で見た潮流と進化」

(2023/6/29) <https://monoist.itmedia.co.jp/mn/articles/2306/29/news006.html>

### 竹を素材に活用した紙容器を開発、バガスを配合し柔軟性を付与

MONOist - 2023/07/21 <https://monoist.itmedia.co.jp/mn/articles/2307/21/news086.html>

TAISEI は、「第18回 ライフスタイル Week【夏】」（2023年7月19~21日、東京ビッグサイト）内の「第3回【国際】サステナブルグッズ EXPO」に出展し、竹を素材に用いた紙「TAISEI バンブーパー（以下、バンブーパー）」と化粧品向けの紙製トレイ「ペーパープレス」を参考出品……

## ■ その他

*英文情報サイト Foodnavigator-asia に7月13日付けで、英文記事の和訳版が掲載されましたのでご紹介いたします。タイトルのクリックで記事本文が閲覧できます。*

[より健康的な選択: クリーンラベル、より健康的な子供向けスナック、妊娠糖尿病対策のための低GI値など](#)

[サステナビリティ抜粋: Kraft Heinz の APAC における ESG、ASEAN クライメート・スマート農業、ネット・ゼロ ビジネスセンス等](#)

[ASEAN フォーカス: Thai Coconut、シンガポールの SnackRight、ASEAN の持続可能な農業など](#)

[安全第一: FSSAI による食品不純物の取り締まり、FAO による APAC 食品供給の脆弱性、中国消費者の甘味料への不安など](#)

## ジャパン フォーカス：キリンとケロッグの機能性シリアル製品、メグミルクの植 物由来市場への参入、CRUST グループの日本での業績など

以上

### 健康食品等に関する 日本語記事情報（2023年8月号 No.1）

本文書では、インターネットの日本語記事情報から、（公財）日本健康・栄養食品協会  
学術情報部が独自の視点で皆様の事業遂行に役立つと判断したものをご紹介します。

（例：法令・行政情報、新製品・新分野の製品の企画開発及び研究開発のお役立ち情報、安  
全性確保の取組みに活用出来る情報、その他ビジネス環境変化に係る情報等）

**なお、記事の内容の正確性を当協会が保証するものではありません。また、特定の企業、  
食品素材・成分、製品などの情報が含まれる場合においても、当協会が支援・推進・推奨す  
るものではありません。**

英文記事情報については別途お送りいたします。

**記事によっては短期間でリンク切れになるものがあります。その点ご了  
承ください。**

#### ○ 記事一覧

**基本情報（記事見出し、出典・日付、URL）、冒頭文または記事のポ  
イントとなる部分（民間の情報源には了承を得た上で転載）を表示して  
おります。なお、基本情報のみで記事内容の把握が可能と思われる場合  
は基本情報のみとしております。**

#### ■ 安全性関連情報

#### [BfR]測定：ヘンプ茶浸出液に移行するカンナビノイドの量

食品安全情報 blog2 - 2023/8/1

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2023/08/01/165030>

**8月1日分の最初の太見出しです。**

## [BfR]新たな EFSA リスク評価：食品中の一部のミネラルオイル残留物は健康上の懸念が残る

食品安全情報 blog2 - 2023/8/7

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2023/08/07/172806>

*8月7日分の最初の太見出しです。リサイクルされた古紙で作られた食品包装材の食品接触面からミネラルオイルが溶出する問題。*

## [EFSA]意見等

### -生後 16 週未満の乳児用食品の食品添加物としての炭酸カルシウム(E 170)の再評価およびすべての年齢集団用食品に使用する食品添加物としての再評価のフォローアップ

食品安全情報 blog2 - 2023/8/4

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2023/08/04/173615>

## 食品安全情報（化学物質）No.16/2023（2023.8.02）

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2023/foodinfo202316c.pdf>

別添：<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2023/foodinfo202316ca.pdf>

- 別添 【BfR】
1. 食品中の甘味料 - 質問と回答
  2. 砂糖の代替品：ソフトドリンクに含まれる甘味料の量は？

*今回注目情報として挙げられていたのは次の見出しです。*

【WHO】 脂肪と炭水化物のガイドラインを更新

【EC、EFSA】 グリホサートについて

【別添 BfR】 食品中の甘味料 FAQ、ソフトドリンクに含まれる甘味料の量

*上記以外で気になった見出しは以下の通りです。*

【BfR】 3. 測定：ヘンプ茶浸出液に移行するカンナビノイドの量

*前出の「食品安全情報 blog2 - 2023/8/1」で紹介した見出しと同じトピック*

【FDA】 4. 特定の食品成分の市販後評価に関する FDA の更新情報

**全リスト**

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/index.html>

## ■ 表示、販売等に関する行政機関のアクション情報等

### 機能性表示食品に対する景品表示法に基づく措置命令を踏まえた食品表示法の対応について(情報提供)(別紙 1 含む)

消費者庁 - 2023/7/27

[https://www.caa.go.jp/policies/policy/food\\_labeling/foods\\_with\\_function\\_claims/assets/foods\\_with\\_function\\_claims\\_230727\\_0001.pdf](https://www.caa.go.jp/policies/policy/food_labeling/foods_with_function_claims/assets/foods_with_function_claims_230727_0001.pdf)

別紙 2 回答状況一覧(73 件)[PDF: 377KB]

[https://www.caa.go.jp/policies/policy/food\\_labeling/foods\\_with\\_function\\_claims/assets/foods\\_with\\_function\\_claims\\_230727\\_0002.pdf](https://www.caa.go.jp/policies/policy/food_labeling/foods_with_function_claims/assets/foods_with_function_claims_230727_0002.pdf)

### 沖縄特産販売株式会社に対する景品表示法に基づく課徴金納付命令について

消費者庁 - 2023/7/26 <https://www.caa.go.jp/notice/entry/034106/>

### 景品表示法に基づく法的措置件数の推移及び措置事件の概要の公表(令和 5 年 6 月 30 日現在)

消費者庁 - 2023/7/31 <https://www.caa.go.jp/notice/entry/024740/>

## ■ 行政・法令関連情報（その他）

### 第 1 回「日本人の食事摂取基準（2025 年版）」策定検討会 資料

厚生労働省 - 2023/7/31

### 「食品表示基準について」の一部改正について

消費者庁 - 2023/7/26

[https://www.caa.go.jp/policies/policy/food\\_labeling/food\\_labeling\\_act/#qa](https://www.caa.go.jp/policies/policy/food_labeling/food_labeling_act/#qa)

### アニマルウェルフェアに関する新たな指針の公表について

農林水産省 - 2023/7/26

[https://www.maff.go.jp/j/press/chikusan/c\\_sinko/230726.html](https://www.maff.go.jp/j/press/chikusan/c_sinko/230726.html)

## ■ 海外公的機関情報

以下の 28 件は、**食品安全委員会 食品安全総合情報システム**

(<https://www.fsc.go.jp/fsciis/>) の更新情報 (2023/8/2 確認) の中から、気になったものを選定しました。

[見出しのクリックで内容をご覧頂けます。](#)

11. [オーストリア保健・食品安全局\(AGES\)は、アスパルテームに関する情報を公表](#)
12. [世界保健機関\(WHO\)、脂質及び炭水化物に関するガイドラインを公表](#)
15. [国連食糧農業機関\(FAO\)、第 96 回 FAO/世界保健機関\(WHO\)合同食品添加物専門家会議\(JECFA\) のサマリー及び結論を公表 \(前半 1/2\)](#)
16. [国連食糧農業機関\(FAO\)、第 96 回 FAO/世界保健機関\(WHO\)合同食品添加物専門家会議\(JECFA\) のサマリー及び結論を公表 \(後半 2/2\)](#)
17. [世界保健機関\(WHO\)、アスパルテームのハザード及びリスク評価を報道発表](#)
18. [ドイツ連邦リスク評価研究所\(BfR\)、食品中の甘味料について、重要な Q&A を公表 \(2/3\)](#)
19. [ドイツ連邦リスク評価研究所\(BfR\)、食品中の甘味料について、重要な Q&A を公表 \(1/3\)](#)
20. [ドイツ連邦リスク評価研究所\(BfR\)、食品中の甘味料について、重要な Q&A を公表 \(3/3\)](#)
23. [コーデックス委員会\(Codex\)、アスパルテームに関する報告書の発行を受け、FAO/WHO 合同食品添加物専門家会議\(JECFA\)専門リスク評価機関の重要な役割が強化されると公表](#)
24. [米国食品医薬品庁\(FDA\)、「食品中のアスパルテーム及びその他の甘味料」と題するページを更新し、外部機関のアスパルテームの安全性評価に対する FDA の対応について公表](#)
25. [国際がん研究機関\(IARC\)、アスパルテーム、メチルオイゲノール、イソオイゲノールの発がん性評価に関する IARC モノグラフを公表](#)
26. [国際がん研究機関\(IARC\)、アスパルテームのハザード及びリスク評価結果が発表された旨を公表](#)
27. [ニュージーランド環境保護庁\(NZEPA\)、有害物質アップデート 2023 年 6 号 \(2023 年 6 月\)を公表](#)

31. [欧州連合\(EU\)、食品安全に関する規則等を官報で公表\(情報収集対象期間:2023年7月12日~7月18日\)](#)
32. [米国食品医薬品庁\(FDA\)、特定の食品成分の市販後評価に関するFDAの最新情報を公表](#)
41. [米国農務省\(USDA\)農業研究局\(ARS\)、科学者らは超加工食品を使用して健康的な食事パターンを構成したことを公表](#)
47. [世界保健機関\(WHO\)、健康及び環境の観点から見たレッドミートと加工肉に関する情報冊子を公表](#)
48. [論文紹介：「PFASと腎臓トランスポーターの相互作用がレビューされた」](#)
49. [英国毒性委員会\(COT\)、二酸化チタンのレビュー：追加エンドポイントに関するディスカッションペーパー\(TOX/2023/32\)を公表](#)
54. [欧州連合\(EU\)、食品安全に関する規則等を官報で公表\(情報収集対象期間:2023年7月5日~7月11日\)](#)
55. [米国食品医薬品庁\(FDA\)、優先度の高い食品プログラムのガイダンスのタイトル一覧を更新](#)
58. [欧州委員会\(EC\)保健衛生・食の安全総局\(DG SANTE\)、特定の新ゲノム技術によって生産された植物に関する新規則に対する提案の採択を公表 \(後半 2/2\)](#)
66. [英国毒性委員会\(COT\)、食品添加物としての二酸化チタン\(E171\)の安全性に関する第一次声明案 \(TOX/2023/33\)を公表](#)
68. [英国毒性委員会\(COT\)、コーデックス委員会の食物アレルギーの閾値に関する報告書の評価に関するディスカッションペーパー\(TOX/2023/35\)附属書 A を公表](#)
71. [英国毒性委員会\(COT\)、コーデックス委員会の食物アレルギーの閾値に関する報告書の評価に関するディスカッションペーパー\(TOX/2023/35\)を公表](#)
73. [世界保健機関\(WHO\)、食品マーケティングの有害影響から児童を保護するための政策の強化に関する新たなガイドラインを公表](#)
75. [ドイツ連邦消費者保護・食品安全庁\(BVL\)、亜鉛含有製品の分類に関する合同専門家委員会の意見書を公表](#)
76. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、EFSAのプロジェクト「食品中のアレルギーの検出と定量、及び食物アレルギーを持つヒトにおける最小誘発量」に関する外部委託機関の科学的報告書を公表](#)

## ■ 市場予測、動向（食品・健康食品全般）

### 機能的表示食品の人気成分と効果・ヘルスクレーム一覧 2023 年

株式会社 UOCC - 2023/7/26 「薬事法マーケティングの教科書調査」

<https://yakujihou-marketing.net/archives/4695>

(薬事法マーケティングの教科書トップ <https://yakujihou-marketing.net/> )

## ■ 具体的健康ニーズ・素材・成分、製品情報 (市場予測・動向等)

### リアル店舗に拡大、市場活況(特集：フェムケア・フェムテック)

健康メディア.com - 2023/8/7 [https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/17915](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/17915)

女性の健康をサポートする「フェムケア・フェムテック」分野の市場成長が続き、新規参入するサプリメントや化粧品企業が増えている。専用売場を設ける店舗も徐々に増え始め、売場の環境が整えば益々の成長が期待される。生理・PMS、妊娠サポート、更年期、冷え症・温活、貧血・骨粗鬆症対策といった製品が多く、機能的成分として、大豆イソフラボン、エクオール、ローヤルゼリー、米胚芽、マカ、麴抽出物、ザクロ、レッドクローバー、クランベリー、乳酸菌、ケラチン、植物性オイル、松樹皮エキス、葉酸—— など多様な素材が提案され……

### 一人ひとりの体調に合わせたサプリ利用(特集：医家向けサプリメント)

健康メディア.com - 2023/8/7 [https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/17912](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/17912)

健康食品やサプリメントの利用が進む医療機関。厚労省の「医療機関におけるサプリメント等の食品の販売を明確化する事務連絡」以降、サプリメントメーカーや製薬会社による医家向けサプリメントの製品開発が活発化。医療機関でも、従来の保険診療だけでは不十分な点を補完する目的でサプリメントを用いる機会が増えている。なかでも患者のニーズに合わせ、長い時間を掛けて治療に寄り添う医師が、サプリメントを利用するケースが多いと……

### 法改正により、健全な活用に期待(特集：CBD)

健康メディア.com - 2023/8/7 [https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/17908](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/17908)

健康食品・化粧品ともに注目成分の CBD。新規性と機能的性、体感性を有する原料として 2018 年頃からオイル、サプリメント、化粧品などに利用が進む。様々な機能的性を持ちながらも、違法成分の THC がつきまとうことから、常に麻薬のイメージと表裏一体に見られて

きた。実際、大手食品メーカーは、製品開発・販売共に慎重な姿勢が見受けられる。一方、ヨーロッパなどの CBD 先進国では、明確な成分規制を敷き、アンチドーピング機構の定めるドーピングリストからも除外。日本でも、原料サプライヤー、メーカーによる、トレーサビリティ、抽出技術、安全性検査などの努力が実結び健全な市場を形成しつつ……

## フレイル対策・生活習慣病予防・健康寿命延伸…オーラルヘルスケアに市場の注目集まる(特集：オーラルヘルスケア)

健康メディア.com - 2023/8/7 [https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/17906](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/17906)

フレイル対策の一丁目一番地と言われる口腔内のヘルスケアに注目が高まっている。食事による栄養補給はもちろん、ウイルス・細菌の侵入阻止、会話等コミュニケーションなど、口腔の果たす役割は大きい。最近では国民の 3 人に 2 人が歯周病とされる。なかでも高齢に伴い歯周病やドライマウス罹患者は増加する傾向にあり、口腔の虚弱性「オーラルフレイル」対策は喫緊の課題だ。さらに近年の研究では、う蝕（虫歯）と歯周病の口腔 2 大疾患が、糖尿病や心疾患、がん、アルツハイマー病などのトリガーになるとの研究も報告され、政府も健康寿命の延伸を実現する施策の 1 つとして「国民皆歯科検診」義務化に向けた検討を始めて……

## ■ 市場・企業動向、注目ビジネス情報

### 腸内環境層別化ビジネスがヘルスケアの新市場を創る！ 第 1 弾商品「Body Granola」の開発背景とは

ウェルネス総研レポート online - 2023/7/28 <https://wellnesslab-report.jp/2886/>

腸内環境の改善が免疫機能をはじめ、美容や健康の維持増進につながることで近年認識されつつあります。腸内環境を標的としたさまざまな商品が販売されている中で、今回お話を伺うのは、“自分自身の腸内環境に合った”ヘルスケアという新しい概念の商品について。“腸内デザイン市場”の創出を目指し、2015 年の創業当初からサイエンスを基盤とした層別化ヘルスケアの社会実装に向けた研究・事業開発を推進してきた株式会社メタジェン代表取締役社長 CEO の福田真嗣氏にお話を伺いました。腸内環境層別化情報を活用した商品開発の第 1 弾となる「Body Granola」（2023 年 4 月 25 日発売）の開発背景や、層別化ヘルスケアビジネスの展望や期待についてお話しいただき……

### 菌株レベルまで解析できる腸内細菌検査サービスが本格展開

MONOist - 2023/8/3 <https://monoist.itmedia.co.jp/mn/articles/2308/03/news019.html>

キリンホールディングス（キリン）は2023年7月18日、腸内細菌を最小単位の菌株レベルまで解析できる、腸内細菌検査サービス「MicroBio Me（マイクロバイオミー）」の本格展開を開始した。検査結果レポートは、医療機関を通じて通知される。同日時点での取り扱い医療機関は約60施設で、今後拡大していく計画-----

## **商品パッケージ刷新、ユニバーサルデザインの第三者認証を取得**

～「炊き込み御膳」8月1日（火）リニューアル発売～

～お客様に「伝わるデザイン」を追求～

江崎グリコ株式会社 - 2023/7/28

<https://www.glico.com/jp/newscenter/pressrelease/44409/>

江崎グリコ株式会社は2023年8月1日（火）、商品パッケージを刷新し、ユニバーサルデザインについて第三者による認証を受けた「炊き込み御膳」をリニューアル発売します。商品の「見やすく、わかりやすく、伝わりやすい」を追求し、一般社団法人ユニバーサルコミュニケーションデザイン協会（UCDA、東京都中央区）による第三者認証を国内の食品メーカーで初めて取得-----

## **■ 消費者意識等の調査・分析**

### **日本生協連、「節約と値上げ」の意識についてのアンケート、約61%が「ふだんの食事」を節約、昨年トップの「外食」より多い結果に**

マイライフニュース - 2023/7/27 <https://www.mylifenews.net/drink-food/25480/>

日本生活協同組合連合会（略称：日本生協連）は、今回組合員の「節約と値上げ」意識の調査結果を取りまとめた。その結果、約61%が「ふだんの食事」を節約。昨年トップの「外食」より多い結果になった。商品の値上がりによって「デザート・スイーツ・アイス」等の嗜好品の購入頻度を減らす傾向にもみられた。日用消耗品は価格の安さを重視する割合が増加。約6割が「ティッシュペーパー」の低価格を求めて-----

### **[30001] シリアル食品に関するアンケート調査（第2回）**

マイボイスコム - 2023年7月

[https://myel.myvoice.jp/products/detail.php?product\\_id=30001](https://myel.myvoice.jp/products/detail.php?product_id=30001)

## ■ 食品・食品成分の生理機能、健康関連科学情報

### 褐色脂肪細胞の鍵因子 NFIA が、エネルギー消費を促進し炎症も抑制— 東大

QLifePro 医療ニュース - 2023/7/27 <https://www qlifepro.com/news/20230727/nfia.html>

▼関連リンク・東京大学 プレスリリース

[https://www.h.u-tokyo.ac.jp/press/icsFiles/afieldfile/2023/07/25/release\\_20230725.pdf](https://www.h.u-tokyo.ac.jp/press/icsFiles/afieldfile/2023/07/25/release_20230725.pdf)

#### 脂肪細胞で NFIA を高発現させることは肥満や糖尿病の改善につながるのか？

東京大学は 7 月 25 日、「エネルギー消費の促進」に基づく肥満や糖尿病の治療標的として期待される褐色脂肪細胞の鍵因子として研究グループが以前同定した転写因子「nuclear factor IA (NFIA)」を脂肪細胞に高発現させた遺伝子改変マウスを作出。この NFIA がマウスの肥満や糖尿病を改善させることを明らかにしたと発表した。この研究は、同大保健・健康推進本部 平池勇雄助教と、同大大学院医学系研究科 山内敏正教授らの研究グループによるもの。研究成果は、「Proceedings of the National Academy of Sciences of the United States of America, PNAS」に掲載され-----

### サルコペニア、診断に有効なバイオマーカー候補を同定—長寿研ほか

QLifePro 医療ニュース - 2023/7/27

<https://www qlifepro.com/news/20230727/biomarkers-for-diagnosis-of-sarcopenia.html>

▼関連リンク・国立長寿医療研究センター プレスリリース

[https://www.ncgg.go.jp/ri/report/20230706\\_00.html](https://www.ncgg.go.jp/ri/report/20230706_00.html)

#### 従来は臨床測定値による診断、より正確な診断のために遺伝子レベルのマーカーを探索

国立長寿医療研究センターは 7 月 18 日、サルコペニア患者と健常者の血液を用いた網羅的な遺伝子発現データ (RNA シークエンシング) と臨床情報の統合解析から、歩幅と 3 つの遺伝子 (HERC5、S100A11、FLNA) がサルコペニア診断に有効なバイオマーカー候補であると同定したと発表した。この研究は、同研究センター研究所の重水大智部長らと広島大学大学院医系科学研究科循環器内科学の中野由紀子教授、古谷元樹大学院生らの研究グループによるもの。研究成果は、「Journals of Gerontology Series A biological sciences and medical sciences」に掲載され-----

### 高齢者の歩行安定性低下を「スマートシューズ」で検出できる可能性— 横浜市大ほか

QLifePro 医療ニュース - 2023/7/26

<https://www qlifepro.com/news/20230726/sarcopenia-walk.html>

▼関連リンク・横浜市立大学 ニュース

<https://www.yokohama-cu.ac.jp/res-portal/news/2023/20230724misawa.html>

### 日常生活レベルの歩行データから、転倒リスク指標を見いだせるか

横浜市立大学は7月24日、歩行指標を日常的に簡便に収集できる、感知型デバイス搭載靴（スマートシューズ）について歩行調査を行った結果を発表した。この研究は、同大附属病院救急科の三澤菜穂医師、西井基継講師らと、株式会社MTGの共同研究によるもの。研究成果は、日本老年医学会で発表-----

## フレイル指数のCFSとFIラボは異なる側面を評価、併用が有用な可能性—名大

QLifePro 医療ニュース - 2023/8/2

<https://www.qlifepro.com/news/20230802/cfs-fi-lab.html>

▼関連リンク・名古屋大学 プレスリリース

<https://www.nagoya-u.ac.jp/researchinfo/result/2023/07/post-540.html>

### 機能評価に基づくCFS、血液検査結果から算出のFIラボ

名古屋大学は7月27日、臨床フレイルスケール（CFS：Clinical Frailty Scale）とFIラボ（FI-lab：Frailty Index-laboratory）の2つのフレイル指数が、フレイルの異なる側面を評価している可能性について検討した結果を発表した。この研究は、同大医学部附属病院老年内科の中嶋宏貴講師、梅垣宏行教授らの研究グループによるもの。研究成果は、「Aging Clinical and Experimental Research」オンライン版に掲載され

## 炭水化物・脂質の極端な摂取や制限は、死亡リスクを高める恐れ 名古屋大学

大学ジャーナルオンライン - 2023/7/28 <https://univ-journal.jp/233277/>

名古屋大学の研究グループは、極端な炭水化物と脂質の摂取が日本人の「長期的な生命予後（寿命）」に影響を与える可能性を明らかに-----

日本多施設共同コホート研究による約8.1万人のおよそ9年間の追跡調査データを用いて、日本人の炭水化物・脂質の摂取量と死亡リスクとの関連を評価-----

## マウスのレム・ノンレム睡眠で脳幹脳波が逆の働き、北海道大学・東北大学

大学ジャーナルオンライン - 2023/8/3 <https://univ-journal.jp/233403/>

北海道大学大学院、東北大学・東北大学大学院の研究グループは、英国ストラスクライド大学と共同で、マウスのレム睡眠では脳幹脳波が記憶固定化に重要な海馬脳波と協調し、ノ

ンレム睡眠では海馬脳波を抑制していることを解明。記憶の固定化・消去のメカニズムの解明が期待-----

## **機能性食品の内臓脂肪低減機能と遺伝子多型との関連性を研究し論文として公開**

株式会社ジーンクエスト - 2023/7/26 <https://genequest.jp/topics/news/0/627>

株式会社ジーンクエスト（本社：東京都港区、代表取締役：岩田 修）はライオン株式会社（本社：東京都台東区、代表取締役兼社長執行役員：竹森 征之）と共同で、機能性食品の内臓脂肪低減機能と遺伝子多型との関連性について研究し、腸溶性ラクトフェリンの内臓脂肪低減機能に個人差が生じている要因として遺伝子多型が関与していることが示唆され、個々人の体質を理解することで機能性食品をより効果的に活用できる可能性が得られました。腸溶性ラクトフェリンの内臓脂肪低減機能の個人差と遺伝子多型との関連性を調査した研究は本研究が世界で初めてとなります。この成果は専門誌「Journal of Functional Foods」にて2023年7月9日に公開されました。また、2022年10月15日に第10回日本ラクトフェリン学会にて富田賞を受賞、2022年12月11日に第22回国際栄養学会議にてYoung investigator excellent abstract awardを受賞-----

## **細胞情報を伝達する「エクソソーム」と脳腸相関の関係**

ウェルネス総研レポート online - 2023/7/31 <https://wellnesslab-report.jp/2878/>

私たちの身体に備わるあらゆる細胞から分泌される「エクソソーム」。近年、細胞再活性や脳腸相関といったキーワードと共に、世界中から注目を浴びています。“細胞のメッセンジャー”ともいわれるエクソソームとは、どのような性質を持ち、いかなる活用が期待できるのでしょうか？研究が進むエクソソームについて、解説して-----

## **パナソニック HD、顔映像から脳の健康状態を見える化する「推定 BHQ」計測器を開発**

IoTNEWS - 2023/8/1 <https://iotnews.jp/medical-healthcare/230676/>

パナソニック ホールディングス株式会社 プロダクト解析センター（以下、プロダクト解析センター）は、一般社団法人ブレインインパクトの監修のもと、顔映像から脳の健康状態を示す BHQ（Brain Healthcare Quotient）を推定する計測器（以下、「推定 BHQ」計測器）を新たに開発-----

## 脳の老化の原因はニューロンの核が加齢で硬くなること？ 東大が確認

マイナビニュース - 2023/7/27

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20230727-2735632/>

## 大阪公大、ショウガ科「ケンチュール」から抗がん効果を確認

マイナビニュース - 2023/7/27

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20230727-2735559/>

## タマネギのケルセチンが軽度認知症などの改善に有効 岐阜大などが確認

マイナビニュース - 2023/7/28

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20230727-2736231/>

## 妊娠時の食物繊維摂取量が少ない母親の子は発達が遅れる傾向 山梨大の研究

マイナビニュース - 2023/7/28

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20230728-2736988/>

*以下の3件は、一般社団法人日本スポーツ栄養協会 公式情報サイト「スポーツ栄養 Web」掲載記事（2023年7月26日～8月8日）から選定したものです。*

## 食事と運動で脳の老化と認知機能低下をどこまで抑制できるか？ ナラティブレビュー

<https://sndj-web.jp/news/002352.php> (2023/7/27)

食事と運動が身体的健康の維持・向上に有用であることは確固たるエビデンスに裏付けられており、実際、それによる介入指導が臨床において重要なパートとして位置づけられている。では、脳の老化や認知機能はどうだろうか？ この点に焦点をあてたナラティブレビュー論文を紹介-----

## クレアチンと脳の健康を考察 認知機能や記憶力を改善？ うつや不安を軽減？

<https://sndj-web.jp/news/002364.php> (2023/8/2)

クレアチン摂取による脳の健康に及ぼす影響や、外傷性脳損傷または神経変性疾患の治療への応用の可能性を考察したナラティブレビュー論文の要旨を紹介する。長期間の高用量の摂取によって、脳のクレアチン貯蔵量が増加し、認知機能などに対して保護的な作用をもたらす可能性もあるとのことだ。米国、英国、カナダ、ノルウェーの研究者らによる-----

## 炭水化物・タンパク質の摂取量が多いほど体脂肪率が低くなりパフォーマンスが向上する

<https://sndj-web.jp/news/002371.php> (2023/8/8)

女子クロスカントリースキー選手を対象に、日常の栄養素摂取量およびトレーニング量と、体組成およびパフォーマンスとの関連を調査した、1年間の観察研究の結果が報告された。パフォーマンスを決定づける重要な因子はトレーニング量の多さ、および、体脂肪率が高くないことであり、体脂肪率は炭水化物やタンパク質の摂取量が少ないほど高いという関連が認められたという。著者は、「若年女性アスリートが体組成を修正しようとする際に、栄養摂取を制限するという方法は良い戦略ではないと考えられる」と-----

## ■ その他の食品関連科学・技術情報

### 硬水を噴霧化することで適度な硬度に軟化する手法を岐阜大が開発

マイナビニュース - 2023/7/28

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20230728-2737527/>

## ■ その他の科学・技術情報

### 花王が挑む水平リサイクル技術の実用化、環境問題の新たな解決策になるか?

マイナビニュース - 2023/7/27

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20230727-2735572/>

## ■ その他

### アサヒビール、生成 AI を用いた社内情報検索システムの試験導入を開始

IoTNEWS - 2023/7/27 <https://iotnews.jp/ai/230407/>

アサヒビール株式会社は、株式会社丹青社と連携し、日本マイクロソフト株式会社の Azure OpenAI Service が提供する生成 AI を用いた社内情報検索システムを、2023 年 9 月上旬から試験導入することを発表した。

このシステムは、丹青社が開発したシステム「saguroot」をもとにしており、社内で保有する資料やデータを一括で検索することが-----

## **【連載】ベンチャー巡訪記【全記事まとめ】**

Answer News - 2023/7/28 <https://answers.ten-navi.com/pharmanews/19621/>

製薬業界のプレイヤーとして存在感を高めるベンチャー。注目ベンチャーの経営者を訪ね、創業のきっかけや事業にかける想い、今後の展望などを語ってもらい-----

以上

## **健康食品等に関する**

### **日本語記事情報（2023 年 8 月号 No.2）**

本文書では、インターネットの日本語記事情報から、（公財）日本健康・栄養食品協会 学術情報部が独自の視点で皆様の事業遂行に役立つと判断したものをご紹介します。

（例：法令・行政情報、新製品・新分野の製品の企画開発及び研究開発のお役立ち情報、安全性確保の取組みに活用出来る情報、その他ビジネス環境変化に係る情報等）

**なお、記事の内容の正確性を当協会が保証するものではありません。また、特定の企業、食品素材・成分、製品などの情報が含まれる場合においても、当協会が支援・推進・推奨するものではありません。**

英文記事情報については別途お送りいたします。

**記事によっては短期間でリンク切れになるものがあります。その点ご了承ください。**

#### **○ 記事一覧**

**基本情報（記事見出し、出典・日付、URL）、冒頭文または記事のポイントとなる部分（民間の情報源には了承を得た上で転載）を表示しております。なお、基本情報のみで記事内容の把握が可能と思われる場合は基本情報のみとしております。**

## ■ 安全性関連情報

### 【BfR】ずっととどまる：食品や環境中のパー及びポリフルオロアルキル化合物（PFAS）

食品安全情報 blog2 - 2023/8/16

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2023/08/16/174623>

16日分の最初の太字見出しです。ドイツ連邦リスク評価研究所（BfR）による更新情報を、かなりのボリュームで紹介しています。

### 【BfR】食品中のミネラルオイル成分に関する Q&A

食品安全情報 blog2 - 2023/8/18

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2023/08/18/165011>

18日分の2番目の太字見出しです。リサイクルされた古紙で作られた食品包装材にミネラルオイル（印刷インクに含まれていることが多い）が残留しており、食品に移行する問題。この問題も10年以上前に海外情報（主として欧州）で目にしてから気になっておりましたが、最近急に目立つようになってきました。

### 食品安全情報（化学物質） No.17 (2023.08.16)

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2023/foodinfo202317c.pdf>

別添 <http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2023/foodinfo202317ca.pdf>

【BfR】ずっととどまる：食品や環境中のパー及びポリフルオロアルキル化合物（PFAS）

上の「食品安全情報 blog2 - 2023/8/16」でも取り上げられていますが、詳細はこちらをご覧ください。

本文の方で、今回注目記事として挙げられているのは以下の2件です。

【FDA】 FDA は食品中の部分水素添加油に関する最終行政措置を完了する

【別添 BfR】 ずっととどまる：食品や環境中のパー及びポリフルオロアルキル化合物

このほかで気になる見出しは以下の通りです（本号の「■ 海外公的機関情報」と一部重複）。

【EFSA】 欧州食品安全機関

4. カルシジオールー水和物の変換係数の導出を含む、ビタミン D の耐受上限摂取量に関する科学的意見

【FSAI】 アイルランド食品安全庁

1. 二酸化硫黄-亜硫酸塩(E 220-228)に関する欧州委員会のステークホルダー協議

【BfR】 ドイツ連邦リスク評価研究所

1. 新たな EFSA リスク評価：食品中の一部のミネラルオイル残留物は健康上の懸念が残る **前出の食品安全情報 blog2 - 2023/8/18 でも取りあげられています。**

**全リスト**

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/index.html>

## ■ 表示、販売等に関する行政機関のアクション情報等

**機能性表示食品に対する景品表示法に基づく措置命令を踏まえた食品表示法における対応について(情報提供)※随時更新**

消費者庁 - 2023/8/17

[https://www.caa.go.jp/policies/policy/food\\_labeling/foods\\_with\\_function\\_claims/index.html#info230817](https://www.caa.go.jp/policies/policy/food_labeling/foods_with_function_claims/index.html#info230817)

## ■ 行政・法令関連情報（その他）

**菌末を添加した調製粉乳に係る厚生労働大臣の承認の審査事項（案）に関する御意見の募集について**

e-Gov パブリック・コメント - 2023/8/16

<https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=495230131&Mode=0>

**「第 107 回コーデックス連絡協議会」の開催について**

消費者庁 - 2023/8/18 <https://www.caa.go.jp/notice/entry/034273/>

**食品安全委員会の 20 年を振り返る**

**第 4 回 「健康食品」は安全とは限らない～委員長らが異例の呼びかけ**

食品安全委員会委員 松永和紀

食品安全委員会 - 2023/8/17

[https://www.fsc.go.jp/iinkai/20shunen/04\\_kenkosyokuhin.html](https://www.fsc.go.jp/iinkai/20shunen/04_kenkosyokuhin.html)

## フードテック官民協議会ビジネスコンテストのエントリー受付を開始します！

農林水産省 - 2023/8/21 <https://www.maff.go.jp/j/press/shokuhin/kikaku/230821.html>

フードテック官民協議会の詳細

<https://www.maff.go.jp/j/shokusan/sosyutu/index.html>

## ■ 海外公的機関情報

### [EFSA]意見等

### -カルシジオールー水和物の変換係数の導出を含む、ビタミンDの耐容上限摂取量に関する科学的意見

食品安全情報 blog2 - 2023/8/9

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2023/08/09/181940>

上から2番目の太字見出しです。

### [FDA]FDAは食品中の部分水素添加油に関する最終行政措置を完了する

食品安全情報 blog2 - 2023/8/16

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2023/08/16/174623>

16日分の中ほどやや下の太字見出しです。本号の「■ 安全性関連情報」でご紹介している「食品安全情報（化学物質） No.17 (2023.08.16)」でも注目情報として挙げられています。

## ■ 市場予測、動向（食品・健康食品全般）

今回は、特に見当たりませんでした。

## ■ 具体的健康ニーズ・素材・成分、製品情報 (市場予測・動向等)

## 富士経済、タンパク補給食品の国内市場調査、2023 年見込では 2022 年比 2.4%増の 2580 億円に

<https://www.mylifenews.net/health-medical/26785/> (2023/8/10)

総合マーケティングビジネスの富士経済は、近年タンパク質摂取の理解が進み、プロテインブームにより大幅な拡大を遂げたタンパク補給食品 12 品目の国内市場を調査した。その結果を「タンパク補給食品市場 2023 有望カテゴリー将来予測とプロテインブームの今後」にまとめた。トピックスとしては、プロテインブームが一段落。今後の動きが注目される 2023 年見込のタンパク補給食品の国内市場は 2022 年比 2.4%増の 2580 億円と予測する。新規ユーザーの獲得が減少するため伸び率は鈍化するが、安定的に成長との見方を……

### ■ 市場・企業動向、注目ビジネス情報

今回は、特に見当たりませんでした。

### ■ 消費者意識等の調査・分析

## デロイト トーマツ グループ、2023 年度食生活に関する消費行動調査、食生活における価値観ではコスパと健康の意識が高まる

<https://www.mylifenews.net/drink-food/26954/> (2023/8/14)

デロイト トーマツ グループは、2023 年度「食生活に関する消費行動調査」を発表した。同調査では、値上げが相次ぐ中での消費者の食生活に関する価値観や消費実態の変化を捉えるために、5 月に全国の 20 歳～79 歳の男女 5000 人を対象に、WEB アンケートを実施した。「ライフスタイル・価値観」「食生活における価値観・重要視する点」「食品飲料関連の値上げに対する動向と今後の受容性」「免疫ケア食品・飲料や高たんぱく加工食品に代表される新商品・サービスの利用実績・今後の利用意向」等について調査を行い、消費行動を分析……

### ■ 食品・食品成分の生理機能、健康関連科学情報

## 脂肪燃焼する肥満薬候補を発見、G12 シグナルが褐色脂肪転換を促進—東北大ほか

QLifePro 医療ニュース - 2023/8/22

<https://www qlifepro.com/news/20230822/g12-signaling.html>

▼関連リンク ・東北大学 プレスリリース

<https://www.tohoku.ac.jp/japanese/2023/08/press20230821-01-g12.html>

#### 4種類のGタンパク質シグナルに分類されるGPCR、G12経路の研究は進んでいない

東北大学は8月21日、細胞における機能未解明の情報伝達経路であるG12シグナルを誘導できるデザイナーGタンパク質共役型受容体（デザイナーGPCR）を開発し、このデザイナーGPCRを脂肪細胞に発現する遺伝子組換えマウスを用いることで、通常はエネルギーを貯蓄するタイプの脂肪細胞（白色脂肪）からエネルギーを消費するタイプの脂肪細胞（褐色脂肪）への転換をG12シグナルが促進することがわかったと発表した。この研究は、同大学院薬学研究科の井上飛鳥教授、小野雄基大学院生（研究当時）、医学系研究科の酒井寿郎教授、ドイツ・ハイデルベルク大学のRobert B.Russell教授らの研究グループによるもの。研究成果は、「Signal Transduction and Targeted Therapy」に掲載……

#### グアーガム分解物のセカンドミール効果 朝・昼の摂取で夕食時の食後血糖値の上昇を抑制 第10回日本時間栄養学会学術大会で発表

～東京工業大学・広島大学・太陽化学らによる研究グループが検証～

太陽化学株式会社 - 2023/8/17

<https://www.taiyokagaku.com/uploads/2023/08/1caccb29b6f2e66f4cbd67c8b279781e.pdf>

東京工業大学 リベラルアーツ研究教育院 高橋 将記准教授、広島大学大学院 医系科学研究科 田原 優准教授、太陽化学株式会社(本社:三重県四日市市、代表取締役社長:山崎長宏)らによる研究グループは、グアーガム分解物のセカンドミール効果として、朝食・昼食時の摂取による夕食時の食後血糖値の上昇抑制作用を明らかにし、第10回日本時間栄養学会学術大会で発表し……

#### 麻布大学、ポリヒドロキシ酪酸による脂質異常症抑制作用を解明

大学プレスセンター - 2023/8/21 <https://www.u-presscenter.jp/article/post-51320.html>

麻布大学は、東京工科大学、アニコム先進医療研究所株式会社、日本ペットフード株式会社との共同研究により、生分解性ポリエステル的一种であるポリヒドロキシ酪酸（PHB）が、腸内細菌叢において酪酸菌などの有益細菌の増加を促進し、肥満マウスモデルの脂質異常症を改善することを明らかに……

#### 柿渋を含む飴を舐めることで新型コロナ患者の口腔内ウイルスが不活化

マイナビニュース - 2023/8/17

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20230817-2750457/>

## 和歌山県立医科大など、リノール酸が血糖値の上昇を穏やかにすることを発見

マイナビニュース - 2023/8/18

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20230818-2751245/>

## 白麹菌が肌の老化を加速させる糖化を抑制する？ 研究者に聞いた驚くべき効果

マイナビニュース - 2023/8/22

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20230822-2746723/>

*以下の5件は、一般社団法人日本スポーツ栄養協会 公式情報サイト「スポーツ栄養 Web」掲載記事（2023年8月9日～22日）から選定したものです。*

## 外因性ケトosisによって高強度トレーニング後の睡眠の質が改善する

<https://sndj-web.jp/news/002373.php> (2023/8/10)

ケトン体を摂取し外因性にケトosis状態とすることが、高強度トレーニングに伴う睡眠の質の低下を抑制する可能性が報告された。サイクリスト対象の無作為化クロスオーバー試験の結果であり、米国スポーツ医学会の「Medicine and Science in Sports and Exercise」に論文が掲載……

## サルコペニア肥満への栄養・運動介入のエビデンス アンブレラレビューの報告

<https://sndj-web.jp/news/002385.php> (2023/8/15)

サルコペニア肥満への栄養や運動による介入効果を検討した研究のメタ解析を統合した、アンブレラレビュー論文が報告された。レジスタンス運動の有用性が確認された一方、肥満の解消を意図した低カロリー食は、この病態に対する有用性がみられなかったと……

*前号（8月号 No.1）でご紹介した研究ですが、詳しく解説されていますのであらためて取り上げました。*

## 炭水化物や脂質の極端な摂取は寿命に影響を与える 日本人 8.1 万人を 9 年間追跡

<https://sndj-web.jp/news/002386.php> (2023/8/16)

炭水化物や脂質の摂取量が極端な食習慣が、長期的な生命予後（寿命）に影響を与えると  
する研究結果が報告された。低炭水化物食の推奨や高脂質食の制限は、必ずしも良いとは言  
えない可能性があるという。名古屋大学の研究グループの研究によるもので、「The  
Journal of Nutrition」に論文が掲載されるとともに、同大学のサイトにプレスリリースが  
掲載された。研究者らは、「将来の死亡リスクを考えるうえで食事バランスの重要性が示唆  
される」と述べて-----

## タウリンの無酸素運動パフォーマンスにおける急性効果をエリートスピー ードスケート選手で確認

<https://sndj-web.jp/news/002387.php> (2023/8/17)

タウリン摂取が運動パフォーマンスに対して急性効果を発揮する可能性を示唆するデータ  
が報告された。トルコのオリンピック候補であるエリートレベルのスピードスケート選手対  
象研究の-----

## 汗の乳酸濃度を長時間安定して測定可能な非侵襲バイオセンサーを開発 東京理科大

<https://sndj-web.jp/news/002402.php> (2023/8/22)

東京理科大学の研究グループは、汗の乳酸濃度を長時間安定して測定可能なバイオセンサ  
ーを開発したことを発表した。研究の成果が米国化学会の「ACS Sensors」に論文掲載され  
るとともに、同大学のサイトにプレスリリースが掲載された。測定誤差の原因となる気泡を  
トラップする機構をマイクロ流体デバイス内に設けることで、測定への影響を抑えることに  
成功し、従来よりも安定的に乳酸濃度を測定することができるため、長時間のトレーニング  
やコンディション管理に有用なウェアラブルデバイスとしての応用が期待-----

## ■ その他の食品関連科学・技術情報

### 魚肉の鮮度を半導体センサーがニオイで判定、生食加熱などの品質を客 観的に保証

MONOist - 2023/8/22 <https://monoist.itmedia.co.jp/mn/articles/2308/22/news071.html>

産業技術総合研究所（以下、産総研）は2023年8月21日、函館地域産業振興財団 北海  
道立工業技術センターとの共同研究により、半導体センサーによってニオイから養殖ブリ魚  
肉の鮮度を判定する技術を開発したと発表した。魚肉を採取することなく鮮度を判定できる  
非破壊検査によって、生食用と加熱用などの品質を客観的に保証することが可能になる。今

後は他の魚肉での検証を進めるとともに、魚介類の干物などの熟成度合いをモニタリングする用途への適用なども検討-----

## ■ その他の科学・技術情報

今回は、特に見当たりませんでした。

## ■ その他

英文情報サイト *Foodnavigator-asia* に 8 月 17 日付けで、英文記事の和訳版が掲載されましたのでご紹介いたします。タイトルのクリックで記事本文が閲覧できます。

[チャイナ フォーカス:F&B ブランドが中国で成功する方法、CBEC サプライチェーンの苦境、Fonterra の新ベンチャー部門、他](#)

[スタートアップスポットライト: Otis Oat Milk、CRUST Group、SnackRight](#)

[今が旬:PepsiCo APAC アクセラレーター、マレーシアの乳製品規制、精密発酵開発](#)

[ポリシー ピック:EU 森林伐採規制の明確化、韓国の表示ガイドライン、ベトナムの新しい栄養表示ルール等](#)

[ジャパン フォーカス:キリンの低カロリープロバイオティクス飲料、輸出の可能性を探る濱田酒造、味の素の研究、遺伝子組み換え食品データなど](#)

[安全第一:福島原発事故を契機とした韓国のキャンペーン、オーストラリアのアルコール妊娠表示、インドの食品安全指数](#)

以上

## 健康食品等に関する 日本語記事情報 (2023 年 9 月号 No.1)

本文書では、インターネットの日本語記事情報から、(公財)日本健康・栄養食品協会 学術情報部が独自の視点で皆様の事業遂行に役立つと判断したものをご紹介いたします。

(例：法令・行政情報、新製品・新分野の製品の企画開発及び研究開発のお役立ち情報、安全性確保の取組みに活用出来る情報、その他ビジネス環境変化に係る情報等)

なお、記事の内容の正確性を当協会が保証するものではありません。また、特定の企業、食品素材・成分、製品などの情報が含まれる場合においても、当協会が支援・推進・推奨するものではありません。

英文記事情報については別途お送りいたします。

記事によっては短期間でリンク切れになるものがあります。その点ご了承ください。

## ○ 記事一覧

基本情報（記事見出し、出典・日付、URL）、冒頭文または記事のポイントとなる部分（民間の情報源には了承を得た上で転載）を表示しております。なお、基本情報のみで記事内容の把握が可能と思われる場合は基本情報のみとしております。

## ■ 安全性関連情報

### [TGA]ターメリックまたはクルクミンを含む薬 - 肝障害のリスク

食品安全情報 blog2 - 230823 <https://uneyama.hatenablog.com/entry/2023/08/23/173817>

23日分の中ほどの太字見出しです。オーストラリア政府サイト（Therapeutic Goods Administration：TGA）情報。

### 食品安全情報（化学物質）No. 18/ 2023（2023. 8. 30）

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2023/foodinfo202318c.pdf>

全リスト

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/index.html>

## ■ 表示、販売等に関する行政機関のアクション情報等

今回は、特に見当たりませんでした。

## ■ 行政・法令関連情報（その他）

今回は、特に見当たりませんでした。

## ■ 海外公的機関情報

### タイ FDA、GMP 証明書の事前登録で通関業務を迅速化（タイ）

ジェトロ（日本貿易振興機構） - 2023/8/25

<https://www.jetro.go.jp/biznews/2023/08/017aec72752cc554.html>

### 【ウェビナー】欧州（EU）の食品規制の基本

ジェトロ（日本貿易振興機構） - 2023/8/25

<https://www.jetro.go.jp/events/myz/d0df85cbd04e2d79.html>

### 米 FDA、化粧品現代化規制法（MoCRA）施行に向けパブコメ募集（米国）

ジェトロ（日本貿易振興機構） - 2023/8/25

<https://www.jetro.go.jp/biznews/2023/08/15e6870f81ff1dc1.html>

以下の 8 件は、食品安全委員会 食品安全総合情報システム

(<https://www.fsc.go.jp/fsciis/>) の更新情報 (2023/8/23 確認) の中から、気になったものを選定しました。

[見出しのクリックで内容をご覧頂けます。](#)

[前号 \(8月号 No.2\) の「■安全性情報」で取り上げたものと一部重複があります。](#)

[3. 米国食品医薬品庁\(FDA\)、食品中の部分水素添加油\(PHOs\)に対する最終行政措置を完了したと公表](#)

[4. 欧州食品安全機関\(EFSA\)、カルシジオール水和物に対する換算係数の導出を含む、ビタミンDに対する耐容上限摂取量に関する科学的意見書を公表](#)

[30. ドイツ連邦リスク評価研究所\(BfR\)、食品中のミネラルオイル成分に関する Q&A を更新 \(前半 1/2\)](#)

[31. ドイツ連邦リスク評価研究所\(BfR\)、食品中のミネラルオイル成分に関する Q&A を更新 \(後半 2/2\)](#)

[46. ドイツ連邦リスク評価研究所\(BfR\)、欧州食品安全機関\(EFSA\)の新たなリスク評価「食品に残留するミネラルオイルの一部は依然として健康への懸念がある」に関する情報を公表](#)

[47. 欧州食品安全機関\(EFSA\)、16 週齢未満の乳児用食品中の食品添加物としての炭酸カルシウム\(E170\)の再評価、及び全人口集団用の食品中に使用する食品添加物としての炭酸カルシウムの追跡調査に関する科学的意見書を公表](#)

[59. 欧州食品安全機関\(EFSA\)、「コリンと、胎児及び母乳だけで育てられた乳児の正常な肝機能への寄与」に関する科学的意見書\(欧州議会及び理事会規則\(EC\)No 1924/2006 第 14 条に準拠した健康強調表示の評価\)を公表](#)

[88. ドイツ連邦リスク評価研究所\(BfR\)は、ヘンプ\(Hanf:麻\)茶の煎じ茶に含まれるカンナビノイドの量の再測定に関する情報を公表](#)

## ■ 市場予測、動向（食品・健康食品全般）

今回は特に見当たりませんでした。

## ■ 具体的健康ニーズ・素材・成分、製品情報 （市場予測・動向等）

[エビデンス充実、フェムケア市場に商機あり（特集：スーパーフルーツ）](#)

健康メディア.com - 2023/8/22 [https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/17986](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/17986)

「天然ビタミン・ミネラル」「抗酸化機能」をキーワードに市場を形成してきたスーパーフルーツは、米国市場でブレイクしてから10年以上の時が経った。日本市場では、サプライヤー各社がフルーツの“ヘルシーイメージ”に依存することなく、高血圧予防、体脂肪減少、アイケア、血流改善、冷え対策、糖質対策などの多彩な機能性を解明してきた。それら

の研究成果は、アマラ、マキベリー、パッションフルーツ、ライチ、カシス、ビルベリーなど、スーパーフルーツを主原料とする多種多様な機能性表示食品の受理に繋が-----

## 「運動パフォーマンス」「疲労感軽減」「快眠」等、エビデンスベースの提案活発（特集：アミノ酸）

健康メディア.com - 2023/8/22

[https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/17984](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/17984)

スポーツ時の栄養補給や疲労回復などで活用されているアミノ酸は、「BCAA」「EAA」などのプレミックス製品のほか、複数の活力成分を混合した製品が好調に推移している。新商品は今年、コンビニのセブンイレブンから「ウェルビーイング」をテーマとする商品も登場。時間栄養学に基づく取り組みもみられはじめた。機能性表示食品は835品目の届出が受理されており、サプリメントのみならず菓子類の商品化も目立つ。5-ALAは今年7月、ソフトキャンディでの届出が受理-----

## 新油市場 300 億円、家庭用の“サプリ的オイル”活用が伸長(ZOOM UP：注目の植物油)

健康メディア.com - 2023/8/22

[https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/17977](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/17977)

アマニ油、シソ・エゴマ油、米油、MCTオイルを中心とした「新油」の市場が拡大している。大豆、菜種を中心に世界的な原料価格の高騰が続く植物油市場では、大手各社による価格改定を強いられ、売上増も業務用の需要減となるなど苦戦が続く。こうした中、家庭用の「サプリ的オイル」の市場拡大が続いている。アマニ油では、抗メタボやダイエット系だけでなく美肌訴求の新たな機能性表示食品も8月に登場。フレイル関連など新たな機能性の追求、化粧品原料への新展開といった取り組みが-----

## アフターコロナの注目成分 大手採用続き、トレンドの兆し（特集：HMB-Ca）

健康メディア.com - 2023/8/22

[https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/17973](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/17973)

筋肉の合成作用の促進、分解作用の抑制、さらには脂肪減少作用などの作用から、ボディメイク目的に話題を呼んだHMB-Ca。近年の筋トレブームから、プロテイン以上に効果が期待されるとして認知も年々広がっている。一方で、高齢者のロコモフレイル対策としての利用も拡大。特にコロナ禍での運動不足などから、筋肉の衰えを自覚する消費者が増加。こ

うした背景から HMB-Ca はアフターコロナにおける大注目成分として業界から関心が寄せられている。実際、今年に入り味の素、キリンホールディングスが「HMB-Ca」を配合した機能性表示食品を上市。相次ぐ大手の採用により、再びトレンドの兆し-----

## コリン補給剤として 世界的ニーズ (特集: $\alpha$ -GPC)

健康メディア.com - 2023/8/22

[https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/17971](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/17971)

「 $\alpha$ -GPC」は、脳サポートの有効性が知られるほか、成長ホルモンを促進する作用から子供向けサプリとして利用されている。近年ではスポーツ時における集中力の向上や、俊二の判断力を助けるとしてスポーツニュートリションへの採用も増加している。最新の研究では日油が e スポーツのパフォーマンスを向上させるという研究成果を発表。新たな利用拡大が期待させる。また、 $\alpha$ -GPC はコリンの前駆体でもあるため、不足しがちなコリン補給を目的とした用途として世界的に利用されており、国内でも注目が-----

## 【別冊エイジングケア】ウェルビーイングをテーマに健食・コスメ脚光

健康メディア.com - 2023/9/4 [https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/18075](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/18075)

令和4年10月1日時点の総務省「人口統計」によると、日本の総人口は1億2,495万人。その内65歳以上の人口は3,624万人で、高齢者の総人口に占める割合は29%となった。2025年には30%を超えることが予想されている。高齢者の増加に伴い、年金や社会保険料など現役世代への負担は、年々膨らみ続けている。15歳~64歳の生産年齢人口が1人の高齢者を支えるのに掛けられる人数は2.1人となり、高齢者1人を4人で支えていた2000年と比べ半減したことになる。医療費の削減が日本の課題となって久しく、その対策の一つとして健康長寿の延伸に産学官挙げて取り組んでいる。こうした中、健康産業の役割は大きく、健食および化粧品業界では、エイジングケア向けの製品開発が活況を呈している。実際、美容に関する機能性表示食品の受理数は増加傾向で、化粧品分野でも幹細胞培養液やNMN、その他新規成分の化粧品の上市が目立つように-----

## ■ 市場・企業動向、注目ビジネス情報

今回は、特に見当たりませんでした。

## ■ 消費者意識等の調査・分析

### [30103] プラントベースフードに関するアンケート調査 (第2回)

マイボイスコム - 2023年8月

[https://myel.myvoice.jp/products/detail.php?product\\_id=30103](https://myel.myvoice.jp/products/detail.php?product_id=30103)

## ■ 食品・食品成分の生理機能、健康関連科学情報

### インスリン抵抗性に関連するヒト腸内細菌の網羅的解析

— 腸内細菌を利用した糖尿病の治療介入につながる成果 —

理化学研究所 - 2023/8/31 [https://www.riken.jp/press/2023/20230831\\_1/index.html](https://www.riken.jp/press/2023/20230831_1/index.html)

東京大学

医薬基盤・健康・栄養研究所

日本医療研究開発機構

神奈川県立産業技術総合研究所

理化学研究所（理研）生命医科学研究センター 粘膜炎システム研究チームの大野 博司 チームリーダー（神奈川県立産業技術総合研究所（KISTEC）腸内細菌叢プロジェクト プロジェクトリーダー（研究当時））、窪田 哲也 上級研究員（研究当時、医薬基盤・健康・栄養研究所（NIBIOHN）国立健康・栄養研究所臨床栄養研究部長（研究当時）、KISTEC 腸内細菌叢プロジェクト サブリーダー（研究当時））、竹内直志特別研究員（研究当時）、理研統合生命医科学研究センター（研究当時）の小安 重夫 センター長（研究当時、現 理研生命医科学研究センター 免疫細胞システム研究チーム チームリーダー）、東京大学医学部附属病院 糖尿病・代謝内科の門脇 孝 教授（研究当時）、同病態栄養治療センター 病態栄養治療部の窪田 直人 准教授らの共同研究グループは、2型糖尿病の基盤であるインスリンの働きが悪くなる「インスリン抵抗性」に関連する特徴的な腸内細菌および糞便代謝物を特定-----

### マクロファージによる炎症反応収束に「硫黄代謝」活性化が重要と判明 — 東北大ほか

QLifePro 医療ニュース - 2023/8/23 <https://www qlifepro.com/news/20230823/xct.html>

▼関連リンク・東北大学 プレスリリース

<https://www.tohoku.ac.jp/japanese/2023/08/press20230822-02-macrophage.html>

#### 炎症の収束に関わる代謝パスウェイは？

東北大学は8月22日、マクロファージによる炎症反応の収束には「硫黄代謝」の活性化が鍵となることを明らかにしたと発表した。この研究は、同大学院医学系研究科の武田遥奈大学院生、加齢医学研究所環境ストレス老化研究センターの村上昌平助教、遺伝子発現制御分野の関根弘樹講師、本橋ほづみ教授らの研究グループと、熊本大学大学院生命科学研究部微生物学講座の澤智裕教授、九州大学生体防御医学研究所附属高深度オミクスサイエンス

センターの馬場健史教授、新潟大学医学部保健学科の佐藤英世教授、東北大学大学院医学系研究科環境医学分野の赤池孝章教授との共同研究によるもの。研究成果は、「Redox Biology」に掲載され-----

## **健常者の「うつ気分」の変化を客観的に測れる脳波活動を発見ー筑波大**

QLifePro 医療ニュース - 2023/9/5 <https://www.qlifepro.com/news/20230905/prr.html>

▼関連リンク・筑波大学 TSUKUBA JOURNAL

<https://www.tsukuba.ac.jp/journal/medicine-health/20230904180000.html>

### **脳波からうつ病の早期発見に成功した例はなかった**

筑波大学は9月1日、健常者のうつ度を推定可能な脳波活動を発見したと発表した。この研究は、同大システム情報系の森田昌彦教授らの研究グループによるもの。研究成果は、「Scientific Reports」に掲載され-----

## **大麦β-グルカンおよびアラビノキシラン抽出物の単回投与は腸内発酵を介してセカンドミール時の血糖値を低下させる**

-科学雑誌『Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry』掲載-

株式会社はくばく - 2023/8/22 <https://www.hakubaku.co.jp/news/540/>

株式会社はくばくは、大妻女子大学家政学部青江誠一郎教授との共同研究により、動物モデルで初めて大麦由来のβ-グルカン、アラビノキシランの単回摂取によるセカンドミール時の血糖値低下について明らかにしました。

なお、本研究成果は科学雑誌『Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry』（Biosci Biotechnol Biochem. 2022 Oct 28; zbac171）に掲載-----

## **シールド乳酸菌®の摂取が健常成人男女の体調を維持**

### **“健康力をサポートする”をキーワードに選抜されたシールド乳酸菌®の効果を確認 ～科学雑誌『Nutrients』掲載～**

森永乳業株式会社 - 2023/8/24

<https://www.morinagamilk.co.jp/release/newsentry-4274.html>

森永乳業では、このたび、山口県・山口市、やまぐちヘルスラボとの産官連携で臨床試験を実施し、シールド乳酸菌®（Lacticaseibacillus paracasei MCC1849）の摂取が、健常成人男女の鼻づまり、のどの痛みといった局所症状や、局所および熱っぽさなどの全身症状を含め総合的に解析した風邪様症状の自覚症状を緩和することを確認しました。本研究結果がNutrients誌に掲載されましたので、ご報告-----

## **国内初、脳科学に基づくごま油の香りの 効果・効用に関する研究結果を発表** ～ごま油の香りは食欲増進や記憶形成に効果的である可能性を示唆～

竹本油脂株式会社、株式会社NTTデータ経営研究所 - 2023/8/28

<https://www.nttdata-strategy.com/newsrelease/230828/>

竹本油脂株式会社(本社：愛知県蒲郡市、代表者：竹本 元泰、以下 竹本油脂)、株式会社NTTデータ経営研究所(本社：東京都千代田区、代表取締役社長：山口 重樹、以下 NTTデータ経営研究所)は、脳科学的なアプローチに基づいてごま油の香りが食欲や空腹感、記憶などに与える効果を検証する国内初(※当社調べ)の実験を実施しましたのでお知らせ……

## **ローズヒップ由来ティリロサイドによる脂質異常症予防作用の可能性が明らかに** 「日本生薬学会 第69回年会」において発表

大学プレスセンター - 2023/8/30 <https://www.u-presscenter.jp/article/post-51379.html>

森下仁丹株式会社(本社：大阪市、代表取締役社長 森下雄司、以下「当社」)は、近畿大学薬学総合研究所・同大アンチエイジングセンター(本部：東大阪市、学長 細井美彦)の森川敏生教授との共同研究において、当社の独自素材であるローズヒップエキスに含まれるティリロサイドに、高脂血症などの脂質異常症を予防する働きがあることを明らかにしました。この成果について、2023年9月9日(土)～10日(日)に東北医科薬科大学で開催される「日本生薬学会 第69回年会」にて発表……

## **資生堂、エクトインがメラトニン合成を促進し 肌の免疫機能強化へと導く可能性を発見**

～肌の免疫リズムに着目したアプローチで過酷環境にも揺らがない健やかな肌へ～

株式会社 資生堂 - 2023/8/22

<https://corp.shiseido.com/jp/news/detail.html?n=00000000003680>

資生堂は、抗酸化・抗炎症効果を有するホルモン「メラトニン」の肌での合成が夜間に高まること、そして、「エクトイン」が、肌におけるメラトニン合成酵素遺伝子の発現を促進することを発見しました。メラトニンは脳だけではなく肌でも合成され、紫外線や活性酸素などのダメージから肌を守ることが知られています。これらのことから、夜間に合成が高まるメラトニンの合成が促進されることで、ダメージ因子と戦う「肌の免疫機能」の強化が期待できます。

本研究成果は、肌の免疫リズムに着目した新たなスキンケアの価値創造に向けて応用し、お客さま一人ひとりの美しさを引き出し、健やかな肌を守り抜くことを目指し……

## **角層細胞のうるおい状態を可視化する新技術を開発**

～うるおい状態の経時的な測定や、異なる製剤間でのうるおい状態の比較が可能に～

花王株式会社 - 2023/8/23

<https://www.kao.com/jp/newsroom/news/release/2023/20230822-002/>

花王株式会社（社長・長谷部佳宏）解析科学研究所・スキンケア研究所は、粘着テープで採取した肌の角層を顕微 ATR-IR イメージング法\*1 を用いて解析した結果、角層細胞ひとつひとつのうるおい状態を画像として捉えることに成功しました。さらに、角層細胞のうるおい状態を数値化し、定量的に比較できるようになりました。これにより、角層細胞そのもののうるおい状態の経時変化や、異なる製剤間でのうるおい状態の違いがわかるようになりました。今後、角層細胞のうるおい状態を解析する新たな技術として、化粧品の開発に応用-----

## **サンスター、化学物質の皮膚感作性を定量的に予測する AI を独自に開発** **～第 50 回日本毒性学会学術年会にて発表～**

サンスターグループ - 2023/8/24

<https://www.sunstar.com/jp/newsroom/news/20230821/>

サンスターグループ（以下、サンスター）は、化学物質が皮膚に接触した場合にアレルギー反応を引き起こすリスクを評価する試験（皮膚感作性試験）において、アレルギーが誘発される強度を予測する AI を独自に開発しました。皮膚感作性は従来、動物実験によって評価されてきました。しかし近年では、動物愛護の観点から、動物を使用しない試験方法の開発が強く求められています。今回開発した AI では、動物実験を実施せずに化学物質の皮膚感作性強度を予測することができます。

本研究成果を、「第 50 回日本毒性学会学術年会」（2023 年 6 月 19 日（月）～6 月 21 日（水）、於：パシフィコ横浜）にて発表-----

## **大阪公大、検査時間を 2 日から約 1 時間に短縮する食品の細菌検査技術を開発**

マイナビニュース - 2023/8/29

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20230829-2760228/>

## **老化治療の最先端「セノリティクス」で健康寿命はどこまで延びるか**

ウェルネス総研レポート online - 2023/8/30 <https://wellnesslab-report.jp/2929/>

今、世界が注目する「セノリティクス」とは、老化細胞除去という意味です。薬品などによって老化細胞を除去し、老化を防止・遅延させれば老化によって起きるさまざまな病気の予防や改善につながるのではないかと考えられています。こうした考えの下、東京大学医科学研究所所長で癌防御シグナル分野の中西真（なかにし・まこと）教授は研究を進め、老化細胞を選択的に除去する「GLS1 阻害薬」が加齢現象や病気を改善することを証明。新たなアンチエイジング療法の開発に貢献することが期待され-----

## 体内の炎症状態に影響を与える食事性炎症指数「DII」とは

ウェルネス総研レポート online - 2023/8/30 <https://wellnesslab-report.jp/2907/>

軽度であっても慢性的な炎症は、様々な疾患の発症リスクとなることが分かっています。食が体内の炎症状態に与える影響を評価する指標である食事性炎症指数 DII は、国外では検証を終えているのに対し、日本ではまだ妥当性が明らかにされていません。今回は DII とは何か、開発の背景や捉え方について解説-----

## 食品産業以外にも注目する新しい概念「ガットフレイル」とは

ウェルネス総研レポート online - 2023/8/31 <https://wellnesslab-report.jp/2917/>

現代の日本人は、機能性ディスペプシアや便秘などの胃腸にフレイルを抱える人が非常に多いと言われています。しかし、検査や診断によって器質的な異常が指摘されなければ治療対象とはならず、本来のパフォーマンスが得られぬまま日常を過ごす人がいるのも事実です。こうした、“胃腸の虚弱性”を「ガットフレイル」と名付け、その身体的社会的影響の大きさに警鐘を鳴らしている京都府立医科大学の内藤 裕二教授に、「ガットフレイル」を提唱された目的、「ガットフレイル研究会」の概要などについて伺い-----

**以下の2件は、一般社団法人日本スポーツ栄養協会 公式情報サイト「スポーツ栄養 Web」掲載記事（2023年8月23日～9月5日）から選定したものです。**

## 「代謝の健康」を導く時間運動学のエビデンス 最大の効果を得る運動タイミングは？

<https://sndj-web.jp/news/002397.php> (2023/8/24)

時間運動学に関する新しいレビュー論文が報告された。心血管代謝の改善に焦点を当てて考察した、スペインの研究者によるもの。要旨を紹介-----

## **β-アラニンが高齢者の認知機能低下や抑うつを抑制する可能性 プラセボ対照 RCT の報告**

<https://sndj-web.jp/news/002399.php> (2023/8/26)

アスリートの運動パフォーマンスの維持や向上という点で確かなエビデンスが確立しているβ-アラニンについて、高齢者の認知機能や気分状態に対しても有用である可能性を示す研究結果が報告された。ベースライン時に認知機能が低下している高齢者での認知機能改善などが認められたと……

## **■ その他の食品関連科学・技術情報**

### **AIに味を推定させ、産地の違いも再現する調味装置「TTTV3」を明治大学 総合数理学部 宮下芳明研究室が発表**

大学プレスセンター - 2023/8/31 <https://www.u-presscenter.jp/article/post-51382.html>

明治大学総合数理学部先端メディアサイエンス学科 宮下芳明研究室は、産地や品種の違いも再現する調味装置、TTTV3 (Transform The Taste and reproduce Varieties)を開発しました。

この装置は、総務省「異能vationプログラム」で宮下教授が開発した味覚メディア「味わうテレビ TTTV」を発展させたもので、基本五味（甘味、酸味、塩味、苦味、うま味）や辛味などの味を感じさせる液体を混合噴霧して味を再現……

### **トウガラシ果実の香りを決める遺伝子を特定 フルーティーでエキゾチックな香りを持つ果実の品種育成に期待**

大学プレスセンター - 2023/9/4 <https://www.u-presscenter.jp/article/post-51414.html>

近畿大学大学院農学研究科（奈良県奈良市）准教授 小枝壮太、博士前期課程2年（当時）野田朋那、蓮真海らの研究グループは、トウガラシの成分分析、分子生物学および生化学的解析を行い、果実のフルーティーでエキゾチックな香りに関与する遺伝子を特定しました。この遺伝子に着目することで、今後、トウガラシ果実の香りを対象とした品種改良が進むと期待されます。

本研究に関する論文が、令和5年（2023年）8月30日（水）に、植物学分野の国際学術誌"Plant Cell Reports（プラントセルレポート）"にオンライン掲載され……

### **アピ、多様な原料加工技術でサプリを差別化**

マイナビニュース - 2023/8/28

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20230828-2759081/>

## 北大が砂糖と塩の混合比を画像から予測するシステムを開発 - 熟練者の眼を再現

マイナビニュース - 2023/8/28

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20230828-2759190/>

## レモン果汁でのマリネ調理が牛肉の柔らかさや消化性に与える影響を解明！

マイナビニュース - 2023/8/26

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20230826-2757337/>

## ■ その他の科学・技術情報

## サンスター、ハミガキ・洗口液の防腐効果を AI にて予測するモデルを開発

IoT NEWS - 2023/8/31 <https://iotnews.jp/ai/232602/>

以上

## 健康食品等に関する 日本語記事情報（2023年9月号 No.2）

本文書では、インターネットの日本語記事情報から、（公財）日本健康・栄養食品協会 学術情報部が独自の視点で皆様の事業遂行に役立つと判断したものをご紹介します。

（例：法令・行政情報、新製品・新分野の製品の企画開発及び研究開発のお役立ち情報、安全性確保の取組みに活用出来る情報、その他ビジネス環境変化に係る情報等）

**なお、記事の内容の正確性を当協会が保証するものではありません。また、特定の企業、食品素材・成分、製品などの情報が含まれる場合においても、当協会が支援・推進・推奨するものではありません。**

英文記事情報については別途お送りいたします。

○ **記事のカテゴリー**（見出しをクリックすると該当カテゴリーに移動します）

## [注目記事](#)

### [安全性関連情報](#)

### [表示、販売等に関する行政機関のアクション情報等](#)

### [行政・法令関連情報（その他）](#)

### [海外公的機関情報](#)

### [市場予測、動向（食品・健康食品全般）](#)

### [具体的健康ニーズ・素材・成分、製品情報（市場予測・動向等）](#)

### [市場・企業動向、注目ビジネス情報](#)

### [消費者意識等の調査・分析](#)

### [食品・食品成分の生理機能、健康関連科学情報](#)

### [その他の食品関連科学・技術情報](#)

### [その他の科学・技術情報](#)

### [その他](#)

記事によっては短期間でリンク切れになるものがあります。その点ご了承ください。

## ○ 記事一覧

基本情報（記事見出し、出典・日付、URL）、冒頭文または記事のポイントとなる部分（民間の情報源には了承を得た上で転載）を表示しております。なお、基本情報のみで記事内容の把握が可能と思われる場合は基本情報のみとしております。

## ■ 注目記事

[医薬基盤・健康・栄養研究所、食品企業7社が連携し「食環境整備推進のための産学官連携共同研究プロジェクト」が始動～自然に続けられる健康でおいしい食生活の実現に向けて～](#)

日経バイオテック - 2023/9/6 <https://bio.nikkeibp.co.jp/atcl/release/23/09/06/17659/>

## 明治ホールディングス・谷口茂執行役員「独自『NPS』」で栄養の課題解決に貢献

日経 BP - 2023/9/12 <https://project.nikkeibp.co.jp/ESG/atcl/column/00006/090500311/>

## 花王やキリン、人事評価にサステナ要素組み込む企業相次ぐ

株式会社オルタナ/オルタナオンライン - 2023/9/11 <https://www.alterna.co.jp/97159/>

(無断転載を禁じます)

### 記事のポイント

1. 社員の人事評価に非財務指標を組み込む企業が相次ぐ
2. 花王やキリン、カルビー、三井住友 FG などだ
3. 経営戦略にサステナを組み入れたことで、事業として課題解決に取り組む

-----

## ■ 安全性関連情報

*以下の2件は、9月12日付けの食品安全情報 blog2 の中ほどの見出しです。*

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2023/09/12/174415>

### [EFSA]意見等

-規則(EU) 2015/2283 に従って、新規食品としての使用済大麦 (Hordeum vulgare)と米(Oryza sativa)由来部分加水分解されたタンパク質の安全性

### [BfR]

複数の甘味料の混合物はヒトの健康にリスクをもたらすか？

*追記：複数の甘味料を用いている場合に、個々のADIを下回っていれば混合物使用の場合の安全性をはたして担保出来ているか、といった問題。BfR（ドイツ連邦リスク評価研究所）は、“動物モデルで観察された影響がヒトに移行する可能性があるかどうかは、甘味料の組み合わせ影響に関する入手可能なデータが限られているため、現時点では評価できない。”とされていますが、今後注視すべき問題かもしれません。*

*以下の2件は、9月15日付けの食品安全情報 blog2 の冒頭2件の太字見出しです。*

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2023/09/15/171615>

### [EFSA]意見

食品中のミネラルオイル炭化水素類のリスク評価の更新

追記：“ミネラルオイル”と表現してしまうとスルーされてしまいそうです。この問題を初めて認識した2011年3月頃の海外情報では、“新聞をリサイクルした包材中の食品から鉛油(印刷インク成分)が検出”と言った伝え方をされていました。最近、「食品安全情報 blog2」でもしばしば目にするようになりましたが、10年以上たっても問題が燻っているようです。日本でも今後問題化する可能性があるのか、本件に詳しい方からご教示頂けたら幸いです。

参考情報（ネットで検索したら出てきました）：

「フランスの鉛物油規制の強化および拡大生産者責任の義務に対する日本企業の対応」

地方独立行政法人東京都立産業技術研究センター - 2022/12/1

<https://www.iri-tokyo.jp/site/tiri-news/202212-02-shien.html>

[BfR]

甘味料：大多数の研究から有害健康影響はないことが確認されている  
— だが、研究状況は不十分である

追記：9月12日分の「複数の甘味料の混合物はヒトの健康にリスクをもたらすか？」に続いてBfRが出した文書です。

## 食品安全情報（化学物質）No. 19/ 2023（2023. 09. 13）

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2023/foodinfo202319c.pdf>

全リスト

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/index.html>

## ■ 表示、販売等に関する行政機関のアクション情報等

今回は特に見当たりませんでした。

## ■ 行政・法令関連情報（その他）

### 第2回「日本人の食事摂取基準（2025年版）」策定検討会開催案内

厚生労働省 - 2023/9/15 [https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/newpage\\_00070.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/newpage_00070.html)

「食から日本を考える。NIPPON FOOD SHIFT FES.東京 2023」を開催！

農林水産省 - 2023/9/5 <https://www.maff.go.jp/j/press/kanbo/anpo/230905.html>

～「丸の内から、ニッポンフードシフト。」～

農林水産省は、食と農のつながりの深化に着目した国民運動「食から日本を考える。ニッポンフードシフト」を展開しています。

9月23日(土曜日)・24日(日曜日)の2日間、東京丸の内エリア(丸ビル1階マルキューブ、丸の内仲通り)において、農林漁業者・食品事業者及び消費者が、日本の食や農をめぐる事情や課題、目指す未来について、ともに考えるきっかけとするイベント「食から日本を考える。NIPPON FOOD SHIFT FES.東京 2023」を開催-----

## ■ 海外公的機関情報

### 食品添加物関連法令改正案の第1回技術会議を開催（香港）

日本貿易振興機構（ジェトロ） - 2023/9/7

<https://www.jetro.go.jp/biznews/2023/09/697a1eb2fe068e57.html>

**以下の8件は、食品安全委員会 食品安全総合情報システム**

**(<https://www.fsc.go.jp/fsciis/>) の更新情報 (2023/9/15 確認) の中から、気になったものを選定しました。**

**[見出しのクリックで内容をご覧頂けます。](#)**

- [1. 欧州食品安全機関\(EFSA\)、新食品としての使用済み大麦及び米に由来する部分加水分解タンパク質の安全性に関する科学的意見書を公表](#)
- [26. 英国毒性委員会\(COT\)、英国集団における二酸化チタンへのばく露評価に関するペーパー\(TOX/2023/44\)を公表](#)
- [41. 英国毒性委員会\(COT\)、食品中の無機ヒ素が公衆衛生に与えるリスクについての欧州食品安全機関\(EFSA\)の2023年再評価に関するペーパー\(TOX/2023/46\)を公表 \(1/3\)](#)
- [42. 英国毒性委員会\(COT\)、食品中の無機ヒ素が公衆衛生に与えるリスクについての欧州食品安全機関\(EFSA\)の2023年再評価に関するペーパー\(TOX/2023/46\)を公表 \(2/3\)](#)

43. [英国毒性委員会\(COT\)、食品中の無機ヒ素が公衆衛生に与えるリスクについての欧州食品安全機関\(EFSA\)の2023年再評価に関するペーパー\(TOX/2023/46\)を公表 \(3/3\)](#)

44. [英国毒性委員会\(COT\)、ダイオキシン類およびダイオキシン様ポリ塩化ビフェニル\(PCB\)に関する文献の体系的レビューを公表](#)

69. [カナダ食品検査庁\(CFIA\)、「特定食品中の多環芳香族炭化水素」を対象とした食品化学調査の最終報告書を公表](#)

70. [カナダ食品検査庁\(CFIA\)、「特定の食品に含まれる食品着色料」を対象とした食品化学分野における調査の最終報告書を公表](#)

## ■ 市場予測、動向（食品・健康食品全般）

今回は特に見当たりませんでした。

## ■ 具体的健康ニーズ・素材・成分、製品情報 （市場予測・動向等）

今回は特に見当たりませんでした。

## ■ 市場・企業動向、注目ビジネス情報

### [株式会社メタジェン、順天堂大学と共同研究を開始 ～腸内環境からアスリートの持久力向上を目指す～](#)

株式会社メタジェン - 2023/9/13 <https://metagen.co.jp/2023/09/13/20230913-1312/>

株式会社メタジェン(本社:山形県鶴岡市、代表取締役社長 CEO:福田真嗣、以下「当社」)および学校法人順天堂 順天堂大学(本部:東京都文京区、学長:新井一、以下「順天堂大学」)ハイパフォーマンス・トランスレーショナル・リサーチ拠点(千葉県印西市、拠点長:和氣秀文)はこの度、腸内環境とアスリートの持久力向上に関する共同研究を開始しました。本共同研究は順天堂大学がスポーツ庁より委託された事業である『先端的スポーツ医・科学研究推進事業』における1つのテーマとして開始され……

## メタジェンとウンログが業務提携。腸活パーソナライズ商品開発のハードルを下げ、顧客獲得まで支援！市場拡大に向け連携開始 ～ 高品質商品を市場に増やして健康課題解決へ貢献する ～

株式会社メタジェン - 2023/9/6 <https://metagen.co.jp/2023/09/06/20230906-1438/>

最先端科学に基づき腸内環境を制御する「腸内デザイン®」をコンセプトに、人それぞれの腸内環境タイプに合わせたアプローチを推進している株式会社メタジェン（本社：山形県鶴岡市、代表取締役社長 CEO：福田真嗣、以下、メタジェン）と、100万ダウンロードを突破したアプリ「ウンログ」を活用し腸活商品に関する延べ1,000件以上のマーケティング支援実績のあるウンログ株式会社（本社：東京都渋谷区、代表取締役：田口敬、以下、ウンログ）は、エビデンスに基づく高品質な腸活パーソナライズ商品の市場を拡大するために、商品開発におけるメーカーのハードルを下げ、商品開発後の顧客獲得まで一貫して支援するサービスを提供-----

## 健康家族、EC最適化で顧客満足度が向上 ウェブコンサルティングを行うペンシルと協力

マイナビニュース - 2023/9/11

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20230911-2769030/>

## ■ 消費者意識等の調査・分析

今回は特に見当たりませんでした。

## ■ 食品・食品成分の生理機能、健康関連科学情報

### 幼児期の「感情制御の困難さ」に炎症に関わる腸内細菌叢が関連の可能性 - 京大ほか

QlifePro 医療ニュース - 2023/9/12

[https://www.qlifepro.com/news/20230912/gut-microbiota-2.html](https://www qlifepro.com/news/20230912/gut-microbiota-2.html)

▼関連リンク・京都大学 プレスリリース

<https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/research-news/2023-09-06>

### 乳幼児期に安定化する腸内細菌叢、感情制御を含む実行機能の発達と関連の可能性

京都大学は9月6日、幼児期の感情制御が腸内細菌叢と関係することを明らかにしたと発表した。この研究は、同大学院教育学研究科の明和政子教授、藤原秀朗氏（同博士後期課

程)、大阪大学の萩原圭祐特任教授らの共同研究グループによるもの。研究成果は、「Microorganisms」にオンライン掲載され-----

## **【兵庫県立大学・宮崎大学】細胞外小胞がケルセチンの吸収性や機能性を高める可能性を発見**

大学プレスセンター - 2023/9/13 <https://www.u-presscenter.jp/article/post-51479.html>

石坂朱里助教、村上明教授（兵庫県立大学環境人間学部）、山崎正夫教授（宮崎大学農学部）らの研究グループは、タマネギなどの野菜や果物類に広く含まれるケルセチンの体内への吸収機構や機能性発現機構についての新しい知見を論文発表-----

## **魚の過剰摂取は血中ヒ素が増え高血圧になりやすい、名古屋大学と藤田医科大学**

大学ジャーナルオンライン - 2023/9/12 <https://univ-journal.jp/234283/>

名古屋大学大学院と藤田医科大学の研究グループは、一般成人を対象とした調査により、魚を食べ過ぎると、魚に含まれるヒ素を介して健康に影響する可能性があることを明らかに-----

## **脂肪燃焼を助ける G12 シグナル誘導人工受容体を開発**

MONOist - 2023/9/6 <https://monoist.itmedia.co.jp/mn/articles/2309/06/news035.html>

東北大学は 2023 年 8 月 21 日、シグナル伝達経路 G12 を操作できる人工受容体を開発したと発表した。G12 シグナルが脂肪を燃やす働きを助けることから、脂肪細胞で G12 シグナルを誘導する受容体が肥満治療薬の分子標的となる可能性を見出した。ハイデルベルク大学との国際共同研究による成果-----

ー日本スポーツ栄養学会第 9 回大会で発表予定ー

## **黒大豆ポリフェノール「クロノケア®」の摂取で e スポーツプレイヤーの認知機能の一部が向上**

フジッコ株式会社 - 2023/9/6 [https://www.fujicco.co.jp/corp/upload/pr\\_230906.pdf](https://www.fujicco.co.jp/corp/upload/pr_230906.pdf)

フジッコ株式会社（本社：兵庫県神戸市／代表取締役社長執行役員：福井正一）は、株式会社愛しとーと（本社：福岡県那珂川市／代表者：岩本初恵）と株式会社 AZ（本社：大阪市／代表取締役社長：藤堂高義）、株式会社 Cosmo World（所在地：東京都練馬区／Lag Gaming 代表者：平野凌）（順不同）と協力して、黒大豆ポリフェノールの摂取で e スポ

ーツプレイヤーの認知機能の一部（短期記憶力）が向上することを確認しました。この研究成果は、2023年9月9日（土）～10日（日）に行われる日本スポーツ栄養学会第9回大会で発表-----

## 麻布大学とユーグレナ社、人体に有毒なマイコトキシンの排出作用をヤエヤマクロレラで確認

大学ジャーナルオンライン - 2023/9/5 <https://univ-journal.jp/233971/>

麻布大学獣医学部の福山朋季准教授と株式会社ユーグレナは、ユーグレナ・グループの八重山殖産が手がける「ヤエヤマクロレラ」の摂取により、人に健康被害を及ぼす「マイコトキシン」の排出が促進されることを明らかに-----

## 柿タンニンによる悪玉コレステロール値低減作用を臨床試験で実証 「和歌山のたねなし柿」機能性表示食品として消費者庁に届出完了 JAビルで記者発表を行います

大学プレスセンター - 2023/9/6 <https://www.u-presscenter.jp/article/post-51453.html>

和歌山県農業協同組合連合会と大阪公立大学、近畿大学生物理工学部・農学部は、「和歌山のたねなし柿（和歌山県産中谷早生、刀根早生および平核無）」に含まれる「柿タンニン」を摂取することで、悪玉（LDL）コレステロール値を低減させられることを臨床試験で実証しました。この試験結果をエビデンスとして、消費者庁に機能性表示食品としての届出を行い、2023年8月に受理されました。これにより柿果実特有の成分に基づき、初めて機能性を表示して販売できるようになります（届出者 和歌山県農業協同組合連合会）。つきましては、「柿タンニン」が悪玉（LDL）コレステロール値を低減させることを示す研究成果と、機能性表示食品の届出完了について下記のとおり記者発表を行います-----

## レモン果汁の摂取が健常者の愛情ホルモン（オキシトシン）の分泌と心理状態に及ぼす影響について

ポッカサッポロフード&ビバレッジ株式会社 - 2023/9/1

[https://www.pokkasapporo-fb.jp/company/news/release/230901\\_01.html](https://www.pokkasapporo-fb.jp/company/news/release/230901_01.html)

ポッカサッポロフード&ビバレッジ株式会社（代表取締役社長：時松浩、本社：愛知県名古屋市中区）は、レモン果汁の摂取が健常者の愛情ホルモン（オキシトシン）の分泌と心理状態に及ぼす影響について確認しました。その結果を、日本食品科学工学会第70回記念大会で発表しましたので、お知らせし-----

## 未熟なトマトに含まれる化合物がうつ病の治療や予防に有効 - 金大が発表

マイナビニュース - 2023/9/15

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20230915-2772222/>

以下の3件は、一般社団法人日本スポーツ栄養協会 公式情報サイト「スポーツ栄養 Web」掲載記事（2023年9月6日～19日）から選定したものです。

## スポーツで使う視力と栄養素摂取量に有意な関連、炭水化物・ルテイン・ビタミン B2 などに可能性

<https://sndj-web.jp/news/002416.php> (2023/9/7)

スポーツパフォーマンスに影響を及ぼす可能性のある視機能と、日常の摂取栄養素との間に、有意な関連がみつかった。炭水化物、ルテイン／ゼアキサンチン、ビタミン B2 の摂取量が多い場合にスポーツに有利な視機能が高く、反対にタンパク質摂取量が多い場合は視機能が低いと-----

## イソマルツロース（パラチノース）摂取で競技後半の大事な場面のパフォーマンスに差がつく可能性

<https://sndj-web.jp/news/002424.php> (2023/9/12)

持久系スポーツの競技開始前に、消化吸収が緩徐な糖質であるイソマルツロース（パラチノース）を摂取しておくことで、競技後半のスタミナ切れを抑えられ、かつ、結果を左右するような大切な場面で、より大きなパワーを発揮できる可能性を示すデータが報告された。日常的にトレーニングを行っている男性アスリートを対象とするクロスオーバー試験により、スクロース（砂糖）との比較で、ウインゲートテストの評価結果などに有意差が認められたという。日本大学薬学部の小沼直子氏、昭和女子大学大学院生活機構研究科の山中健太郎氏らのグループの研究によるもので、「BMC Sports Science, Medicine and Rehabilitation」に論文が掲載-----

## サルコペニアの最も効果的な治療法は？ ネットワークメタ解析からの知見

<https://sndj-web.jp/news/002429.php> (2023/9/19)

人口の高齢化によってサルコペニアが世界的に増加し、各国の公衆衛生対策の優先事項となっているなか、最も効果的な介入方法はなにかをネットワークメタ解析により検討した研

究結果が、中国の研究者により報告された。比較検討された7種類の介入方法のうち、レジスタンストレーニングによる介入が多くの評価指標において最も優れて-----

## ■ その他の食品関連科学・技術情報

### ハナマルキと月桂冠が共同研究で成果 「液体塩こうじ」に含まれる麴菌デフェリフェリクリシンが 畜肉や魚肉の不快感を低減させることを発見

ハナマルキ株式会社 - 2023/9/4

<https://www.hanamaruki.co.jp/news/2023090418194.html>

月桂冠株式会社 <https://www.gekkeikan.co.jp/company/news/detail/420/>

味噌メーカーのハナマルキ株式会社（社長・花岡周一郎、本社・長野県伊那市）と、日本酒メーカーの月桂冠株式会社（社長・大倉治彦、本社・京都市伏見区）総合研究所は共同研究により、「液体塩こうじ」による畜肉や魚肉の不快感を低減させる有効成分が、麴菌が作る成分・デフェリフェリクリシン（以下、Dfcy）であることを初めて見出しました。今回の研究成果は、「液体塩こうじに含まれるデフェリフェリクリシンによる畜肉調理時のヘキサナール生成阻害」と題して、日本調理科学会 2023 年度大会（会期 2023 年 9 月 9 日～10 日）で発表-----

### ケールから有用物質を得るための高温高圧を必要としない方法開発 シンガポール

ASEAN 科学技術ニュース - 2023/9/12

[https://spap.ist.go.jp/asean/news/230903/topic\\_na\\_02.html](https://spap.ist.go.jp/asean/news/230903/topic_na_02.html)

## ■ その他の科学・技術情報

### 明治大学 総合数理学部 宮下芳明教授らがイグ・ノーベル賞（栄養学）を受賞

大学プレスセンター - 2023/9/15 <https://www.u-presscenter.jp/article/post-51506.html>

### AI を活用して新たな細胞内タンパク質品質管理の仕組みを解明

MONOist - 2023/9/5 <https://monoist.itmedia.co.jp/mn/articles/2309/05/news054.html>

順天堂大学は、AI を駆使し、細胞内のタンパク質品質管理の新たな仕組みを明らかにした。UFM1 連結酵素が三者複合体を形成し、この複合体と UFM1 が連結された RPL26 との結合がタンパク質品質管理機構 ER-RQC に必要であることが示され-----

## ちとせなど、微生物の培養状態を AI が自動制御する培養システムを開発

マイナビニュース - 230905 <https://news.mynavi.jp/techplus/article/20230905-2765396/>

## ソニー、におい提示装置向けカスタムカートリッジと専用アプリを発表

マイナビニュース - 230905 <https://news.mynavi.jp/techplus/article/20230905-2765416/>

## ■ その他

*英文情報サイト Foodnavigator-asia に 9 月 14 日付けで、英文記事の和訳版が掲載されましたのでご紹介いたします。タイトルのクリックで記事本文が閲覧できます。*

### サイエンス ショート:食品生産における AI、日本の遺伝子組み換え食品、マレーシアの培養肉

### サステナビリティ抜粋:Nestle の衛星技術利用、中国のバイオ製造、食糧の回復力を高めるヒント

### トレンド トラッカー:APAC スナッキングトレンド、中国消費トレンド、健康的な食生活への移行

### ジャパン フォーカス:キッコーマンのインドでの成長、Carlsberg Malaysia とアサヒの提携終了、アサヒの新調達部門、弁当文化など

以上

## 健康食品等に関する

### 日本語記事情報 (2023 年 10 月号 No.1)

本文書では、インターネットの日本語記事情報から、(公財)日本健康・栄養食品協会 学術情報部が独自の視点で皆様の事業遂行に役立つと判断したものをご紹介いたします。

(例：法令・行政情報、新製品・新分野の製品の企画開発及び研究開発のお役立ち情報、安全性確保の取組みに活用出来る情報、その他ビジネス環境変化に係る情報等)

なお、記事の内容の正確性を当協会が保証するものではありません。また、特定の企業、食品素材・成分、製品などの情報が含まれる場合においても、当協会が支援・推進・推奨するものではありません。

英文記事情報については別途お送りいたします。

記事によっては短期間でリンク切れになるものがあります。その点ご了承ください。

## ○ 記事一覧

基本情報（記事見出し、出典・日付、URL）、冒頭文または記事のポイントとなる部分（民間の情報源には了承を得た上で転載）を表示しております。なお、基本情報のみで記事内容の把握が可能と思われる場合は基本情報のみとしております。

## ■ 注目記事

### オタフクソース・ケンミン食品・永谷園・日本ハム・ハウス食品、食物アレルギーに配慮した「イベントレシピ」を開発

マイライフニュース - 2023/9/21 <https://www.mylifenews.net/drink-food/30661/>

食物アレルギー配慮商品を持つ食品メーカー（オタフクソース、ケンミン食品、永谷園、日本ハム、ハウス食品 ※五十音順）は、“食物アレルギーの有無にかかわらず、みんなで食事をおいしく楽しめる社会の実現”に貢献することを活動理念とし、食物アレルギー配慮商品の普及やレシピの協同開発、啓発活動に取り組んでいる。賛同メーカーでは、この協同取り組みを「プロジェクトA」と名付け活動-----

## ■ 安全性関連情報

### [EFSA]PLS(わかりやすい言葉による要約)：食品中のミネラルオイル炭化水素類(MOH)のリスク評価の更新

食品安全情報 blog2 - 2023/9/20

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2023/09/20/174133>

9月20日分の3番目の太字見出し。前号では、2011年頃の“新聞をリサイクルした包材中の食品から鉱油(印刷インク成分)が検出”の海外情報がきっかけで興味を持ったことを書きましたが、現在は“汚染源”がもっと広く捉えられているようです。今回は以下のような記述がありました。“環境汚染物質、収穫や食品生産中に使用される機械の潤滑油、剥離剤やダスト粘結剤などの加工助剤、食品や飼料の添加物、食品接触物質として食品に入る可能性がある。”

## [BfR]甘味料に関する BfR の意見

### [BfR]厳しい試練：激辛食品は特に子供の健康に有害になる可能性がある る (いずれも9月27日分の中ほどの太字見出し)

食品安全情報 blog2 - 2023/9/27

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2023/09/27/173234>

## 食品安全情報（化学物質）No. 20/ 2023（2023. 09. 27）

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2023/foodinfo202320c.pdf>

以下の2件が注目記事として挙げられていました。

【EFSA】食品中のミネラルオイル炭化水素類のリスク評価の更新

(詳細は、上でご紹介している9月20日分の食品安全情報 blog2 をご覧ください)

【BfR】厳しい試練：激辛食品は特に子供の健康に有害になる可能性がある

(詳細は、上でご紹介している9月27日分の食品安全情報 blog2 をご確認ください)

全リスト

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/index.html>

## ■ 海外公的機関情報

以下の14件は、食品安全委員会 食品安全総合情報システム

(<https://www.fsc.go.jp/fsciis/>) の更新情報 (2023/10/4 朝確認) の中から、気になったものを選定しました。

見出しのクリックで内容をご覧ください。

1. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、大腸菌 W\(ATCC 9637\)派生株\(大腸菌 NEO3\)を用いて生産される新食品としての3'-シアリルラクトースナトリウム塩の安全性に関する科学的意見書を公表](#)

14. [世界保健機関\(WHO\)、減塩に関するファクトシートを更新](#)

19. [フランス食品環境労働衛生安全庁\(ANSES\)、動物からヒトへの抗生物質耐性の伝播を制御する上で、優先的に監視すべき細菌／抗生物質グループの組合せのリストに関する意見書を公表](#)
20. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、食品中のミネラルオイル炭化水素のリスク評価の更新に関する平易な言葉による要約を公表 \(前半 1/2\)](#)
22. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、食品中のミネラルオイル炭化水素のリスク評価の更新に関する平易な言葉による要約を公表 \(後半 2/2\)](#)
23. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、食品中のミネラルオイル炭化水素のリスク評価の更新に関する科学的意見書を公表](#)
24. [EFSA ニュース：欧州食品安全機関\(EFSA\)、食品中のミネラルオイル炭化水素に関するインフォグラフィックを含めた情報提供を行う](#)
27. [欧州連合\(EU\)、食品安全に関する規則等を官報で公表\(情報収集対象期間:2023年9月12日～15日\)\(後半 2/2\)](#)
28. [欧州連合\(EU\)、食品安全に関する規則等を官報で公表\(情報収集対象期間:2023年9月12日～15日\)\(前半 1/2\)](#)
30. [欧州連合\(EU\)、食品安全に関する規則等を官報で公表\(情報収集対象日:2023年9月11日\)](#)
37. [ドイツ連邦リスク評価研究所\(BfR\)、激辛の食べ物は特に子供の健康を害する可能性があるとの通知を公表](#)
38. [米国食品医薬品庁\(FDA\)、消費者向け情報のサイトに「秘密を明かす: どのくらいのカフェインが過剰なのか?」と題する情報を公表](#)
40. [ニュージーランド第一次産業省\(MPI\)、海藻飲料 NZ Focuidan の食品安全上のリスクについて公表](#)
51. [欧州連合\(EU\)、食品安全に関する規則等を官報で公表\(情報収集対象期間:2023年8月30日～9月8日\)](#)

## ■ 表示、販売等に関する行政機関のアクション情報等

### インターネット通販における表示内容と消費者の心理的特性等に関する調査

消費者庁 - 2023/9/19 [https://www.caa.go.jp/policies/future/project/project\\_013/](https://www.caa.go.jp/policies/future/project/project_013/)

## 景品表示法に基づく法的措置件数の推移及び措置事件の概要の公表(令和5年8月31日現在)

消費者庁 - 2023/9/29 <https://www.caa.go.jp/notice/entry/024740/>

### ■ 行政・法令関連情報（その他）

今回は特に見当たりませんでした。

### ■ 市場予測、動向（食品・健康食品全般）

今回は特に見当たりませんでした。

### ■ 具体的健康ニーズ・素材・成分、製品情報 （市場予測・動向等）

#### 【雑穀】アワに新品種、新たな商品開発に期待感

健康メディア.com - 2023/9/20

[https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/18122](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/18122)

新型コロナの5類移行を受け、外食・中食への提案が活発になってきた。コンビニでは「もち麦おにぎり」「キヌアサラダ」の商品化、カフェでは「雑穀ランチ」のメニュー化がみられる。加工食品では製菓製パンなどの引き合いも。「十六穀スナック」「五穀パン」といった商品化が進んでいる。雑穀の新品種では、「アワ岩手糯11号」が登場。黄色味、粒感、ルテインなどが評価され、今後の商品開発に期待が高まっている。新たな機能性研究では、セカンドミール時の血糖値低下に関する研究成果が報告……

#### 【スピルリナ】「栄養強化」「着色」で市場定着 アンチエイジングで 新知見も

健康メディア.com - 2023/9/19

[https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/18120](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/18120)

スーパーフードの王様として注目を集めるスピルリナ。機能性研究では抗酸化作用に関する新たな知見が発表された。アンチエイジングを訴求する新たな商品開発に期待が高まっている。最終製品はサプリメント・健康食品のほか、一般加工食品では「栄養強化」を目的とするスムージー、ゼリー、バー、麺類などの開発が進んでいる。スピルリナ青色素による

「着色」用途も浸透、アイスや飲料などの需要も市場を後押ししている。スピルリナ配合製品は SNS などによるにアップされることも多く、「インスタ映え」を狙った商品開発も----

## **【慢性炎症対策】慢性炎症対策は健康長寿実現の切り札**

健康メディア.com - 2023/9/19

[https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/18118](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/18118)

近年の研究でメタボリックシンドロームをはじめとした生活習慣病や、認知症などの疾患に共通する基盤病態として慢性的な炎症が発生していることが知られるようになった。慢性炎症は全身のあらゆる部位や臓器で長期間にわたって“くすぶり”続け、痛みなど自覚症状がないまま重篤疾患の発症や促進に影響する。「疲れやすい」といった日々の疲労の蓄積も慢性炎症と深い関わりがあると指摘されており、最近ではメンタルや女性特有の健康課題の領域にも影響-----

## **【β-グルカン】免疫賦活、海外ニーズ高く**

健康メディア.com - 2023/9/19

[https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/18113](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/18113)

COVID-19 の世界的流行は人々の免疫への関心を多いに高めた。特にセルフディフェンスの意識が強い海外では免疫賦活に対する意識がかく、健康食品やサプリメントを積極的に利用した「イミュンヘルス」が定着している。その代表的な素材の一つがβ-グルカンだ。海外調査会社の発表では、β-グルカンの世界市場は現在約4億ドル。2026年には6億ドル規模に成長すると試算-----

## **■ 市場・企業動向、注目ビジネス情報**

### **資生堂、ウェルネス領域展開への第一歩として、インナービューティ一事業を本格始動**

～ビューティーとウェルネスの融合で、ツムラ・カゴメ各社と新市場を創造～

株式会社資生堂 - 2023/9/20

<https://corp.shiseido.com/jp/news/detail.html?n=00000000003689>

資生堂は、ウェルネス領域展開への第一歩としてインナービューティ一事業を本格始動し、一人ひとりの自分らしい健康美を実現するインナービューティブランド「SHISEIDO BEAUTY WELLNESS（シセイドウ ビューティー ウエルネス）」（以下、SBW）を2024年2月に立ち上げます。

第一弾として、株式会社ツムラとカゴメ株式会社の各社と共創し、共同研究・開発した商品を日本国内で発売します。2025年以降には、中国をはじめとするアジア地域での展開も予定しています。

SBWは、今後も各分野のプロフェッショナルであるパートナー企業とともに、肌・身体・心の調和による美の実現に向けた新しいソリューションを創出していきます。また、この新しい健康美習慣を「J-Beauty Wellness」としてグローバルに発信し、新市場創造に取り組んで……

## ポーラ化成工業、国立長寿医療研究センターと「フレイル」の共同研究を開始 いつまでも自立して過ごせる well-being な人生への貢献を目指して

株式会社ポーラ・オルビスホールディングス - 2023/9/26

[http://www.pola-rm.co.jp/pdf/release\\_20230926.pdf](http://www.pola-rm.co.jp/pdf/release_20230926.pdf)

ポーラ・オルビスグループの研究・開発・生産を担うポーラ化成工業株式会社（本社：神奈川県横浜市、社長：釘丸和也）は、国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター（所在：愛知県大府市、理事長：荒井秀典）（以下「国立長寿研」、補足資料 1）と、要介護状態になる前の状態を指す「フレイル（図 1）」の課題解決に向けて、2023年9月から共同研究を開始します。本研究を通じて、フレイルに関する新知見の創出と独自技術の開発を行い、誰もがいつまでも自立して wellbeing を実現し続けることのできる社会を目指し……

## ■ 消費者意識等の調査・分析

### [30112] アンチエイジングに関するアンケート調査（第6回）

マイボイスコム [https://myel.myvoice.jp/products/detail.php?product\\_id=30112](https://myel.myvoice.jp/products/detail.php?product_id=30112)

## ■ 食品・食品成分の生理機能、健康関連科学情報

### 運動誘発性ホルモン・イリシンがアミロイドβの蓄積を減少させる可能性—米研究

QLifePro 医療ニュース - 2023/9/22

<https://www qlifepro.com/news/20230922/amyloid-beta-ad.html>

#### ▼外部リンク

・ Irisin reduces amyloid- $\beta$  by inducing the release of neprilysin from astrocytes following downregulation of ERK-STAT3 signaling

[https://www.cell.com/neuron/fulltext/S0896-6273\(23\)00623-2](https://www.cell.com/neuron/fulltext/S0896-6273(23)00623-2)

### **運動誘発性ホルモンがアルツハイマー病の抑制に有望か**

運動中に分泌されるホルモンを用いた治療法が、アルツハイマー病（AD）に対する次の最先端治療となるかもしれない。運動により骨格筋から分泌されるイリシン（irisin）が、ADの特徴であるアミロイドβの蓄積を減少させる可能性が、米マサチューセッツ総合病院（MGH） Genetics and Aging Research Unit の Se Hoon Choi 氏らの研究で示唆された。この研究の詳細は、「Neuron」に9月8日掲載-----

### **花粉症のアレルギー性結膜炎、青魚内臓に豊富な EPA 代謝物で症状緩和の可能性－東大**

QLifePro 医療ニュース - 2023/9/28

<https://www qlifepro.com/news/20230928/allergy-56-dihete.html>

▼関連リンク・東京大学大学院農学生命科学研究科 研究成果

[https://www.a.u-tokyo.ac.jp/topics/topics\\_20230926-1.html](https://www.a.u-tokyo.ac.jp/topics/topics_20230926-1.html)

### **EPA 代謝物の 5,6-DiHETE は炎症反応抑制、花粉症による目の症状にも有効か**

東京大学は9月26日、ω-3 脂肪酸 EPA の代謝物 5,6-dihydroxy-8Z,11Z,14Z,17Z-eicosatetraenoic acid (5,6-DiHETE) が、アレルギー性結膜炎の症状を抑制することを、マウスモデルを使って明らかにしたと発表した。この研究は、同大大学院農学生命科学研究科の村田幸久准教授の研究グループによるもの。研究成果は「Frontiers in Pharmacology」に掲載され-----

### **大阪公立大学、ブロッコリースプラウトが超硫黄分子を大量に含有することを発見**

大学ジャーナルオンライン - 2023/9/29 <https://univ-journal.jp/234682/>

大阪公立大学大学院理学研究科の笠松真吾助教と居原秀教授らの研究グループは、強力な抗酸化活性やエネルギー代謝改善作用があることから近年注目されている超硫黄分子が、ブロッコリースプラウト（ブロッコリーの新芽）に豊富に存在していることを明らかに-----

### **「パラチノース®」が集中力と脳血流に与える影響が明らかに**

～共著論文が Brain Research に掲載されました～

DM 三井製糖株式会社 - 2023/9/21

[https://www.mitsui-sugar.co.jp/news/2023/pdf/0921\\_palanose.pdf](https://www.mitsui-sugar.co.jp/news/2023/pdf/0921_palanose.pdf)

DM 三井製糖株式会社（本社：東京都港区芝五丁目 26 番 16 号、代表取締役社長：森本卓、以下「DM 三井」）は、株式会社 NeU（本社：東京都千代田区、代表取締役：長谷川

清)とともに、天然由来の二糖類である「パラチノース®」が集中力と脳血流に与える影響について、食品臨床試験を実施いたしました。本臨床試験は、株式会社 NeU 取締役 CTO 川島 隆太博士監修のもと、実施されたものとなります。

本臨床試験の結果は、下記の通り論文として Brain Research 誌に掲載されました。DM 三井からは、筆頭著者として山本夏実が、共著者として坂崎 未季、永井 幸枝博士(農学) (ライフ・エナジー事業開発本部 DM 三井グループ研究所) が名を連ねております。

## **コーヒー由来成分「トリゴネリン」のマウスでの認知機能改善効果を発見** ダイドードリンコと筑波大学の共同研究について ~コーヒー飲料開発への取り組み~

ダイドードリンコ株式会社 - 2023/9/21

[https://www.dydo.co.jp/corporate/news/2023/230921/pdf/20230921\\_02.pdf](https://www.dydo.co.jp/corporate/news/2023/230921/pdf/20230921_02.pdf)

(主要部分抜粋) コーヒーには、カフェイン、ポリフェノールなどの成分が含まれていることが知られています。当社はこれらコーヒー由来の成分の中から、認知機能改善効果が期待されている「トリゴネリン」に着目し、2021 年より、食品成分の機能解析研究を専門とする、筑波大学生命環境系 磯田博子教授を研究総括として、「トリゴネリン」の認知機能改善効果に関する共同研究を実施しています。

この度、筑波大学との共同研究において、老化促進マウスにおける空間学習および記憶の改善効果を見出しました。また、この効果は、脳の神経炎症の予防及び神経伝達物質レベルの回復によることが示唆されました。本研究成果は、科学誌『GeroScience (ジェロサイエンス)』に掲載され-----

## **「ラクトフェリン」の製造量において世界トップシェアの森永乳業** **ラクトフェリンの摂取が健常成人のプラズマサイトイド樹状細胞 (pDC) の活性を維持し、呼吸器および全身の健康状態を維持することを** **確認** ~科学雑誌『Nutrients』掲載~

森永乳業株式会社 - 2023/10/2

<https://www.morinagamilk.co.jp/release/newsentry-4302.html>

森永乳業(本社:港区、代表取締役社長:大貫 陽一、以下 森永乳業)は、乳タンパク質の一種であるラクトフェリンを 60 年以上にわたり研究しております。このたび、九州保健福祉大学(黒川昌彦教授)と実施した臨床試験において、健常成人がラクトフェリンを摂取することにより、免疫細胞の一種であるプラズマサイトイド樹状細胞(pDC)の活性が維持され、呼吸器および全身の健康状態が維持されることを確認しましたのでご報告いたします。

本研究成果は、科学雑誌「Nutrients」に 2023 年 9 月 13 日に掲載され-----

## **資生堂、ツムラとの共同研究で、和漢成分による心身を介した肌改善効果を確認**

株式会社資生堂 - 2023/9/30

<https://corp.shiseido.com/jp/news/detail.html?n=00000000003690>

資生堂は株式会社ツムラ（本社：東京都港区、代表取締役社長 CEO：加藤照和、以下「ツムラ」）との共同研究により、東洋医学の考え方から着想を得て、肌不調を引き起こす心身の根本原因を5つ導き出し、それらを改善することが期待できる和漢成分の組み合わせを見出しました。この和漢成分を個々人の心身の状態に合わせて摂取することで、心身の状態の改善とともに肌状態の改善を示すことを確認し、和漢成分が肌改善効果を有することを明らかに-----

## **資生堂、理化学研究所と共同で、肌・身体・心の関係性に基づく新規肌予測モデルを開発**

株式会社資生堂 - 2023/9/30

<https://corp.shiseido.com/jp/news/detail.html?n=00000000003691>

資生堂は、国立研究開発法人理化学研究所（以下、理研）との共同研究で、肌の状態に関係する身体や心の状態を網羅的かつ定量的に明らかにし、革新的な肌予測モデルを開発することに成功しました。また、この新たな肌予測モデルと、当社がこれまで100年以上にわたり蓄積してきた研究知見を融合し、独自の美のアルゴリズムを構築しました。将来的には2000以上の肌・身体・心の関係性を含むアルゴリズムへと進化させていく予定です。これにより、生活者一人ひとりの「なりたい肌」「ありたい姿」を実現するために、化粧品によるケアに加えて、身体や心の状態に着目した生活習慣の提案など、肌・身体・心が調和した状態へ導く新たなアプローチの開発を加速させることが期待できます。さらに、このアルゴリズムは、社会の変化やそれとともに変わりゆく生活者のライフスタイルを反映しながら、社内外におけるさまざまな最新の研究成果を取り入れて進化し続け-----

## **資生堂、免疫機能が整っている人の肌は 睡眠の乱れによる影響を受けにくいことを発見**

～体内の抗酸化や、免疫機能に関わるNK細胞の活性化に可能性 肌の免疫に着目した研究に応用し、過酷環境にも揺らがない健やかな肌へ～

株式会社資生堂 - 2023/10/2

<https://corp.shiseido.com/jp/news/detail.html?n=00000000003696>

資生堂は、免疫機能に関わるNK細胞の活性が良好、または、酸化度が低いなどといった、体内の状態が良好な人では、睡眠の乱れによって引き起こされる肌状態の悪化が抑えら

れ、健やかな肌が維持されることを発見しました。現代社会における睡眠不足や睡眠の質の低下は、健康や美容への影響が危惧される深刻な課題です。当社は、このような過酷な生活環境から健やかな肌を守り抜き、お客さま一人ひとりの美しさを引き出すことを目指しています。本知見は、肌の免疫機能※2などに着目した研究に応用し、新たなソリューションの開発へとつなげていきます。

本研究成果の一部は、「日本睡眠学会第45回定期学術集会・第30回日本時間生物学会学術大会 合同大会（2023/9/15-17）」で発表

## 歯周病菌がオートファジーを抑制し心血管に悪影響を及ぼすメカニズム 解明－東京医歯大

QLifePro 医療ニュース - 2023/9/26

<https://www qlifepro.com/news/20230926/porphyromonas-gingivalis.html>

▼関連リンク・東京医科歯科大学 プレスリリース

<https://www.tmd.ac.jp/press-release/20230921-1/>

### 歯周病原細菌 P.g.の感染が心血管系に悪影響を及ぼす分子メカニズムは不明だった

東京医科歯科大学は9月21日、歯周病原細菌「Porphyromonas gingivalis (P.g.)」から放出されるプロテアーゼであるジンジパインがオートファゴソームとリソソームの融合に必須の分子 VAMP8 の分解を介してオートファジーを抑制することにより、心筋梗塞後のリモデリング悪化作用を発揮していることを発見したと発表した。この研究は、同大大学院医歯学総合研究科循環制御内科学分野の前嶋康浩准教授と渡辺由佳非常勤講師（日本学術振興会特別研究員 RPD）の研究グループによるもの。研究成果は、「International Journal of Oral Science」に掲載され-----

**以下の1件は、一般社団法人日本スポーツ栄養協会 公式情報サイト「スポーツ栄養 Web」掲載記事（2023年9月20日～10月3日）から選定したものです。**

## 日常的な緑茶・コーヒー摂取と鉄貯蔵に関する新たな知見 日本人1万人以上を精査

<https://sndj-web.jp/news/002440.php> (2023/9/26)

国内の一般住民1万人以上を対象として、緑茶やコーヒーの摂取量と体内の鉄貯蔵量との関連を検討した研究結果が報告された。男性では緑茶やコーヒーの摂取量が多いほど鉄貯蔵量を表す血清フェリチンが低く、女性の場合は閉経前/閉経後で異なる関連が認められたという。医薬基盤・健康・栄養研究所身体活動研究部の南里妃名子氏らの研究によるもので、「Frontiers in Nutrition」に論文が掲載され-----

追記：閉経後女性ではコーヒー摂取量と鉄欠乏との関連が有意であった一方、男性や閉経前の女性では、緑茶やコーヒーの摂取量と鉄欠乏の有意な関連は見られなかったとのことです。

## ■ その他の食品関連科学・技術情報

### 40種類のおいを手軽に制御し提示するカートリッジを発売

ソニーは、におい提示装置「NOS-DX1000」のカスタムカートリッジ「NOS-CK10」を発売する。最大40種類の嗅素を、ユーザーが用途に合わせて注入可能だ。

MONOist - 2023/9/19 <https://monoist.itmedia.co.jp/mn/articles/2309/19/news059.html>

ソニーは2023年9月5日、におい提示装置「NOS-DX1000」のカスタムカートリッジ「NOS-CK10」を同年12月に発売すると発表した。においサンプルの追加に対応する10個入りのサブカートリッジセット「NOS-SC10」、専用工具のカートリッジクランパー「NOS-JG10」も同時に発売……

### IHIが食品3Dプリンタの開発に挑戦、将来は宇宙ステーションでの調理も

MONOist - 2023/9/21 <https://monoist.itmedia.co.jp/mn/articles/2309/21/news086.html>

## ■ その他の科学・技術情報

### ドーパミン細胞が匂いの価値を表現し更新する機構を解明

—報酬や罰に依らない非連合的な感覚学習への寄与を示唆—

理化学研究所 - 2023/9/27 [https://www.riken.jp/press/2023/20230927\\_1/index.html](https://www.riken.jp/press/2023/20230927_1/index.html)

理化学研究所（理研）脳神経科学研究センター 知覚神経回路機構研究チームの加藤 郁佳 リサーチアソシエイト（研究当時）、太田 和美 テクニカルスタッフ I、風間 北斗 チームリーダーらの共同研究チームは、ドーパミン細胞が、動物にとっての匂いの生得的な価値（好き嫌い）を符号化し、その価値を、動物が匂いを嗅ぐ経験を積み重ねる度に更新することを発見……

本研究成果は、匂いなどの感覚刺激に基づく探索行動を担う神経メカニズムの理解につながるかと期待され……

### 採血を行わず採尿で鉄不足者を判定 — 簡便なスクリーニング方法の確立に成功 —

2023年度日本鉄バイオサイエンス学会で学術奨励賞を受賞

株式会社ファンケル - 2023/9/29

[https://www.fancl.jp/news/20230080/news\\_20230080.html](https://www.fancl.jp/news/20230080/news_20230080.html)

株式会社ファンケルは、成人および思春期の鉄不足状態の実態調査とともに、体内の鉄の状態を鋭敏に評価できるフェリチンに着目し、採尿による評価方法として尿検体の尿フェリチンを用いて鉄不足者の簡便なスクリーニングを実用化するための手法を確立したことをお知らせします。

なお本成果は、2023年9月に開催された第47回日本鉄バイオサイエンス学会学術集会にて『思春期の鉄欠乏のスクリーニングにおける尿フェリチンの有用性評価』と題して発表し、「学術奨励賞」を受賞

## 加齢関連の脳疾患を採血だけで鑑別可能な血中バイオマーカー、東北大学が発見

大学ジャーナルオンライン - 2023/10/1 <https://univ-journal.jp/234751/>

東北大学大学院の川畑伊知郎特任准教授らの研究グループは、軽度認知機能障害、アルツハイマー病、パーキンソン病、レビー小体型認知症について、血漿バイオマーカーを用いた疾患識別のための新たな定量化技術を確立。これにより、各疾患を高い精度で鑑別することが可能に……

以上

### 健康食品等に関する

### 日本語記事情報（2023年10月号 No.2）

本文書では、インターネットの日本語記事情報から、（公財）日本健康・栄養食品協会学術情報部が独自の視点で皆様の事業遂行に役立つと判断したものをご紹介します。

（例：法令・行政情報、新製品・新分野の製品の企画開発及び研究開発のお役立ち情報、安全性確保の取組みに活用出来る情報、その他ビジネス環境変化に係る情報等）

**なお、記事の内容の正確性を当協会が保証するものではありません。また、特定の企業、食品素材・成分、製品などの情報が含まれる場合においても、当協会が支援・推進・推奨するものではありません。**

英文記事情報については別途お送りいたします。

**記事によっては短期間でリンク切れになるものがあります。その点ご了承ください。**

## ○ 記事一覧

**基本情報（記事見出し、出典・日付、URL）、冒頭文または記事のポイントとなる部分（民間の情報源には了承を得た上で転載）を表示しております。なお、基本情報のみで記事内容の把握が可能と思われる場合は基本情報のみとしております。**

## ■ 注目記事

### SMC UK メディア説明会 超加工食品－科学は何と言っている？

食品安全情報 blog2 - 2023/10/4

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2023/10/04/173907>

**10月4日分の中ほどの太字見出し。英国の Science Media Centre（科学分野の啓発団体）の情報。アンチ超加工食品の流れに対して、科学的に冷静に捉えるべきとの論調。**

### [BfR]リスク研究者 Mr.Hensel へのインタビュー：「人々は、自分たちがゆっくりと毒されていることを恐れている」

食品安全情報 blog2 - 2023/10/6

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2023/10/06/173048>

**10月6日分の最初の太字見出し。かなりのスペースを割いて BfR（ドイツ連邦リスク評価研究所）のリスク研究者へのインタビューが紹介されています。以下、最終コメント抜粋。**

Q.あなたでも怖いものはあるか？

-リスクのない生活はできない。怖くはないが、呼吸して、食べて、そして物事を経験しなければならない。どんな代償を払っても、あらゆるリスクを回避したいのであれば、結局は完全に無力化され、麻痺してしまい、人生を楽しむことができなくなってしまう！最終的にはそれがはるかに大きなリスクである...

## ■ 安全性関連情報

### 食品安全情報（化学物質）No. 21/ 2023（2023. 10. 11）

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2023/foodinfo202321c.pdf>

## 全リスト

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/index.html>

### ■ 海外公的機関情報

2023年10月17日10時時点で、更新情報はありませんでした。

### ■ 表示、販売等に関する行政機関のアクション情報等

今回、特に見当たりませんでした。

### ■ 行政・法令関連情報（その他）

#### 「アグリビジネス創出フェア 2023『スタートアップが未来をつくる～産学官連携イノベーション～』」の開催について

農林水産省 - 2023/10/6 <https://www.affrc.maff.go.jp/docs/press/231006.html>

農林水産省は、11月20日（月曜日）から11月22日（水曜日）までの3日間、東京ビッグサイトにおいて、農林水産・食品産業分野の技術交流展示会「アグリビジネス創出フェア2023」を開催します。

今年度は、全国の139の機関が最新の研究成果を出展するとともに、各分野の有識者による講演や、農林水産・食品産業分野のスタートアップの創出に向けたセミナーなど、様々な企画を行い-----

#### ほうれんそう中のルテインの定量－高速液体クロマトグラフ法の日本農林規格の一部改正案についての意見・情報の募集について

e-Gov パブリック・コメント - 2023/10/12

<https://public-comment.e->

[gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=550003756&Mode=0](http://gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=550003756&Mode=0)

#### 生鮮トマト中のリコペンの定量－吸光光度法の日本農林規格の一部改正案についての意見・情報の募集について

e-Gov パブリック・コメント - 2023/10/12

<https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=550003757&Mode=0>

## **発芽スイートルーピン抽出たんぱく質に係る食品健康影響評価に関する審議結果（案）についての意見・情報の募集について**

e-Gov パブリック・コメント - 2023/10/12

<https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=095230830&Mode=0>

### **■ 市場予測、動向（食品・健康食品全般）**

今回は特に見当たりませんでした。

### **■ 具体的健康ニーズ・素材・成分、製品情報 （市場予測・動向等）**

#### **【快眠サポート】快眠 ニーズ高まり新原料続々**

健康メディア.com - 2023/10/4 [https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/18168](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/18168)

2017年頃から「睡眠負債」が叫ばれ、年々日本人の睡眠時間や質に対する関心が高まっている。ドラッグストアの店頭や通販サイトでは、GABA やテアニン、乳酸菌などを配合し、快眠を訴求した機能性表示食品や、健康食品が多数流通。機能性表示食品では、クワンソウ、納豆菌、水素など、新たな機能性関与成分を用いた商品も増え、市場活性化に繋がって-----

#### **【北海道】道産ブランド+健康素材、チャンス到来**

健康メディア.com - 2023/10/4 [https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/18166](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/18166)

産学官がスクラムを組み、食の高付加価値を推進する北海道。全国に先駆けてスタートした独自の食品機能性表示制度「ヘルシーDo」は11年目を迎え、商品形態が広がり、累計認定商品は150品超に。利用されている道産機能性素材は30成分まで広がり、新たに生鮮食品も登場。累計売上金額は350億円に迫る。乳酸菌、タモギタケ、米糠、タマネギ、パプリカなど、道産素材を活用した機能性表示食品も増えて-----

#### **【納豆由来・機能性素材】国内外で需要増 機能性研究進む**

健康メディア.com - 2023/10/4 [https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/18164](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/18164)

「ナットウキナーゼ」をはじめとする納豆由来サプリメントの販売がV字回復に向かっていく。今年初旬ぐらいから、ドラッグストアや通販、免税店での販売が伸び始め、原料サプライヤーの輸出も好調に推移している。あるナットウキナーゼのサプライヤーからは、2023年上期は前年同期比150%まで伸長したという声も聞かれた。都内のドラッグストアでは、「海外の方が、ナットウキナーゼサプリメントのパッケージを見せて、同じ商品を購入するケースが昨年より大幅に増えた」と話す。機能性表示食品の受理数も昨年の8社14品から13社21品目に拡大。ナットウキナーゼの血圧分野をメインに、納豆菌では、睡眠の質改善や腸内環境改善のヘルスクレームも登場。また、機能性表示食品とは別に、納豆由来ビタミンK2が骨サポート素材として海外での採用も……

## **【麴菌由来素材】エビデンス蓄積、市場は上昇気流**

健康メディア.com - 2023/10/4 [https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/18160](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/18160)

麴菌由来素材は天然素材であり、長年の食経験があることから、消費者が持つ安心感が高いことが特長だ。原料と発酵に用いられる麴菌の種類によって、酵素や分解物はじめ様々な麴菌発酵生成物が得られ、腸内環境、免疫、肥満抑制、脂質代謝、糖代謝、肝機能、美肌といった幅広い機能性のエビデンス構築が進んでいる。また、妊娠サポート、更年期障害、冷え、骨形成への機能性を持つことから、フェムテック素材としても注目され

## **【注目の人参素材】滋養強壮・疲労回復訴求で安定市場を形成**

健康メディア.com - 2023/10/17

[https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/18231](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/18231)

多種多様な健康食品が流通する中、定番となっている人参素材。原料には、高麗人参、アメリカンジンセン、田七人参などが流通。滋養強壮・疲労回復をはじめ、種多様な健康食品が流通する中、定番となっている人参素材。高麗人参、アメリカンジンセン、田七人参などが流通。滋養強壮・疲労回復をはじめ、血流改善、冷え対策、温活、睡眠改善といった訴求に加え、美容やエナジー系も増加傾向に。コロナ禍における免疫対策やフェムケアなどをテーマとした製品開発も進み、市場拡大が続いている。機能性表示食品では、……

## **【ショウガ】「冷え」「運動」「脂肪」にアプローチ**

健康メディア.com - 2023/10/17

[https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/18224](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/18224)

サプリメントや健康食品、お茶や飲料、一般食品に至るまで、幅広い商品に応用されるショウガ。機能性表示食品では、6-ジンゲロール、6-ショウガオール、ブラックジンジャー由来ポリメトキシフラボンを関与成分とした商品が流通。「体温の維持」「歩行能力の維持」「脂肪消費」など、受理数は321品目に到達した（9月25日現在）。機能性研究は、「アンチエイジング」「筋肉の代謝効率」などに関する知見が報告され、-----

## **【サラシア属植物】機能性表示&トクホのW対応素材**

健康メディア.com - 2023/10/17

[https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/18222](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/18222)

サラシア由来サラシノールを関与成分とする機能性表示食品は、104品目に到達した（9月25日現在）。今年には興和(株)、うすき製薬(株)が届出受理するなど、新規参入企業も目立つ。サラシア属植物普及協会は今年、設立11年目に突入した。機能性表示の届出支援を行っており、法人会員も増加傾向にある。原料サプライヤーでは、SRサポートやサラシノール含有量などを打ち出した差別化提案を活発化、一般食品・飲料向け提案も-----

## **■ 市場・企業動向、注目ビジネス情報**

### **～摂食に関する困りごとに対応したAI搭載献立支援サイトの開設と展開～ 味の素(株)と第一三共(株)、医療関係者や介助者向けの協業に合意**

味の素株式会社 - 2023/10/10

[https://www.ajinomoto.co.jp/company/jp/presscenter/press/detail/2023\\_10\\_10.html](https://www.ajinomoto.co.jp/company/jp/presscenter/press/detail/2023_10_10.html)

味の素株式会社(社長：藤江 太郎 本社：東京都中央区)は、2023年10月10日より、摂食に関する困りごとに対応したAI搭載献立支援サイト「ReTabell」(リタベル)を開設します。当社は「ReTabell」サイト展開の一環として、医療関係者や介助者向けの食と栄養に関するサービスを創出するべく、第一三共株式会社(社長：奥澤 宏幸 本社：東京都中央区、以下第一三共社)と2023年9月21日に協業基本合意書を締結しました。両社は、当社の「ReTabell」サイトと第一三共社の「Healthcare as a Service」を連携させることで、食と栄養のDXを推進-----

## **■ 消費者意識等の調査・分析**

### **<サイバーパネル・レポート>「食事に求めること」**

NRC レポート - 2023/9/28 <https://www.nrc.co.jp/report/230928.html>

2023年6月8日～6月15日に、食事に求めることに関する自主調査を行いました。本調査は、全国のNRCサイバーパネル会員13,471名にインターネットで実施し、提示した9の選択肢（言葉とイラスト）の中で「食事をとる上で、より大切にしていること」を3つまで選んでもらいました。

本レポートでは、全体結果と男女年代別の結果についてご紹介-----

## [30209] 健康によい成分に関するアンケート調査（第6回）

マイボイスコム [https://myel.myvoice.jp/products/detail.php?product\\_id=30209](https://myel.myvoice.jp/products/detail.php?product_id=30209)

### ■ 食品・食品成分の生理機能、健康関連科学情報

#### 金色のユーグレナ®が免疫細胞を活性化状態にすることをヒト試験で確認

自然免疫・獲得免疫の両方に働きかけ、風邪様症状の発生を抑制

株式会社神鋼環境ソリューション - 2023/10/3

<https://www.kobelco-eco.co.jp/topics/news/2023/20231003.html>

今回、人を対象とした金色のユーグレナ®（パラミロン EOD-1®）摂取試験により、多面的な免疫調節機能の評価を行い、自然免疫（単球）と獲得免疫（T細胞）両方の免疫細胞を活性化状態にすることで免疫機能を維持し、風邪様症状の発生を抑制することが初めて見出されま-----

#### ノンアルコール飲料で「飲酒量が減少」することを実証、世界初ー筑波大

QLifePro 医療ニュース - 2023/10/10

<https://www qlifepro.com/news/20231010/non-alcoholic.html>

▼関連リンク・筑波大学 TSUKUBA JOURNAL

<https://www.tsukuba.ac.jp/journal/medicine-health/20231005140000.html>

#### ノンアルコール飲料が飲酒量にどのような影響を与えるのかは未解明

筑波大学は10月5日、ノンアルコール飲料の提供で飲酒量が減少することを世界で初めて実証したと発表した。この研究は、同大医学医療系の吉本尚准教授らの研究グループによるもの。研究成果は、「BMC Medicine」に掲載され-----

#### 低周波超音波治療で「筋肉再生」、メカニズムの詳細を明らかにー広島大

QLifePro 医療ニュース - 2023/10/16

<https://www qlifepro.com/news/20231016/low-frequency-ultrasound-treatment.html>

▼関連リンク・広島大学 研究成果 <https://www.hiroshima-u.ac.jp/news/79412>

### **低周波超音波治療が筋肉を再生するメカニズムは不明だった**

広島大学は10月11日、低周波超音波治療が筋肉を再生することと、その再生メカニズムの詳細を明らかにしたと発表した。この研究は、同大原爆放射線医科学研究所の東幸仁教授らの研究グループによるもの。研究成果は、「American Journal of Sports Medicine」に掲載され……

## **負担のないアトピー性皮膚炎の判別へ、花王が進める皮膚に優しい研究とは？**

マイナビニュース - 2023/10/16

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20231016-2791849/>

*以下の4件は、一般社団法人日本スポーツ栄養協会 公式情報サイト「スポーツ栄養 Web」掲載記事（2023年10月4日～17日）から選定したものです。*

## **就寝前の軽食は、睡眠の質や回復に影響するのか？ 米国の女子大学生サッカー選手を調査**

<https://sndj-web.jp/news/002449.php> (2023/10/4)

就寝前に軽い食事を摂取しても、睡眠時間や睡眠の質に影響はなく、また運動負荷からのリカバリーにも差は生じないのではないかとする研究結果が報告された。全米大学体育協会（National Collegiate Athletic Association ; NCAA）ディビジョンIの女子サッカー選手を対象に、ウェアラブルデバイスを用いて1年間にわたり観察した結果であり、国際スポーツ栄養学会の「Journal of the International Society of Sports Nutrition」に論文が掲載……

## **筋トレ男性を対象に、タンパク質の摂取量と筋肉・パフォーマンス・肝臓・腎臓への影響を調査した結果**

<https://sndj-web.jp/news/002450.php> (2023/10/5)

ふだんレジスタンストレーニングを行っている男性を対象に、タンパク質摂取量を1.6g/kg/日または3.2g/kg/日のいずれかとして16週間介入し、体組成や筋力、および懸垂、垂直跳び、持久力のパフォーマンスへの影響に差が生じるかを検討した研究結果が報告された。また、肝機能と腎機能のマーカーも測定し、それらの臓器への負担の違いも評価されている。結論には、「タンパク質1.6g/kg/日の摂取は、肝・腎機能マーカーに影響を与えるこ

となく、下半身のピークパワーを除いた除脂肪体重、筋力、パフォーマンスの最大化に十分であり、若く健康な男性の安全な摂取量として許容される」と述べられ-----

## **腸内細菌叢や便の状態はトレーニングサイクルや体力とともに変化する 日本代表選手対象研究**

<https://sndj-web.jp/news/002460.php> (2023/10/11)

エリートアスリートの腸内細菌叢は、トレーニングサイクルやパフォーマンスとともに変化していることを示すデータが報告された。さまざまな競技の日本代表選手を対象に行われた横断研究および縦断研究の結果であり、便の性状と腸内細菌叢やパフォーマンスとの間にも有意な関連が認められたという。早稲田大学スポーツ科学学術院の赤澤暢彦氏らの研究結果であり、論文が「Frontiers in Sports and Active Living」に掲載され-----

## **トレーニング後の回復レベルを唾液で把握することができるか？ システムティックレビュー**

<https://sndj-web.jp/news/002463.php> (2023/10/16)

アスリートのトレーニング後の免疫反応やホルモン分泌の変化を、唾液検体を用いたマーカーでどの程度評価可能か、現時点のエビデンスをシステムティックレビューによりまとめた論文が報告された。唾液中のコルチゾールとテストステロンは、間違いなく運動の影響を受けて変動しているが、回復の程度を評価可能なマーカーとしての有用性確立には、さらなる研究が必要と述べられて-----

## **■ その他の食品関連科学・技術情報**

### **大阪公大、従来法比約 350 倍の計算速度の粉体混合シミュレーションを開発**

マイナビニュース - 2023/10/4

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20231004-2785100/>

## **■ その他の科学・技術情報**

### **富士通と理化学研究所、独自の生成 AI でタンパク質の構造変化を予測する創薬技術を開発**

IoTNEWS - 2023/10/11 <https://iotnews.jp/ai/235433/>

タンパク質は非常に柔軟で、さまざまな形態を取り得ることで、生体内の他の分子と相互作用している。

例えば、ヒトに感染するウイルスが体内に侵入するには、ウイルス表面のタンパク質の形態が変化して細胞表面のタンパク質と結合するため、感染を抑制する薬を効率的に設計するには、ウイルス表面におけるタンパク質の多様な変化の形態を知ることが重要となる。

しかし、タンパク質はそれぞれの原子が3次元の座標を持ち、原子数×3の次元を持つ高次元データとなる。このような高次元空間で、標的タンパク質の広範囲な構造変化の情報を得るには、高度な専門知識と試行錯誤が必要であり、長い期間と多くの費用が必要であった。

この課題解決に向けて、-----

## 女性ホルモンを常に計測する“指輪” 排卵や月経を正確予測 米カリフォルニア工科大学が開発

ITmedia - 2023/10/6 <https://www.itmedia.co.jp/news/articles/2310/05/news052.html>

米カリフォルニア工科大学に所属する研究者らが発表した論文「A wearable aptamer nanobiosensor for non-invasive female hormone monitoring」は、女性ホルモンを検出する薄くて小型な汗センサーを提案した研究報告である。このセンサーを利用すると、汗からの成分分析により、排卵や月経を正確に予測できると-----

## 生成 AI で独自の価値創出を、中外製薬が狙う R&D プロセスの革新

MONOist - 2023/10/6 <https://monoist.itmedia.co.jp/mn/articles/2310/06/news056.html>

中外製薬は2023年9月29日、同社のDX（デジタルトランスフォーメーション）推進に関する説明会を開催した。本稿では同社の生成AI（人工知能）活用に関する発表を抜粋して紹介-----

## ■ その他

**英文情報サイト *Foodnavigator-asia* に10月12日付けで、英文記事の和訳版が掲載されましたのでご紹介いたします。タイトルのクリックで記事本文が閲覧できます。**

[スタートアップ・スポットライト: インドの Bira91、シンガポールの Curated Culture、ニュージーランドの AF Drinks など](#)

[今が旬: CSIRO 主導の健康的な食事、パーム油に関する Nestle、食品イノベーション AI、その他ソーシャルメディアのトレンドニュースの話題](#)  
([foodnavigator-asia.com](http://foodnavigator-asia.com))

[ポリシー・ピック: 韓国 GM 食品、ニュージーランド食料品コード、インドの甘味料スタンスなど](#) ([foodnavigator-asia.com](http://foodnavigator-asia.com))

[より健康的な選択: 中国コラーゲン市場における+PW、ロツテのより健康的な革新計画、Eu Yan Sang の北米における拡大など](#)  
([foodnavigator-asia.com](http://foodnavigator-asia.com))

[ジャパン フォーカス: インドで承認されたプラズマ乳酸菌、日本のウイスキー復活、FFC の輸出機会、日清のプラントベースウナギなど](#)  
([foodnavigator-asia.com](http://foodnavigator-asia.com))

以上

## **健康食品等に関する**

### **日本語記事情報 (2023 年 11 月号 No.1)**

本文書では、インターネットの日本語記事情報から、(公財)日本健康・栄養食品協会 学術情報部が独自の視点で皆様の事業遂行に役立つと判断したものをご紹介いたします。

(例: 法令・行政情報、新製品・新分野の製品の企画開発及び研究開発のお役立ち情報、安全性確保の取組みに活用出来る情報、その他ビジネス環境変化に係る情報等)

**なお、記事の内容の正確性を当協会が保証するものではありません。また、特定の企業、食品素材・成分、製品などの情報が含まれる場合においても、当協会が支援・推進・推奨するものではありません。**

英文記事情報については別途お送りいたします。

**記事によっては短期間でリンク切れになるものがあります。その点ご了承ください。**

#### **○ 記事一覧**

基本情報（記事見出し、出典・日付、URL）、冒頭文または記事のポイントとなる部分（民間の情報源には了承を得た上で転載）を表示しております。なお、基本情報のみで記事内容の把握が可能と思われる場合は基本情報のみとしております。

## ■ ピックアップ情報

これまでは、「注目情報」の見出しの下でご紹介しておりましたが、今号より「ピックアップ情報」に変更いたしました。スルーして頂きたい記事情報を、編者の見識・感性（思い入れも少し）に基づきピックアップしてご紹介する場とご理解下さい。

### 「食品企業向け人権尊重の取組のための手引き（案）」についての意見・情報の募集について

e-Gov パブリック・コメント - 2023/10/26

<https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=550003784&Mode=0>

#### 食品企業向け人権尊重の取組のための手引き（案）

<https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/PcmFileDownload?seqNo=0000261759>

追記：欧米を中心とした人権尊重を重視する法規制の導入、欧米企業が自社のみならず直接・間接を問わず、取引企業に対しても人権尊重の取組を求められている動きが背景にあると思います。以下、手引（案）から抜粋。

食品企業を取り巻く環境～自社や下請先等労働者の人権尊重と調達先労働者の人権尊重、人権尊重の取組の取引条件化

- 食品企業において人権尊重の取組を進めるに際しては、大きく2つの視点があります。
- 一つは、自社やグループ会社、直接取引先における労働者の人権尊重です。例えば、安全衛生が不十分な労働環境、ハラスメント、非正規雇用労働者や外国人労働者に対する社内規定・制度等での差別、国内調達先での外国人技能実習生の人権侵害等が懸念されています。
- もう一つは、間接取引先における労働者の人権尊重です。例えば、海外の原材料生産地では児童労働や強制労働が発生している場合があります。こうした調達先から原材料を調達することによる人権侵害への間接的な関与が懸念されています。
- こうした状況の中、大手の食品企業では、調達先における人権尊重の取組状況について、アンケート調査や訪問監査で確認したり、取引の開始や継続に際して、調達先にも自社が定める人権尊重の取組方針を遵守するよう求めたりする動きが増えています。

消費財企業は、原料調達の上流部分の企業（間接取引先も含む）の問題活動（熱帯雨林の破壊、児童労働や低賃金等の労働問題、等々）にも注意を払う必要があります。こうした動

きが海外記事で目に付くようになったのは10年以上前ですが、日本でも今後動きが加速化しそうです。

## 花王、ライオンなど7社がスクラム、人権DDを効率化へ

株式会社オルタナ/オルタナオンライン - 2023/10/25 <https://www.alterna.co.jp/104055/>

(無断転載を禁じます)

### 記事のポイント

1. 「化粧品&日用品業界のバイヤー会員 Sedex ワーキングチーム」が発足
2. 同じ業界で連携することで、効率的な人権DDを目指す
3. 花王、ライオン、ユニ・チャームなど7社が参加する

-----

## 花王、「生物多様性の行動指針」を公開

花王株式会社 - 2023/10/31

<https://www.kao.com/jp/newsroom/news/release/2023/20231031-001/>

花王株式会社（社長・長谷部佳宏）は、2023年10月31日、「生物多様性保全の行動指針」を改訂し、「生物多様性の行動指針」として公開しました。今後も、生物多様性の保全と回復、さらに自然を再生へと導く活動を、花王自ら積極的に行うとともに、生活者やビジネスパートナー、そして社会とも一緒に取り組んでまいり-----

## 「食」と「ウェルビーイング」の関係性を明らかにする世界初の研究調査「Recipes for Wellbeing Report」を発表

日清食品株式会社 - 2023/10/18 <https://www.nissin.com/jp/news/11980>

日清食品株式会社（社長:安藤 徳隆、以下 日清食品）と公益財団法人 安藤スポーツ・食文化振興財団（理事長:安藤 宏基、以下 安藤財団）は、米国の世論調査会社であるギャラップ（CEO:Jon Clifton）の協力のもと、「食」と「ウェルビーイング\*」の関係性を世界で初めて明らかにした研究調査「Recipes for Wellbeing Report」（食とウェルビーイングの関係性レポート）を発表しました。

国の経済規模を測る指標として活用されてきたGDP（国内総生産）ですが、本当の豊かさ、不平等、持続可能性が評価できないといった指摘が存在しています。そこで近年は、GDPに代わる豊さの指標を構築しようとする考え方（Beyond GDP）が広がっており、中でも心身だけでなく社会的にも良好な状態を表す概念である「ウェルビーイング」が注目を---

---

## ■ 安全性関連情報

以下、3件は2023年10月18日の食品安全情報 blog2 の中で目に付いたトピックスです。

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2023/10/18/174756>

### [FSA]アクリルアミドとフランの英国小売における 2020-21 年の調査

上から 2 番目の太字見出し

### [FSA]食品基準庁及び食品基準庁スコットランドは CBD の消費者への助言を更新

中ほどの太字見出し

### -欧州の PFAS へのアプローチについての洞察

下の方の太字見出し「その他」の最初の見出し。飲料水の汚染で問題になっている PFOA や PFOS と違って環境汚染物質としてのリスクが低いものにまで、PFAS として広範囲に網をかけて禁止しようとする欧州での動きに対して批判的な内容になっています。

### 食品安全情報（化学物質）No. 22/ 2023（2023. 10. 25）

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2023/foodinfo202322c.pdf>

今回は目に付いたのは次の見出しです。

【FSA】英国食品基準庁及びスコットランド食品基準庁は CBD の消費者への助言を更新

全リスト

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/index.html>

## ■ 海外公的機関情報

### 内分泌かく乱物質を含む製品の情報提供を義務付け（フランス）

日本貿易振興機構（ジェトロ） - 2023/10/26

<https://www.jetro.go.jp/biznews/2023/10/b0b4d827c8c68ffd.html>

### 米カリフォルニア州知事、食品添加物 4 種の使用を禁止する法案に署名（米国）

日本貿易振興機構（ジェトロ） - 2023/10/31

<https://www.jetro.go.jp/biznews/2023/10/8ad5915f55a51ad8.html>

以下の3件は、**食品安全委員会 食品安全総合情報システム**

**(<https://www.fsc.go.jp/fsciis/>) の更新情報 (2023/10/18 確認) の中から、気になったものを選定しました。**

**[見出しのクリックで内容をご覧ください。](#)**

- 18. [ドイツ連邦リスク評価研究所\(BfR\)、様々な種類の魚の摂取を介した PCDD/F、ダイオキシン様 PCB 及び PFAS へのばく露推定に関する意見書を公表](#)
- 26. [米国環境保護庁\(EPA\)、永久に残る化学物質から地域社会をより良く守るため、PFAS データの報告を義務付ける規則を最終決定](#)
- 48. [ドイツ連邦リスク評価研究所\(BfR\)は、特定穀類製品中の麦角アルカロイドによる健康リスク評価を公表](#)

## ■ 表示、販売等に関する行政機関のアクション情報等

今回は特に見当たりませんでした。

## ■ 行政・法令関連情報（その他）

### 第1回「分かりやすい栄養成分表示の取組に関する検討会」の開催について

消費者庁 - 2023/10/26 <https://www.caa.go.jp/notice/entry/035031/>

**追記：報道によると、加工食品の栄養成分表示について、商品パッケージの裏面ではなく表面に表示する方法を検討するとのこと。**

### 第108回コーデックス連絡協議会(開催案内)

厚生労働省 - 2023/10/25 [https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage\\_35685.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_35685.html)

## 「食品、添加物等の規格基準の一部を改正する件（案）」（清涼飲料水の規格基準の改正）に関する御意見の募集について寄せられた御意見について

e-Gov パブリック・コメント - 2023/10/18

<https://public-comment.e->

[gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCM1040&id=495230080&Mode=1](https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCM1040&id=495230080&Mode=1)

## マーガリン類の日本農林規格の一部改正案についての意見・情報の募集について

e-Gov パブリック・コメント - 2023/10/24

<https://public-comment.e->

[gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=550003779&Mode=0](https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=550003779&Mode=0)

## チルドハンバーグステーキの日本農林規格の一部改正案についての意見・情報の募集について

e-Gov パブリック・コメント - 2024/10/24

<https://public-comment.e->

[gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=550003777&Mode=0](https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=550003777&Mode=0)

## 食用精製加工油脂の日本農林規格の一部改正案についての意見・情報の募集について

e-Gov パブリック・コメント - 2024/10/24

<https://public-comment.e->

[gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=550003773&Mode=0](https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=550003773&Mode=0)

## チルドミートボールの日本農林規格の一部改正案についての意見・情報の募集について

e-Gov パブリック・コメント - 2024/10/24

<https://public-comment.e->

[gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=550003778&Mode=0](https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=550003778&Mode=0)

## 風味調味料の日本農林規格の一部改正案についての意見・情報の募集について

e-Gov パブリック・コメント - 2024/10/24

<https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=550003776&Mode=0>

## 精製ラードの日本農林規格の一部改正案についての意見・情報の募集について

e-Gov パブリック・コメント - 2023/10/24

<https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=550003781&Mode=0>

## ショートニングの日本農林規格の一部改正案についての意見・情報の募集について

e-Gov パブリック・コメント - 2024/10/24

<https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=550003780&Mode=0>

## ぶどう糖の日本農林規格の確認案についての意見・情報の募集について

e-Gov パブリック・コメント - 2024/10/24

<https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=550003782&Mode=0>

## 削りぶしの日本農林規格の一部改正案についての意見・情報の募集について

e-Gov パブリック・コメント - 2024/10/24

<https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=550003772&Mode=0>

## マカロニ類の日本農林規格の一部改正案についての意見・情報の募集について

e-Gov パブリック・コメント - 2024/10/24

<https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=550003771&Mode=0>

## スポーツにおける使用を禁止すべき物質及び国際規約に違反する行為を定める省令の一部を改正する省令に関する意見募集の実施について

e-Gov パブリック・コメント - 2024/10/27

<https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=185001335&Mode=0>

## ■ 市場予測、動向（食品・健康食品全般）

### 海外の最新機能性素材トレンドから読み解く！ これから日本で最も注目すべき3つのテーマとは？

ウェルネス総研レポート online - 2023/10/24 <https://wellnesslab-report.jp/3017/>

2023年夏、世間は長かったマスク装着や行動制限からようやく解放されました。あれほど注目を集めた免疫系の健康食品やサプリメントはその勢いを失い、もはや機能性表示をまとっただけの製品は思うように売れ続けることができません。

多くの食品企業が頭を悩ませるなか、一般社団法人ウェルネス総合研究所は食品業界トレンドセミナー第2回として、「“海外の最新機能性素材トレンド”グローバルトレンドの変遷とマーケティング視点から読み解く、これからの日本での注目素材と可能性！」について、2023年9月20日（水）にセミナーを開催しました。本総研理事の藤田康人氏と武田猛氏によるセミナーと、2人のパネルディスカッションの内容をレポートし……

## ■ 具体的健康ニーズ・素材・成分、製品情報 (市場予測・動向等)

今回は特に見当たりませんでした。

## ■ 消費者意識等の調査・分析

### 外食に求める生活者の健康感とは？

## ファストフード利用者に向けたスマートミールの可能性

ウェルネス総研オンライン - 2023/10/18 <https://wellnesslab-report.jp/2978/>

2023年9月1日（金）～3日（日）、「すべての人の幸福を目指した実践栄養学の発信ーソーシャルインクルージョンの実現に栄養学を取り入れるー」をテーマに第70回日本栄養改善学会学術総会が開催されました。その中で9月3日（日）に開かれたランチョンセミナー「外食に求める生活者の健康感とは？～ファストフード利用者に向けたスマートミールの可能性～」において、ウェルネス総研と吉野家ホールディングスが共同で行った「生活者と外食利用における関係性」に関する調査を発表……

## 新しい考察を加えて、よりビジネスに活用しやすく「ウェルネストレンド白書 Vol.3」

ウェルネス総研オンライン - 2023/10/19 <https://wellnesslab-report.jp/2968/>

一般社団法人ウェルネス総合研究所は、20代～70代の生活者4,795名の健康・ウェルネスに関する意識と行動に基づき、今後予測されるヘルス・トレンドシナリオを洞察した調査レポート『ウェルネストレンド白書 Vol.3』を2023年10月2日に刊行しました。定点観測として7つの健康セグメントに沿った分析がさらに深められた一方で、今回新たに考察した「食事マネジメント」と「見た目（POA：ペース・オブ・エイジング）の向上」についても、大変興味深い調査結果が得られています。本調査の監修者であるグローバルニュートリショングループの武田猛氏に、今回の白書の注目ポイントと活用法についてうかがい……

## ネスレ ヘルスサイエンスが実施した、便秘患者に対する「食物繊維の高配合流動食」使用実態調査結果が「Clinical Nutrition Open Science」誌に掲載

ネスレ日本 ネスレ ヘルスサイエンス カンパニー - 2023/10/20

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000017.000123851.html>

ネスレ日本株式会社 ネスレ ヘルスサイエンス カンパニー(本社：兵庫県神戸市、カンパニープレジデント：中島昭広、以下「ネスレ ヘルスサイエンス」)が実施した、経腸栄養法による栄養療法を行う患者の便秘に対し、多種類の食物繊維を豊富に含有する流動食（以下、「食物繊維高配合流動食」）の使用実態調査について、横浜市立大学大学院医学研究科肝胆膵消化器病学教室 主任教授 中島淳氏らが調査結果をまとめた論文が、2023年9月23日（土）に「Clinical Nutrition Open Science」誌のオンライン版に掲載され……

## **【ネスレヘルスサイエンス プロテインに関する実態調査】プロテイン市場は次なるステージへと進化中！**

首都圏に暮らす、プロテインサプリメントを利用する女性のデータから考察需要が高まる“オーガニックプロテイン”

ネスレ日本 ネスレ ヘルスサイエンス カンパニー - 2023/10/17

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000014.000123851.html>

ネスレ日本株式会社 ネスレ ヘルスサイエンス カンパニー（本社：兵庫県神戸市、カンパニープレジデント：中島昭広、以下「ネスレヘルスサイエンス」）は、2022年11月、首都圏在住のプロテインサプリメントを摂取する、25歳から54歳の女性1,161名に対し、プロテインに関する使用実態について、調査を行いました。

この調査をもとに、首都圏に住む女性のプロテインサプリメントの選択と摂取に対する意識、そして今後のプロテインサプリメントの需要について考察した結果、プロテインサプリメントを摂取する目的として、美肌や美髪などの美容面を目指す女性や、QOL（クオリティ・オブ・ライフ：暮らしの品質）を維持するための健康維持を目指す女性の意見が多く見られ……

## **■ 食品・食品成分の生理機能、健康関連科学情報**

### **高齢者で筋幹細胞が減少する機序の一端を解明、サルコペニア対策の手掛かりに—NCNP**

QLifePro 医療ニュース - 2023/10/24

<https://www qlifepro.com/news/20231024/muscle-precursor-cells.html>

▼関連リンク・国立精神・神経医療研究センター プレスリリース

<https://www.ncnp.go.jp/topics/2023/20231019p.html>

#### **筋幹細胞の数が加齢でも「減少しにくい筋肉部位」に着目**

国立精神・神経医療研究センター（NCNP）は10月19日、加齢と共に骨格筋の幹細胞数が減少するメカニズムの一端を解明し、ニコチンアミドアデニンジヌクレオチド

（NAD<sup>+</sup>）の前駆体であるニコチンアミドモノヌクレオチド（NMN）投与によるミトコンドリア機能回復が筋幹細胞数の維持に貢献することを発見したと発表した。この研究は、同センター神経研究所遺伝子疾患治療研究部の本橋紀夫室長、峰岸かつら室長、青木吉嗣部長の研究グループによるもの。研究成果は「Cell Death & Disease」に掲載され……

## **日常的なチーズの摂取が認知機能の高さと関わることが特定の地域在住の日本人高齢者を対象とした疫学研究により判明～7月18日 国際科学雑誌 Nutrients に論文掲載～**

株式会社明治 - 2023/10/19

[https://www.meiji.co.jp/corporate/pressrelease/2023/1019\\_01/index.html](https://www.meiji.co.jp/corporate/pressrelease/2023/1019_01/index.html)

株式会社 明治（代表取締役社長：松田 克也）、桜美林大学（学長：畑山 浩昭）および地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター（理事長：鳥羽 研二）の共同研究グループは、特定の地域に在住する高齢者を対象とした疫学研究により、チーズの摂取が認知機能の高さと関連することを明らかにしました。当研究成果は、2023年7月18日に、栄養学分野で評価の高い国際学術誌 Nutrients に掲載されました。（Kim et al. Nutrients, 2023, 15(14):3181. doi:10.3390/nu15143181.）

-----

## **【名城大学】スイゼンジノリがつくる紫外線吸収物質を発見～天然由来の美容成分として化粧品分野への応用に期待～**

大学プレスセンター - 2023/10/20 <https://www.u-presscenter.jp/article/post-51786.html>

名城大学（名古屋市天白区）大学院総合学術研究科の景山伯春教授（分子生物学）の研究チームは、生産開発科学研究所、神戸薬科大学およびチュラロンコン大学と協力して、スイゼンジノリがつくる新奇な紫外線吸収物質を発見しました。発見した物質「サクリピン」は、アンチエイジングに寄与する抗酸化活性・抗糖化活性を示し、細胞毒性も認められなかったため、天然由来の美容成分として応用可能です。研究成果は2023年10月20日に米国化学会が刊行する国際科学雑誌「Journal of Agricultural and Food Chemistry（電子版）」に掲載され-----

## **ウェルナス、ナスの血圧改善・抗ストレスに関する特許が実施可能に**

株式会社ウェルナス - 2023/10/25

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000026.000062426.html>

「食」で未来の健康社会実現を目指す株式会社ウェルナス（所在地：東京都杉並区 / 代表取締役社長：小山正浩、以下、ウェルナス）は、野菜の「ナス」に多量に含まれる「コリンエステル」の研究を行っている信州大学発スタートアップです。2023年10月6日、ナス由来コリンエステルを有効成分とする血圧降下および抗ストレスのための食品およびその製造方法に関する国内出願特許が特許登録されました（特許第7362098号）。ウェルナスは、特許権利者（出願人）である信州大学から再実施権付通常独占実施権のライセンスを受け、ナスを原料とした血圧改善や抗ストレスサプリメントの事業を行う予定-----

## 『バクチオール』『ナイアシンアミド』『ワレモコウ』による相乗的な皮膚の老化抑制効果を発見

株式会社ノエビアホールディングス - 2023/10/17

[https://www.noevir.co.jp/new/ir\\_info/pdf/per54/231017.pdf](https://www.noevir.co.jp/new/ir_info/pdf/per54/231017.pdf)

ノエビアグループは、しわをはじめとする皮膚の老化に関する研究により、次世代レチノールといわれているオランダビュ由来『バクチオール』に老化抑制の新たな作用メカニズムを発見しました。また、機能性タンパク質「TCF25」に老化抑制効果を新たに発見し、自社栽培『ワレモコウ』がその老化抑制タンパク質を増加させることを見出しました。新しい機能を導き出した『バクチオール』と『ワレモコウ』に加え、しわ・シミなどの有効成分である『ナイアシンアミド』を組み合わせることで、コラーゲン分解酵素を相乗的に減少させることを明らかにしました。『バクチオール』『ナイアシンアミド』『ワレモコウ』の組み合わせにより、しわが目立たない美しい肌へ導く効果が期待できます。

研究成果の一部は2023年9月9日～10日に開催された「日本生薬学会第69回年会」にて発表-----

## 育毛効果成分をヒトiPS細胞による新手法で確認、ミルボンと大阪公立大学

大学ジャーナルオンライン - 2023/10/30 <https://univ-journal.jp/235316/>

株式会社ミルボンは、育毛成分の探索のため、ヒトiPS細胞を活用し、毛髪関連遺伝子の発現上昇を指標とした育毛研究を行い、効果成分を見出した。さらにこの成分は、大阪公立大学とミルボンの共同研究部門である『薬物生理動態共同研究部門』において、ヒト毛包組織にて毛髪の伸長を促進させることを確認-----

## 失われたキューティクルの代わりに髪を守り続ける潤滑性と耐久性を両立するヘアケア新素材

花王株式会社 - 2023/10/26

<https://www.kao.com/jp/newsroom/news/release/2023/20231026-002/>

花王株式会社（社長・長谷部佳宏）ヘアケア研究所・マテリアルサイエンス研究所・解析科学研究所は、洗髪などの物理的摩擦にも強いハイドロゲルの新素材を開発しました。現在トリートメントに応用しており、今後はより幅広いヘアケア商品の開発などに活用する予定です。

今回の研究成果は、第 74 回コロイドおよび界面化学討論会（2023 年 9 月 12～15 日・長野県）と第 71 回レオロジー討論会（2023 年 10 月 19～20 日・愛媛県）にて発表-----

## 発汗時の汗腺収縮メカニズムの解明と新たな制汗成分を発見 大阪大学など

大学ジャーナルオンライン - 2023/10/31 <https://univ-journal.jp/235323/>

大阪大学大学院、長崎大学大学院、大阪公立大学大学院の研究グループは、ヒトが発汗する際に、どのような機構で汗腺の収縮が起こっているかを明らかにした。本研究結果はスペイン・バルセロナで 2023 年 9 月 4 日～7 日に行われた国際学会(IFSCC2023)において、ポスター部門の最優秀賞を受賞-----

## 人の細胞がコレステロールを処理する仕組みを解明 シンガポール佐伯准教授、内藤博士ら

ASEAN 科学技術ニュース - 2023/10/24

[https://spap.jst.go.jp/asean/news/231004/topic\\_na\\_03.html](https://spap.jst.go.jp/asean/news/231004/topic_na_03.html)

## 米麴の成分が心理身体的ストレスによる症状を軽減！ - 新大が解明

マイナビニュース - 2023/10/20

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20231020-2797611/>

*以下の 4 件は、一般社団法人日本スポーツ栄養協会 公式情報サイト「スポーツ栄養 Web」掲載記事（2023 年 10 月 18 日～31 日）から選定したものです。*

## 月経困難症の痛みをオメガ 3 サプリで軽減できるか？ 既報研究のメタ解析で有意な結果

<https://sndj-web.jp/news/002469.php> (2023/10/20)

女性の月経痛をオメガ 3 ( $\omega 3$ ) サプリメントによって軽減されるか否かを、システムティックレビューとメタ解析により検討した結果が報告された。300～1,800mg を 2～3 カ月摂取することの有用性が確認されたと-----

## 朝食を食べないと運動が楽しくなくなる可能性 思春期女子でのクロスオーバー試験

<https://sndj-web.jp/news/002473.php> (2023/10/24)

思春期の女子を対象に、朝食欠食による代謝や基質酸化などへの影響を検討した結果が英国から報告された。成人では知られている「セカンドミール効果」が思春期の女子にも存在し、朝食を欠食した場合は昼食後の糖代謝への負荷が高くなることが明らかになったという。また、朝食欠食によって、午後の身体活動の楽しみが低下する傾向も認められたとの…

## e スポーツでも栄養は大事！ 認知パフォーマンスと栄養、身体活動、睡眠との関連が明らかに

<https://sndj-web.jp/news/002483.php> (2023/10/30)

e スポーツアスリートも、身体スポーツのアスリートと同様に、栄養が重要であることを示す研究結果が報告された。微量栄養素の摂取量や野菜摂取量と認知機能が正相関すること、タンパク質摂取量の多寡で二分すると認知機能に有意差があることなどが明らかに……

## BMI が高くない人のケトジェニック食は要注意？ LDL-C が約 500mg/dL まで上昇した症例報告

<https://sndj-web.jp/news/002488.php> (2023/10/31)

ケトジェニック食を始めたことが原因と推測される、LDL-コレステロールが 500mg/dL 近くまで上昇した患者の症例が報告された。著者によると、このような反応は体脂肪量の少ない人に起こりやすいと考えられ、「ケトジェニック食開始後は脂質関連指標のモニタリングが不可欠だ」と述べて……

## ■ その他の科学・技術情報

### 関節の動きを解析する「歩行メカニクスモニタリング技術」を確立 スマホをお腹に抱えて 8 歩歩くだけで歩行の姿勢や癖を見える化

花王株式会社 - 2023/10/31

<https://www.kao.com/jp/newsroom/news/release/2023/20231031-002/>

花王株式会社（社長・長谷部佳宏）パーソナルヘルスケア研究所は、国立研究開発法人産業技術総合研究所（理事長・石村和彦）との共同研究により、歩行時の骨盤の 3 軸加速度データ から、骨盤や下肢関節の動きや姿勢を可視化し、スコア化する歩行メカニクスモニタリング技術を確立しました。さらに本技術を応用し、スマートフォンをお腹に抱えて 8 歩歩くだけで歩行の姿勢や癖を評価できる研究アプリ「Walk Coordinator」を開発しました。

花王は、この技術を歩行機能が低下する原因を明らかにするツールとして研究開発に応用し、人々の心身の健康増進に貢献していきます。

今回の研究成果は、第10回日本予防理学療法学会学術大会（2023年10月28～29日・北海道）にて発表……

## 最も「かわいい」と思えるのは2つの対象につながりを感じるときと判明－阪大ほか

QlifePro 医療ニュース - 2023/10/20

<https://www.qlifepro.com/news/20231020/cute-social-robots.html>

▼関連リンク・大阪大学 ResOU

[https://resou.osaka-u.ac.jp/ja/research/2023/20231016\\_1](https://resou.osaka-u.ac.jp/ja/research/2023/20231016_1)

見た目以外でヒトに「かわいい」と感じてもらうために重要な要素は？

大阪大学は10月16日、見た目の似ている対象が複数存在するとき、その対象の間でつながりを感じられる状況において、より「かわいい」と感じられることを、写真および動画を用いて明らかにしたと発表した。この研究は、同大大学院人間科学研究科の入野宏教授、ATRインタラクティブ科学研究所エージェンティインタラクティブデザイン研究室の塩見昌裕室長らの共同研究グループによるもの。研究成果は、「PLOS ONE」オンラインに掲載され……

## ■ その他

### 「点と点を結ぶ」AIが描く食品・飲料業界の未来

マイナビニュース - 2023/10/30

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20231030-2806290/>

以上

## 健康食品等に関する

### 日本語記事情報（2023年11月号 No.2）

本文書では、インターネットの日本語記事情報から、（公財）日本健康・栄養食品協会学術情報部が独自の視点で皆様の事業遂行に役立つと判断したものをご紹介します。

（例：法令・行政情報、新製品・新分野の製品の企画開発及び研究開発のお役立ち情報、安全性確保の取組みに活用出来る情報、その他ビジネス環境変化に係る情報等）

なお、記事の内容の正確性を当協会が保証するものではありません。また、特定の企業、食品素材・成分、製品などの情報が含まれる場合においても、当協会が支援・推進・推奨するものではありません。

記事によっては短期間でリンク切れになるものがあります。その点ご了承ください。

## ○ 記事一覧

基本情報（記事見出し、出典・日付、URL）、冒頭文または記事のポイントとなる部分（民間の情報源には了承を得た上で転載）を表示しております。なお、基本情報のみで記事内容の把握が可能と思われる場合は基本情報のみとしております。

## ■ 安全性関連情報

以下の2件は11月9日付け食品安全情報 blog

(<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2023/11/09/183735>) で

取り上げられています。

[WHO]食物アレルギーのリスク評価：パート 5：特定の木の实（ブラジルナッツ、マカデミアナッツ又はクイーンズランドナッツ、松の实）、大豆、セロリ、ルーピン、マスタード、ソバ、オート麦の閾値の見直しと設定：会合報告 *上から2番目の太字見出し*

[FDA]食品への臭素化植物油(BVO)の使用を認める規則の取り下げをFDAが提案 *中ほどやや上*

## 食品安全情報（化学物質）No. 23/ 2023（2023. 11. 08）

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2023/foodinfo202323c.pdf>

気になった見出しは以下の通りです。内2件は、上でご紹介した11月9日付け食品安全情報 blog2 でも取り上げられています。

【WHO】

2. 食物アレルギーのリスク評価：パート 5：特定の木の实（ブラジルナッツ、マカデミアナッツ又はクイーンズランドナッツ、松の实）、大豆、セロリ、ルーピン、マスタード、ソバ、オート麦の閾値の見直しと設定：会合報告

#### 【FDA】

1. 栄養学、健康的食品の選択肢及び包装前面表示の進歩
5. 食品への臭素化植物油(BVO)の使用を認める規則の取り下げを FDA が提案

#### 全リスト

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/index.html>

## ■ 海外公的機関情報

以下の 6 件は、**食品安全委員会 食品安全総合情報システム**

(<https://www.fsc.go.jp/fsciis/>) の更新情報 (2023/11/1 確認) の中から、気になったものを選定しました。

[見出しのクリックで内容をご覧頂けます。](#)

27. [英国食品基準庁\(FSA\)、食品中のカンナビジオールの推奨される一日摂取量に関する勧告の変更を公表](#)
31. [ドイツ連邦リスク評価研究所\(BfR\)、妊娠中及び授乳中における魚の摂取に関して、一部の魚種は高レベルのメチル水銀を含有するとの意見表明\(No.047/2023\)を公表](#)
32. [米国環境保護庁\(EPA\)、有害物質規制法\(TSCA\)に基づく PFAS の報告及び記録保持要件に関する規則を最終決定](#)
33. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、香辛料中のニコチンに対する最大残留基準値\(MRL\)の対象を絞ったリスク評価に関する声明を公表](#)
41. [英国食品基準庁\(FSA\)、英国において販売される食品中のアクリルアミド及びフラン類に関する調査結果\(2020-2021 年\)を公表](#)
45. [欧州委員会\(EC\)、食品添加物としての亜硝酸塩類及び硝酸塩類に新しい削減された使用基準の上限を設定する旨を公表](#)

## ■ 行政・法令関連情報（その他）

[「機能性表示食品の届出等に関するガイドライン」の一部改正案に関する意見募集の結果の公示について](#)

## ■ 具体的健康ニーズ・素材・成分、製品情報 (市場予測・動向等)

### 【南米・機能性素材】人気のマカ、フェムケアで利用拡大

健康メディア.com - 2023/11/9 [https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/18298](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/18298)

南米原産の機能性素材は、伝承的薬効にエビデンスが備わり、一般食品、健食向けのほか、外食産業でも利用されるようになった。また、農業支援、アップサイクルなどに関わる素材も多く、近年はSDGsの観点からも関心が高まっている。メジャー素材・マカは、活力系ハーブとして販売チャネルを問わず人気を維持。天然ビタミンC高含有のカムカムなどは免疫に対する意識が高まり、再脚光を浴びている。アサイー、マキベリーなどのスーパーフード素材は女性からの支持が高い。ここ数年は、国内外でフェムケア分野の市場が盛り上がる中、女性のホルモンバランス調整作用、睡眠障害改善作用などを有するマカの利用が進むほか、フルーツ由来のアグアへなども注目度が上昇……

### 【冷え対策】フェムケアとも連動、さらなる成長に期待

健康メディア.com - 2023/11/9 [https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/18296](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/18296)

健康・美容のために日常的に身体を温める「温活」というライフスタイルが定着したことで、身体を温める商材の市場も近年盛況に推移している。最近では腸温活など、“温活+〇活”もトレンドになりつつある。話題のフェムケア分野では、女性特有の不定愁訴軽減や妊活等で、温活を組み合わせるケースが増えている。今回の取材では、家庭用医療機器や健康機器類、入浴剤など Non-Foods 分野は堅調な動きが見られた。またショウガやヒハツなどの温感素材を用いた Foods 分野では、機能性表示食品の受理品数が1年で約40品増加するなど、活況を呈している。一方、機能性表示食品の販売メーカーの売れ行きは二極化。今後の課題は、消費者の機能性表示食品に対する認知度向上と……

### 【アクティブシニアサポート】機能性表示食品、一年で200品増

健康メディア.com - 2023/11/9 [https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/18290](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/18290)

高齢者の健康寿命が改善傾向になっている。かねてより日本政府は、超高齢化社会が進む中、医療費逼迫を解決すべく、未病対策を強化。高齢者の介護予防、骨粗鬆症予防の啓蒙など、産学官で様々な取り組みを実施してきた。健康食品業界でも、高齢者向けに関節の痛み

軽減、骨強化や筋肉量の維持をサポートする素材開発や製品の発売が活発になっている。骨と筋肉は相関関係にあり、フレイル、ロコモ対策にも骨・筋肉の維持が重要とされている。高齢者のヘルスリテラシーも高まっており、アクティブシニア向けのヘルスケア市場は拡大傾向が予想-----

## **【環境配慮型パッケージ・容器】 バイオマス活用・水平リサイクルが加速**

健康メディア.com - 2023/11/23

[https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/18288](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/18288)

環境配慮型パッケージ・容器は、リデュース（削減）、リユース（再使用）、リサイクル（再生）の3Rにリニューアブル（原料を再生可能資源にする）を加えた様々な方法で、環境に配慮したパッケージ・容器のこと。大手メーカーの動きから波及し、健康食品、化粧品の大小様々なメーカー・ブランドで導入が進んでいる。若年層を含め消費者の意識が高まり、商品やブランド選択の基準ともなりつつある。容器をリサイクルする「水平リサイクル」も実用化され、環境配慮型パッケージ・容器を積極的に取り入れ、「自社の取り組み」としてアピールする企業が-----

## **■ 市場・企業動向、注目ビジネス情報**

今回は特に見当たりませんでした。

## **■ 消費者意識等の調査・分析**

### **[30306] 食品表示に関するアンケート調査（第4回）**

マイボイスコム [https://myel.myvoice.jp/products/detail.php?product\\_id=30306](https://myel.myvoice.jp/products/detail.php?product_id=30306)

**消費者が、食品・飲料購入時に注意して見る部分や、含有量を確認する表示項目についてのインターネット調査（2023年10月実施）。**

## **■ 食品・食品成分の生理機能、健康関連科学情報**

### **牛乳アレルギーの免疫寛容維持と腸内細菌叢の関連**

— 経口免疫療法前後での小児の調査 —

理化学研究所 - 2023/11/1 [https://www.riken.jp/press/2023/20231101\\_3/index.html](https://www.riken.jp/press/2023/20231101_3/index.html)

理化学研究所（理研）生命医科学研究センター 粘膜システム研究チームの大野 博司 チームリーダー、柴田 涼平 客員研究者らの共同研究グループは、小児の牛乳アレルギーに対する経口免疫療法[1]において、便中のビフィドバクテリウム科[2]を中心とした細菌群が多いことが、アレルギー反応の抑制の維持（持続的無反応[3]の獲得）と関連することを明らかにしました。

本研究成果は、経口免疫療法の作用メカニズムの解明や、腸内細菌[4]を標的とした併用療法の開発に貢献することが期待され……

## 日本人の腸内微生物叢、ゲノム／血中代謝物との関連を網羅的解析で解明－阪大ほか

QLifePro 医療ニュース - 2023/11/8

<https://www.qlifepro.com/news/20231108/gut-microbiome-gwas.html>

▼関連リンク ・大阪大学 ResOU

[https://resou.osaka-u.ac.jp/ja/research/2023/20231107\\_2](https://resou.osaka-u.ac.jp/ja/research/2023/20231107_2)

大阪大学は11月7日、メタゲノムショットガンシーケンシングやマスマスペクトロメトリーを用いて、日本人集団最大524人を対象に、腸内微生物叢情報、ヒトゲノム情報、血中代謝物情報からなるマルチオミクス情報を構築し、それを用いてオミクスデータ間の関連を網羅的に探索したと発表した。この研究は、同大大学院医学系研究科の友藤嘉彦大学院生（研究当時、遺伝統計学）、岸川敏博特任助教（研究当時、遺伝統計学）、岡田随象教授（遺伝統計学、理化学研究所生命医科学研究センターシステム遺伝学チームチームリーダー／東京大学大学院医学系研究科遺伝情報学教授）らの研究グループによるもの。研究成果は、「Cell Reports」にオンライン掲載され……

## 紅茶の香り成分“ホトリエノール”の摂取がストレス緩和に有効

～ホトリエノール含有食品の経口摂取により、乱れた自律神経系のバランスを整え、ストレスを緩和することが示唆～

三井農林株式会社 - 2023/11/8 [https://www.mitsui-norin.co.jp/news/20231108\\_1](https://www.mitsui-norin.co.jp/news/20231108_1)

三井農林株式会社（所在地：東京都港区 代表取締役社長：佐伯 光則 以下、当社）は、同社 R&D 本部の主導の下、ダージリン紅茶に特徴的な香り成分“ホトリエノール”の経口摂取がストレスに与える効果について明らかにしました。“ホトリエノール”含有食品の摂取は、日常のストレスで過剰に高まった交感神経活動を抑制し、副交感神経活動を高めることが明らかとなり、ストレス緩和効果が示唆されました。

今回の研究成果は、薬理と治療（ライフサイエンス出版）に論文掲載され 1),2)、研究成果の一部を日本食品科学工学会 第70回記念大会（2023年8月24～26日）にて発表……

## カテキン×フッ化物がむし歯予防に相乗効果を発揮 東北大学が発見

大学ジャーナルオンライン - 2023/11/12 <https://univ-journal.jp/235557/>

東北大学大学院歯学研究科口腔生化学分野の高橋信博教授、鷲尾純平准教授、安彦友希助教の研究グループは、四川大学華口腔医学院と共同で、カテキンとフッ化物の組み合わせが、むし歯原因菌による酸の産生を効率的に抑制することを明らかに----

### 女性のニオイ変化に新知見

## 「プレラクトン TM※1」は肌の上で若い頃の甘いニオイ「ラクトン※2」に変化する ~「プレラクトン TM」の新たな反応条件の発見と有用性の確認~

ロート製薬株式会社 - 2023/11/8

[https://www.rohto.co.jp/research/researchnews/technologyrelease/2023/1108\\_01/](https://www.rohto.co.jp/research/researchnews/technologyrelease/2023/1108_01/)

ロート製薬株式会社（本社：大阪市、社長：杉本雅史）は、加齢に伴う女性の体臭変化について研究を重ねるなかで、若い女性特有の香り成分である「ラクトン」の前駆体である「プレラクトン」が肌の上で「ラクトン」に変化することを発見しました。さらにラクトンとプレラクトンを併用することで香りの効果が長時間持続することを確認いたしました。引き続き、加齢に伴う体臭変化に関する研究に取り組むと同時に、製品開発へ応用して-----

## ブロッコリースプラウトに含まれる成分に糖尿病悪化を抑制する作用を発見

マイナビニュース - 2023/11/8

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20231108-2813654/>

**以下の2件は、一般社団法人日本スポーツ栄養協会 公式情報サイト「スポーツ栄養 Web」掲載記事（2023年11月1日~14日）から選定したものです。**

## 過体重や肥満の子どもの腸内細菌叢が、運動と栄養への介入でポジティブに変化する可能性

<https://sndj-web.jp/news/002486.php> (2023/11/2)

過体重や肥満の子どもに対して、スポーツの奨励や栄養指導を12週間行ったところ、腸内細菌叢の組成に**変化**はあ**る**が有意な変化が認められたとする論文が発表された。ポルトガルの研究者らの-----

**编者：誤植と思われるが、そのまま掲載。**

## 大豆タンパク質サプリの有用性を検証 アスリートや活動的な人を対象とする研究の系統的レビュー

<https://sndj-web.jp/news/002489.php> (2023/11/3)

大豆タンパク質サプリメントによる代謝や筋力、パフォーマンスなどへの影響を、システムティックレビューにより検討した結果が報告された。レビューの対象を、アスリートや身体活動が活発な個人に対して行われた無作為化比較試験の報告に絞り込んである点が特徴の  
.....

### ■ その他の食品関連科学・技術情報

今回は特に見当たりませんでした。

### ■ その他の科学・技術情報

#### 単一の制御因子を用いて植物ステロイド成分蓄積の短期間での誘導に成功 — 「植物バイオものづくり」の新手法として期待—

富山大学

理化学研究所：2023/11/1 [https://www.riken.jp/press/2023/20231101\\_1/index.html](https://www.riken.jp/press/2023/20231101_1/index.html)

筑波大学

### ■ その他

*英文情報サイト Foodnavigator-asia に 11 月 9 付けで、英文記事の和訳版が掲載されていたのでご紹介いたします。タイトルのクリックで記事本文が閲覧できます。*

#### 安全第一：インドのオーガニックラボ検査、韓国の安全警告、FSANZ の加糖定義

#### パッケージング ハプニング：希少な日本産ウイスキーパッケージ、Mengniu ヨーグルトパックのリサイクル性、インドの虚偽ラベル

#### スタートアップスポットライト：Meatable 培養肉、Kommunity Brew ヘンプ飲料、Pokeno NZ ウイスキーなど

#### ブランニュー：Nestle、Lotte、Coca-Cola など

## ジャパン フォーカス: 原発処理水放出の影響、サントリーのパーソナライゼーションへの挑戦、CHOYA 梅酒のアルコール度数低減

以上

### 健康食品等に関する 日本語記事情報 (2023 年 12 月号 No.1)

本文書では、インターネットの日本語記事情報から、(公財)日本健康・栄養食品協会 学術情報部が独自の視点で皆様の事業遂行に役立つと判断したものをご紹介します。  
(例: 法令・行政情報、新製品・新分野の製品の企画開発及び研究開発のお役立ち情報、安全性確保の取組みに活用出来る情報、その他ビジネス環境変化に係る情報等)

**なお、記事の内容の正確性を当協会が保証するものではありません。また、特定の企業、食品素材・成分、製品などの情報が含まれる場合においても、当協会が支援・推進・推奨するものではありません。**

**記事によっては短期間でリンク切れになるものがあります。その点ご了承ください。**

#### ○ 記事一覧

**基本情報 (記事見出し、出典・日付、URL)、冒頭文または記事のポイントとなる部分 (民間の情報源には了承を得た上で転載) を表示しております。なお、基本情報のみで記事内容の把握が可能と思われる場合は基本情報のみとしております。**

#### ■ **ピックアップ情報**

**スルーして頂きたい記事情報を、編者の見識・感性 (多少の思い入れ) に基づきピックアップしたセクションとご理解下さい。**

**「錠剤、カプセル剤等食品の原材料の安全性に関する自主点検及び製品設計に関する指針 (ガイドライン) (案)」及び「錠剤、カプセル剤等食品の製造管理及び品質管理 (GMP) に関する指針 (ガイドライン) (案)」に関する御意見の募集について**

e-Gov パブリック・コメント - 2023/11/21

[https://public-comment.e-](https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=495230249&Mode=0)

[gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=495230249&Mode=0](https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=495230249&Mode=0)

意見公募要領

<https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/PcmFileDownload?seqNo=0000263140>

概要 <https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/PcmFileDownload?seqNo=0000263141>

別紙 <https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/PcmFileDownload?seqNo=0000263142>

## 食事・栄養インターネット情報、日本は著者・参考文献明記なし／広告あり傾向－東大

QLifePro 医療ニュース - 2023/11/21

<https://www qlifepro.com/news/20231121/web-based-content-on-diet-and-nutrition.html>

▼関連リンク・東京大学 プレスリリース

<https://www.u-tokyo.ac.jp/content/400226669.pdf>

ネット情報の信頼性実態、科学的な方法論で記述した研究はなかった

東京大学は11月14日、日本語で書かれた、食事と栄養に関するオンライン情報の多くは、編者や著者を明記していない、広告を含んでいる、参考文献がないという問題があることを明らかにしたと発表した。この研究は、同大大学院医学系研究科の村上健太郎教授、篠崎奈々特任助教、奥原剛准教授らの研究グループによるもの。研究成果は、「JMIR Formative Research」に掲載され-----

## ■ 安全性関連情報

### [BfR]オメガ-3 脂肪酸サプリメントは心臓病患者の心房細動リスクを増大させる可能性がある

食品安全情報 blog2 - 2023/11/29

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2023/11/29/173831>

**11月29日分の2番目の太字見出し。**

### 令和5年11月20日新開発食品評価調査会及び「指定成分等含有食品等との関連が疑われる健康被害情報への対応ワーキンググループ」(第7回)資料

厚生労働省 - 2023/11/17 [https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage\\_36376.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_36376.html)

## 令和5年7月3日指定成分等含有食品等との関連が疑われる健康被害情報への対応ワーキンググループ（第6回） 議事録

厚生労働省 - 2023/11/15 [https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage\\_34045.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_34045.html)

### 2023/11/15 付けの食品安全情報 blog2 から 5 件ご紹介します。

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2023/11/15/153932>

以下の 3 件は、2023/11/15 付けの食品安全情報 blog2 の最初の太字見出し”[EFSA]意見等”の項目です。

-ナノファイバーのハザード評価のための NAMs に関する EFSA のパイロットプロジェクト

-新規食品としての 2'-フコシルラクトース(2'-FL)の使用拡大の安全性

-アスタキサンチンを含む *Haematococcus pluvialis* 由来新規食品オレオレジンの規格の変更の安全性

こちらは上から 3 番目の太字見出し

[FAO/WHO]魚類摂取のリスクと利益に関する FAO/WHO 合同専門家会議

こちらは最後の太字見出し”その他 “の項目。超加工食品とがんや心代謝疾患リスクとの関連を調べた研究 ([https://www.thelancet.com/journals/lanepi/article/PIIS2666-7762\(23\)00190-4/fulltext](https://www.thelancet.com/journals/lanepi/article/PIIS2666-7762(23)00190-4/fulltext) ) に対する専門家の見解で、全体的に批判的な論調です。英文記事情報 12 月号 No.1 では、上記研究と共に超加工食品と頭頸部がんや食道腺がんとのリスクを評価した別研究 (<https://link.springer.com/article/10.1007/s00394-023-03270-1> ) をご紹介しております。両者は別研究とは言え、共に大規模疫学研究 EPIC のデータが活用されており、国際がん研究機関も参加しています。

-SMC UK

超加工食品摂取とがんや心代謝疾患の複数疾患罹患リスクを調べた研究への専門家の反応

### 2023/11/20 付けの食品安全情報 blog2 から 2 件ご紹介します。

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2023/11/20/165601>

上から 1/3 の太字見出し [EFSA]意見等の中にある項目

-新規食品としての E. coli W (ATCC 9637)の派生株(Escherichia coli SGR5)が生産した 2' -フコシルラクトース(2' -FL)の安全性

## 食品安全情報（化学物質）No.24（2023.11.22）

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2023/foodinfo202324c.pdf>

別添 <http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2023/foodinfo202324ca.pdf>

### 全リスト

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/index.html>

## ■ 海外公的機関情報

### EU 森林破壊防止規制まで 1 年、対象はパーム油など 7 品目

株式会社オルタナ/オルタナオンライン - 2023/12/1 <https://www.alterna.co.jp/106894/>

（無断転載を禁じます）

#### 記事のポイント

1. EUDR（欧州森林破壊防止規制）の適用開始が、2024 年 12 月に迫る
2. 同規制は森林破壊リスクがある製品の EU への輸入・販売を禁止する
3. 対象は大豆、パーム油など 7 品目、これらを原料にしたタイヤなども入る

-----

### タイで天然着色料クチナシ黄が使用可能に（タイ）

日本貿易振興機構（ジェトロ） - 2023/11/28

<https://www.jetro.go.jp/biznews/2023/11/c8a35ebd24b45090.html>

以下の 4 件は、**食品安全委員会 食品安全総合情報システム**

**（<https://www.fsc.go.jp/fsciis/>）の更新情報（2023/11/21 確認）の中から、気になったものを選定しました。**

**見出しのクリックで内容をご覧頂けます。**

1. [国際連合食糧農業機関\(FAO\)、魚の摂取のリスク及びベネフィットに関する FAO/世界保健機関\(WHO\)合同専門家協議のサマリー及び結論を公表](#)
5. [ドイツ連邦リスク評価研究所\(BfR\)、人工甘味料に関する消費者モニター調査の結果を公表](#)

21. [国際連合食糧農業機関\(FAO\)、食物アレルギーのリスク評価に関する FAO/世界保健機関\(WHO\)合同専門家会議 PART5「特定のナッツ類\(ブラジルナッツ、マカダミアナッツ又はクイーンズランドナッツ、松の実\)、ダイズ、セロリ、ルパン豆、マスタード、ソバ、えん麦の閾値レベルのレビュー及び設定」の会議報告書を公表](#)

27. [ドイツ連邦リスク評価研究所\(BfR\)、魚介類について、アレルギー源となる可能性のある物質の微量検出の改善に関する情報を公表](#)

## ■ 表示、販売等に関する行政機関のアクション情報等

今回は特に見当たりませんでした。

## ■ 行政・法令関連情報（その他）

今回は特に見当たりませんでした。

## ■ 市場予測、動向（食品・健康食品全般）

今回は特に見当たりませんでした。

## ■ 具体的健康ニーズ・素材・成分、製品情報 （市場予測・動向等）

### ウコン】ひざサポート、疲労感軽減など、新たな機能性表示食品も続々市場はV字回復、250億円

健康メディア.com - 2023/11/21

[https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/18360](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/18360)

アルコール・二日酔い・肝機能対策の大型素材として一大市場を形成してきたウコン。コロナ禍における外食・飲酒機会の減少は市場に大きなダメージを与えたが、2022年に入り、回復基調に。市場の中核を担うドリンク製品は、コロナ前の8割程度まで回復した。一方で、ウコンの新たな市場開拓が急速に進んでいる。関節・ひざサポート、記憶力・注意力の維持、（起床時の）疲労感軽減などの領域では、機能性表示食品が続々受理されており、

原料サプライヤーでは、吸収性向上、クルクミン高含有品などのハイグレード原料の開発を進めつつ、新たなユーザー獲得を狙う。アルコール対策素材としての市場、海外で最もポピュラーなウコンの機能性である抗炎症作用を介した美容・関節痛対策素材としての市場、その両建てが-----

## ■ 市場・企業動向、注目ビジネス情報

### 従業員の眠りを変える「ネスレ ヘルスサイエンス睡眠プログラム with Fitbit」   ネスレ ヘルスサイエンスとグーグルが共に進める睡眠課題解決への一歩

ネスレ日本株式会社   ネスレ ヘルスサイエンス   カンパニー - 2023/11/17

[https://www.nestle.co.jp/media/pressreleases/20231117\\_nestlehealthscience](https://www.nestle.co.jp/media/pressreleases/20231117_nestlehealthscience)

ネスレ日本株式会社   ネスレ ヘルスサイエンス   カンパニー（本社：兵庫県神戸市、カンパニープレジデント：中島 昭広、以下「ネスレ ヘルスサイエンス」）は、グーグル合同会社（以下「グーグル」）と協力し、2023年11月15日（水）に、企業や医療機関の健康経営をサポートすることを目指し、「ネスレ ヘルスサイエンス睡眠プログラム with Fitbit」を発表しました。ネスレ ヘルスサイエンスは、アメリカのサプリメント「Pure Encapsulations GABA（ピュア エンキャプスレーションズ ギャバ）」を販売しており、このたび、新たに「機能性表示食品」の届出が受理され、リニューアル販売予定です。睡眠を可視化するグーグルのウェアブルデバイス Fitbit と、睡眠トレーニングを組み合わせたプログラム提案により、従業員の睡眠の質（寝つき、すっきりとした目覚め、一時的なストレスを感じている方の眠りの深さ）を向上させることを目指します。-----

### 「鬼教官」から「愛される存在」へ 花王「ヘルシア」リブランディングの理由

AdverTimes.（アドタイ） by 宣伝会議 - 2023/11/17

<https://www.advertimes.com/20231117/article440128/>

花王の飲料ブランド「ヘルシア」が発売20周年を迎え、パッケージの刷新をはじめとするリブランディングを開始した。

2003年に発売開始した「ヘルシア緑茶」の名前の由来は、“ヘルシーをアシストする”。花王唯一の飲料ブランドとして、機能訴求を中心としたマーケティング戦略で展開してきた。

ヘルシアのブランドマネージャーを務める花王 ライフケア事業部門ヘルス&ウェルネス事業部の柳田雄一氏は、今回のリブランディングの経緯についてこう話-----

## ウェルナス、住友商事に対し「AI食」技術の事業化に向けた調査業務を開始 個別栄養最適食「AI食」の特許技術と蓄積データを活用した、食と栄養のパーソナライズ化に向けて

株式会社ウェルナス - 2023/11/21

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000029.000062426.html>

「食」で未来の健康社会実現を目指す株式会社ウェルナス（所在地：東京都杉並区 / 代表取締役：小山正浩、以下「ウェルナス」）は、住友商事株式会社（本社：東京都千代田区 / 代表取締役 社長執行役員 CEO：兵頭誠之、以下「住友商事」）より、個別栄養最適食「AI食」の特許技術・蓄積データを用いたビジネスモデルの具体化に向けた調査業務を受託いたしました。ウェルナスの有する技術と蓄積データが幅広い業界において活用できる可能性を探求し、未来の健康社会実現を目指します。

住友商事では、消費者に近い商品、サービスを提供する事業を先進テクノロジーも活用しながらグローバルで展開し、新たな価値およびライフスタイルを創造することにより、快適で心躍る暮らしの基盤づくりに貢献することを目指しております。本件はその取組みの一環となり-----

## 森永乳業のビフィズス菌 BB536 入りヨーグルトの摂取による腸内環境の変化に関する「神戸実証研究」を(株)メタジェンと共同で開始

～ “腸内環境と若さ” をテーマに大阪・関西万博の「共創チャレンジ」として登録～

森永乳業株式会社 - 2023/11/21

<https://www.morinagamilk.co.jp/release/newsentry-4324.html>

森永乳業株式会社（本社：東京都港区、社長：大貫 陽一）は長年にわたり、ヒトの腸内にすみ、様々な健康効果をもたらしていると考えられているビフィズス菌の基礎研究を行っております。この度、当社は株式会社メタジェン（本社：山形県鶴岡市、代表取締役社長 CEO：福田 真嗣）と共同で、当社のビフィズス菌 BB536 入りヨーグルト摂取による腸内細菌叢と腸内代謝物質の変化に関する研究を「神戸実証研究」として開始しました。

また、本実証研究を含む「腸からつくるウェルビーイング」をテーマとした活動が、2025年日本国際博覧会（以下、大阪・関西万博）の「TEAM EXPO 2025」プログラム／共創チャレンジ（以下、「共創チャレンジ」）に登録されたことをお知らせ-----

## 【販促・営業支援】AI活用、顧客戦略立案など健食通販で進化 コールセンターの活用にビジネスチャンス

健康メディア.com - 2023/11/2 [https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/18350](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/18350)

健食通販において事業者と顧客を繋ぐコールセンターの活用が注目されている。事業者側では、チャットボットや、RPA（Robotic Process Automation）などの自動化ツール、オムニチャネル対応を実現するコンタクトセンター基盤システムなど、販促・営業支援とともに人手不足の解消にも寄与する IT ソリューションの採用が増加。AI の活用で、対応品質の向上とともに、コール量や放棄呼率などの低減に繋げるケースも。健食通販向けに、製造業×物流支援×コールセンター運営などを掛け合わせ、新たなビジネスチャンスに繋げる提案も  
-----

## ■ 消費者意識等の調査・分析

### エステー、「睡眠習慣やリズム」に関する実態調査、平日／休日の就寝・起床リズムのズレで起きる「睡眠時差ボケ」も

マイライフニュース - 2023/11/21 <https://www.mylifenews.net/health-medical/36176/>

エステーは、睡眠習慣や就寝・起床リズムの実態を明らかにするため、20～49 歳までの男女 417 人を対象に「睡眠習慣やリズム」に関する実態調査を実施した。その結果、20 代女性が最大、平均 1.7 時間のズレがあり、平日／休日の就寝・起床リズムのズレで起きる「睡眠時差ボケ」もみられた。また、約 5 人に 1 人が「休日の寝だめ」をしており、「だからスマホ」は半数以上、「休日・在宅勤務前日の夜更かし」も約 3 割が習慣化していることが明らかと-----

### ヤクルト、不調やストレスと睡眠の健康意識調査、不調を感じる人はストレスも感じやすく睡眠悩みも増える傾向に

マイライフニュース - 2023/11/22 <https://www.mylifenews.net/health-medical/36366/>

ヤクルト本社は、全国の 10 代～60 代の男女 8400 人を対象に、季節の変わり目の「不調」や「ストレス」と「睡眠」の関係について「不調やストレスと睡眠の健康意識調査」を行った。調査の結果、不調を感じる人はストレスも感じやすく、ストレスを感じる人ほど睡眠悩みも増える傾向にあることがわかつ----

ー11 月 26 日は鉄分の日ー

### 現代女性の鉄分に関する意識調査で判明！ 20 代から 40 代は貧血や隠れ貧血に気付かず 体調不良に悩んでいる可能性が

株式会社ファンケル - 2023/11/22

[https://www.fancl.jp/news/20230103/news\\_20230103.html](https://www.fancl.jp/news/20230103/news_20230103.html)

株式会社ファンケルは、2023年10月16日（月）と10月17日（火）で、国内の18歳から69歳までの女性1,000人を対象に「貧血や鉄分不足に関する調査」を実施しましたので、その結果をお知らせ-----

## ■ 食品・食品成分の生理機能、健康関連科学情報

### 妊娠中の母親のビタミンD摂取量が、3歳時の子どものアレルギー疾患と関連－富山大

QLifePro 医療ニュース - 2023/11/17

<https://www.qlifepro.com/news/20231117/vitamin-d-allergy.html>

▼関連リンク・富山大学 プレスリリース

<https://www.u-toyama.ac.jp/wp/wp-content/uploads/20231114.pdf>

#### 意見が分かれる「妊娠中のビタミンD摂取量と子のアレルギー疾患との関係」について調査

富山大学は11月14日、「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）」に参加する母児を調査した結果、妊娠中の食事からのビタミンD摂取量が子どもの3歳時点のアレルギー疾患と関連することを明らかにしたと発表した。この研究は、同大学術研究部医学系 小児科学講座の清水宗之（現・新潟県厚生農業協同組合連合会糸魚川総合病院小児科医長）らの研究グループによるもの。研究成果は、「International Archives of Allergy and Immunology」にオンライン掲載されて-----

### 子宮頸がん、ナスから発見された天然化合物による抗腫瘍効果を確認－名大

QLifePro 医療ニュース - 2023/11/21

<https://www.qlifepro.com/news/20231121/9-oxo-odas.html>

▼関連リンク・名古屋大学 研究成果発信サイト

<https://www.nagoya-u.ac.jp/researchinfo/result/2023/11/post-589.html>

#### ナスのヘタに含まれる「9-oxo-ODAs」の子宮頸がんに対する効果を検証

名古屋大学は11月16日、ナスのヘタに含まれる天然化合物「9-oxo-octadecadienoic acid (9-oxo-ODAs)」が、子宮頸がん細胞に対して抗腫瘍効果をもたらすことを報告したと発表した。この研究は、同大学院医学系研究科産婦人科学の茂木一将大学院生、吉原雅人病院助教、梶山広明教授、同ベルリサーチセンターの小屋美博博士、那波明宏教授らの研究グループによるもの。研究成果は、「Scientific Reports」に掲載され-----

## 食物アレルギー、ケストース+イヌリンで発症予防の可能性－藤田医科大ほか

QLifePro 医療ニュース - 2023/11/24

<https://www.qlifepro.com/news/20231124/food-allergy-prevention.html>

▼関連リンク・藤田医科大学 プレスリリース

<https://www.fujita-hu.ac.jp/news/j93sdv000000p3n7.html>

### 腸内環境改善のプレバイオティクス、多種多様な疾患に効果の可能性

藤田医科大学は 11 月 20 日、プレバイオティクスを用いた食物アレルギー予防に関する研究成果を発表した。この研究は、同大消化器内科学講座、医科プレ・プロバイオティクス学講座、ウェルネオシュガー株式会社、帝人株式会社の研究グループによるもの。研究成果は、「BMC Microbiology」オンライン版に掲載されて……

## サルコペニアのメカニズム解明、Fyn タンパク質がオートファジー活性を抑制－群大

QLifePro 医療ニュース - 2023/11/30

<https://www.qlifepro.com/news/20231130/sarcopenia-fyn.html>

▼関連リンク・群馬大学 プレスリリース

<https://www.gunma-u.ac.jp/information/170020>

### サルコペニアが起る原因は不明点が多く、治療薬も存在しない

群馬大学は 11 月 24 日、培養した筋肉細胞やマウスを用いた実験により、チロシンキナーゼの一つである Fyn というタンパク質（以下、Fyn）が筋肉の量を調整しているメカニズムを明らかにしたと発表した。この研究は、同大大学院医学系研究科の内分泌代謝内科学分野と整形外科分野の共同研究によるもの。研究成果は、「iScience」に掲載され……

## 花王とキリンの共同研究で、内臓脂肪と免疫活性に関する日本初の発見 ～内臓脂肪が多いと pDC 活性が低いこと、内臓脂肪が多く pDC 活性が低い人は、新型コロナウイルス感染症・インフルエンザの罹患リスクが高いことを日本で初めて確認～

花王株式会社 - 2023/11/24

<https://www.kao.com/jp/newsroom/news/release/2023/20231124-001/>

## 妊娠中のオメガ 3 系脂肪酸摂取が、産後のメンタルヘルス維持に重要 麻布大学

大学ジャーナルオンライン - 2023/11/20 <https://univ-journal.jp/235726/>

麻布大学、独立行政法人地域医療機能推進機構 相模野病院、太田油脂株式会社の研究により、妊娠中に $\alpha$ -リノレン酸を摂取することで産後のメンタルヘルスを安定させる効果がある可能性が明らかと-----

## **加齢により筋肉が萎縮し固くなる根本的な原因を解明 若返りも視野に 九大**

財経新聞 - 2023/11/26 <https://www.zaikei.co.jp/article/20231126/746964.html>

九州大学は 21 日、加齢により筋肉が萎縮し柔軟性も低下する根本的な原因を解明したと発表した。筋幹細胞を活性化する働きがある HGF と呼ばれるタンパク質が加齢によりニトロ化し活性を失うことが、その根本的な原因だという。

研究グループによれば、ニトロ化した HGF の脱ニトロ化の方法を開発できれば、若返りも夢ではないと-----

## **林原、「第 25 回トレハロースシンポジウム」を開催、「トレハロース で導くサステナブルな未来」をテーマに最新の研究成果を学術発表**

マイライフニュース - 2023/11/15 <https://www.mylifenews.net/health-medical/35684/>

林原は、トレハロースの研究・開発に携わる産官学の関係者が広く参加し、分野の枠を越えて学術的交流を行う研究発表会「第 25 回トレハロースシンポジウム」を、東京・御茶ノ水ソラシティ カンファレンスセンターで 11 月 2 日に開催した。今回のメインシンポジウムは、「トレハロースで導くサステナブルな未来」をテーマとし、トレハロースに関する最新の研究成果などを発表する全 6 題の講演と総合討論会が行われた。また、メインシンポジウム終了後には、4 年ぶりにイブニングセッションが開催され、講演者と参加者がポスター発表を通じて積極的に意見を交わ-----

## **ヒオウギエキスの紫外線によるシミ発生抑制作用を発見**

紫外線による肌への影響に関するメカニズム研究成果

ロート製薬株式会社 - 2023/11/15

[https://www.rohto.co.jp/research/researchnews/technologyrelease/2023/1115\\_01/](https://www.rohto.co.jp/research/researchnews/technologyrelease/2023/1115_01/)

ロート製薬株式会社（本社：大阪市、社長：杉本雅史）は、お客様が日々浴び続ける紫外線による肌への影響について、研究を行っています。紫外線による日焼けはもちろん、シミやソバカス、シワの原因となることが知られており、今回シミ形成のメカニズムに着目したところ、ヒオウギエキスは発生した活性酸素種（以下、ROS）を消去する力が高いこと、また紫外線ダメージにより発現が高まるエンドセリン-1 およびプロスタグランジン E2 を抑制

することを発見しました。ヒオウギエキスには、紫外線によるシミ発生を抑制する作用を持つ可能性が示唆され-----

## カテキンとフッ化物の相乗作用でむし歯予防効果が向上

MONOist - 2023/11/29 <https://monoist.itmedia.co.jp/mn/articles/2311/29/news012.html>

東北大学は、カテキンとフッ化物を併用することで、口腔内微生物による酸の産生を効率良く抑制できることを明らかにした。カテキンとフッ化物の相乗作用を利用した、新しいむし歯予防法の開発が期待-----

## マクロファージに狙って届ける新カプセルを開発

糖鎖の標識を付けてマクロファージに見つかりやすいカプセルに

株式会社ポーラ・オルビスホールディングス - 2023/11/27

ポーラ化成工業株式会社

[https://www.pola-rm.co.jp/pdf/release\\_20231127\\_2.pdf](https://www.pola-rm.co.jp/pdf/release_20231127_2.pdf)

ポーラ・オルビスグループの研究・開発・生産を担うポーラ化成工業株式会社（本社：神奈川県横浜市、社長：片桐崇行）は、免疫細胞であるマクロファージに効率的に届く新たなカプセル技術を構築しました。本技術はマクロファージへ働きかける手段としてさまざまな活用が期待され-----

**以下の5件は、一般社団法人日本スポーツ栄養協会 公式情報サイト「スポーツ栄養 Web」掲載記事（2023年11月16日～12月1日）から選定したものです。**

## 子どもの肥満リスク改善に重要なのは摂取エネルギー量と食事時間、運動量、睡眠時間

<https://sndj-web.jp/news/002511.php> (2023/11/18)

肥満の専門的な治療を受けてる子どもたちを対象に、食習慣、栄養素摂取量、身体活動量、睡眠習慣を調査した結果がスペインから報告された。摂取エネルギー量の過多よりも、食事の時間帯が遅いこと、夕食に分布が偏っていることなどのほうが、肥満の重症度への影響が大きい可能性があるという。また、野菜摂取量や身体活動量との関連も示されて-----

## 唾液中のコルチゾールとテストステロン濃度から、トレーニングのストレスを把握できる可能性

<https://sndj-web.jp/news/002513.php> (2023/11/20)

唾液検体を用いて測定したコルチゾールとテストステロン濃度により、男性アスリートのトレーニングによるストレスを把握できる可能性を示唆する研究結果が報告された。唾液は医療職者がいなくても非侵襲的に随時採取できるため、生体のリズムやストレス反応を評価するのに有利であり、オーバートレーニング症候群リスクの早期検出などに役立つ可能性があるという。群馬大学大学院医学系研究科臨床検査医学の常川勝彦氏らの研究であり、「Scientific Reports」に論文が掲載され-----

## **生体インピーダンスの位相角が低値の日本人高齢男性は、栄養不良の可能性**

<https://sndj-web.jp/news/002518.php> (2023/11/24)

高齢日本人を対象とする研究から、生体インピーダンスの位相角が体組成や栄養素摂取量と有意な関連のあることや、コリンエステラーゼ値が男性・女性ともに位相角と正相関することが明らかになった。京都府立医科大学内分泌・代謝内科の梶山真太郎氏、中西尚子氏、濱口真英氏、福井道明氏らの研究であり、「Nutrients」に論文が掲載-----

## **EPA+中鎖脂肪酸の構造脂質（STG）摂取は、単純な同時摂取よりも持久力を向上する可能性**

<https://sndj-web.jp/news/002519.php> (2023/11/27)

EPA や中鎖脂肪酸を構造脂質のかたちで摂取すると、それらの単なる組み合わせとして摂取するよりも、持久力向上のメリットがより大きくなる可能性のあることを示唆するデータが報告された。法政大学大学院スポーツ健康学研究科の越智英輔氏らの研究であり、「Nutrients」に論文が掲載され-----

## **グルタミンジペプチド添加ホエイプロテインが、骨格筋ダメージを抑制しパフォーマンスを向上**

<https://sndj-web.jp/news/002527.php> (2023/11/30)

グルタミンとアラニンという2種類のアミノ酸をペプチド結合させたグルタミンジペプチドを豊富に含むホエイプロテインが、トライアスリートの筋損傷を抑制し、パフォーマンスを向上させるとする研究論文を紹介-----

## **■ その他の食品関連科学・技術情報**

## 生物が食べられる糖の化学合成に成功 高速・低環境負荷・オンサイト生産可能など利点

大学ジャーナルオンライン - 2023/11/22 <https://univ-journal.jp/235816/>

大阪大学と産業技術総合研究所の共同研究グループは、生物が利用可能な糖を化学合成する触媒プロセスの構築に世界で初めて成功した。

グルコースやフルクトースなどの糖は、人を含む全ての生命の活動を支える物質として、また化学品等のバイオ生産技術における基質としても極めて重要である。しかし、従来の一般的な糖の生産プロセスは、水とCO<sub>2</sub>を原料として光合成を行う、つまり多くの水と栄養塩（リン、窒素など）ならびに大面積の土地を要する農業によって作られており、近年の食料需要の高まりやバイオマス利用技術の拡大に伴って、その供給の持続可能性には懸念が持たれて……

## ユーグレナはトマトジュースで培養するとよく育つ！ - 理科大が発見

マイナビニュース - 2023/11/17

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20231117-2821142/>

## ■ その他の科学・技術情報

### 脳神経科学とテクノロジーを融合した「ブレインテック」の可能性

ウェルネス総研レポート online - 2023/11/30 <https://wellnesslab-report.jp/3089/>

半導体の技術や計測技術の向上、脳信号を処理する機械学習の進化により脳科学が発展し、脳神経科学とテクノロジーを組み合わせた技術「ブレインテック」の市場が拡大しています。医療・ヘルスケアの領域でも注目が高まるブレインテックについて解説しま……

### 三菱化工機と名古屋大学、電界ろ過法を用いた世界初の技術 電界フィルター®「Ele-Fil™」を共同発表

三菱化工機株式会社 - 2023/11/22 <https://www.kakoki.co.jp/news/pdf/p231122.pdf>

三菱化工機株式会社（代表者：田中利一 所在地：川崎市、以下「当社」という）と国立大学法人東海国立大学機構 名古屋大学大学院工学研究科向井研究室（向井 康人 准教授）は、世界初の技術である電界ろ過法を用いた、電界フィルター®「Ele-Fil™」（エレフィル）を、2023年11月22日（水）に共同発表……

## 健康食品等に関する 日本語記事情報（2023年12月号 No.2）

本文書では、インターネットの日本語記事情報から、（公財）日本健康・栄養食品協会 学術情報部が独自の視点で皆様の事業遂行に役立つと判断したものをご紹介します。

（例：法令・行政情報、新製品・新分野の製品の企画開発及び研究開発のお役立ち情報、安全性確保の取組みに活用出来る情報、その他ビジネス環境変化に係る情報等）

**なお、記事の内容の正確性を当協会が保証するものではありません。また、特定の企業、食品素材・成分、製品などの情報が含まれる場合においても、当協会が支援・推進・推奨するものではありません。**

○ **記事のカテゴリー**（見出しをクリックすると該当カテゴリーに移動します）

[ピックアップ情報](#)

[安全性関連情報](#)

[海外公的機関情報](#)

[表示、販売等に関する行政機関のアクション情報等](#)

[行政・法令関連情報（その他）](#)

[市場予測、動向（食品・健康食品全般）](#)

[具体的健康ニーズ・素材・成分、製品情報（市場予測・動向等）](#)

[市場・企業動向、注目ビジネス情報](#)

[消費者意識等の調査・分析](#)

[食品・食品成分の生理機能、健康関連科学情報](#)

[その他の食品関連科学・技術情報](#)

[その他の科学・技術情報](#)

[その他](#)

**記事によっては短期間でリンク切れになるものがあります。その点ご了承ください。**

○ **記事一覧**

**基本情報（記事見出し、出典・日付、URL）、冒頭文または記事のポイントとなる部分（民間の情報源には了承を得た上で転載）を表示して**

おります。なお、基本情報のみで記事内容の把握が可能と思われる場合は基本情報のみとしております。

## ■ ピックアップ情報

スルーして頂きたい記事情報を、編者の見識・感性（多少の思い入れ）に基づきピックアップしたセクションとご理解下さい。

### 消費者庁から消費者の皆様へ

#### 機能性表示食品の正しい理解についての御協力をお願いします

消費者庁 - 2023/12/5

[https://www.caa.go.jp/policies/policy/food\\_labeling/foods\\_with\\_health\\_claims#info20231205](https://www.caa.go.jp/policies/policy/food_labeling/foods_with_health_claims#info20231205)

追記：「消費者庁又は国が機能性表示食品の効果を認めているかのような表示をしていたこと」等、行き過ぎたウェブサイト広告が問題となった事例を受けての呼びかけ。

### 政府方針、企業に「生物多様性」貢献証書発行へ

株式会社オルタナ/オルタナオンライン - 2023/12/5 <https://www.alterna.co.jp/107213/>

（無断転載を禁じます）

#### 記事のポイント

1. 生物多様性の保全に取り組む企業に対して、政府が証明書を発行する
2. ESG 要素を重視する金融機関からの評価を受けやすくすることが狙いだ
3. 次期通常国会で法案を成立し、2025 年度に施行予定だ

-----

## ■ 安全性関連情報

### 2023 年 12 月 6 日付け食品安全情報 blog2 より

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2023/12/06/114016>

[WHO]FAO/WHO 合同食品添加物専門家委員会（JECFA）

上から 5 番目の太字見出し。二酸化チタン (TiO<sub>2</sub> : INS 171) の安全性評価に関する記載があります。“入手可能な実験動物及びヒト研究において、有意な吸収がなく、毒性学的影響がないことから、許容一日摂取量 (ADI) を「特定しない (not specified)」とした。”となっています。

[IARC]IARC モノグラフがパーフルオロオクタン酸 (PFOA) 及びパーフルオロオクタンスルホン酸 (PFOS) の発がん性を評価

*上の太字見出しのすぐ下。PFOA は「ヒトに対して発がん性がある (グループ 1)」、PFOS は「ヒトに対して発がん性がある可能性がある (グループ 2B)」と評価されました。*

## PFOA (パーフルオロオクタン酸) 及び PFOS (パーフルオロオクタンスルホン酸) に対する国際がん研究機関 (IARC) の評価結果に関する Q&A

食品安全委員会 - 2023/12/5

[https://www.fsc.go.jp/foodsafetyinfo\\_map/pfoa\\_and\\_pfos\\_faq.html](https://www.fsc.go.jp/foodsafetyinfo_map/pfoa_and_pfos_faq.html)

有機フッ素化合物のうち、PFOA (パーフルオロオクタン酸) 及び PFOS (パーフルオロオクタンスルホン酸) について、世界保健機関 (WHO) 傘下の一機関である国際がん研究機関 (IARC) が発がん性を評価し、その結果を 2023 年 11 月 30 日、公表しました。IARC は、PFOA をグループ 1 に、PFOS をグループ 2B に分類しました。昨今、PFOA や PFOS についての社会的関心が高いことから、食品安全委員会は、今回の IARC による発がん性分類の結果や意味について、Q&A 形式で整理し、情報提供することにしました。

なお、現在、食品安全委員会は、PFOA や PFOS を中心に、有機フッ素化合物 (PFAS) を食品を通じて摂取した場合の健康影響について評価中です。発がん性を含む様々な毒性について、国内外から収集した知見を精査して見解をまとめ、その結果を、評価書として公表する予定です。

このウェブページは、PFOA 及び PFOS に対する IARC が発表した内容やその意味について、客観的に解説することを目的とするものであり、食品安全委員会としての見解を示すものではありません。今後とも、IARC が公表する情報を見ながら内容の更新を行ってまいります。

## 2023 年 12 月 7 日付け食品安全情報 blog2 より

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2023/12/07/172423>

[BfR]異なる魚種の摂取による PCDD/F 及びダイオキシン様 PCB 並びに PFAS の摂取に関する暴露評価

*12 月 7 日分の上から 1/3 ほどにある太字見出し*

[CFIA]様々なブランドのカフェイン入りエナジードリンクは、カフェイン含有量とラベルの問題により安全ではない可能性がある

*上の[BfR]情報の 3 つ下の太字見出し*

## 2023年12月12日付け食品安全情報 blog2 より

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2023/12/12/175339>

### **最初の太字見出し[EFSA]意見等の項目**

- 新規食品として乳児用及びフォローアップミルクに使用する Schizochytrium limacinum (TKD - 1 株)由来オイルの安全性
- 新規食品として乳児用及びフォローアップミルクに使用する Schizochytrium sp. (CABIO - A - 2 株)由来オイルの安全性

## 2023年12月14日付け食品安全情報 blog2 より

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2023/12/14/184827>

### **最初の太字見出し[EFSA]意見等の最初の項目**

- マンガンの耐容上限摂取量に関する科学的意見

## 2023年12月15日付け食品安全情報 blog2 より

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2023/12/15/173943>

### **最初の太字見出し**

[EFSA]平易な言語による要約：マンガンの耐容上限摂取量に関する科学的意見

## カドミウムに係る食品健康影響評価に関する審議結果（案）についての意見・情報の募集について

e-Gov パブリック・コメント - 2023/11/29

<https://public-comment.e>

[gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=095230980&Mode=0](http://gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=095230980&Mode=0)

## 食品安全情報（化学物質） No.25 (2023.12.06)

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2023/foodinfo202325c.pdf>

別添 <http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2023/foodinfo202325ca.pdf>

### **全リスト**

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/index.html>

## ■ 海外公的機関情報

## EU Novel Food（新規食品）リスト改訂版

EU Novel Food status Catalogue

<https://ec.europa.eu/food/food-feed-portal/screen/novel-food-catalogue/search>

*12月1日付けの食品安全情報 blog2 で紹介されていました。*

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2023/12/01/174908>

## ジェトロ、米国の PFAS に関する食品包装・食品接触材規制の動向のウェビナー開催（米国）

日本貿易振興機構（ジェトロ） - 2023/12/7

<https://www.jetro.go.jp/biznews/2023/12/ddd622b977eca4e7.html>

*追記：米国向けに輸出を行う国内食品製造業者などを対象としたウェビナーの紹介記事。一定期間、オンデマンド配信中で説明資料もダウンロード可能。*

<https://www.jetro.go.jp/biz/seminar/2023/11726f297e18b45a.html>

## イタリア下院、欧州初の培養肉の生産・販売禁止法案を可決（イタリア）

日本貿易振興機構（ジェトロ） - 2023/12/5

<https://www.jetro.go.jp/biznews/2023/12/87cbbd0840f1bc25.html>

## 2024 年から改正食品規則を適用、最新のガイドラインに基づくラベル表示を（マレーシア）

日本貿易振興機構（ジェトロ） - 2023/12/5

<https://www.jetro.go.jp/biznews/2023/12/40d11b44ca93180d.html>

## 保健省、食品添加物の使用基準に関する新告示を施行（タイ）

日本貿易振興機構（ジェトロ） - 2023/12/11

<https://www.jetro.go.jp/biznews/2023/12/b00d9c57e5b0e394.html>

*以下の 9 件は、食品安全委員会 食品安全総合情報システム*

*(<https://www.fsc.go.jp/fsciiis/>) の更新情報 (2023/12/5 確認) の中から、気になったものを選定しました。*

**見出しのクリックで内容をご覧ください。**

3. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、新食品としての、大腸菌 W\(ATCC 9637\)派生株\(大腸菌 SGR5\)により産生される 2'-フコシルラクトースの安全性に関する科学的意見書を公表 \(前半 1/2\)](#)
4. [米国農務省動植物検疫局\(USDA-APHIS\)、審査のために提出された 12 種類の植物が、バイオテクノロジー規制の対象ではないと確認したことを公表 \(1/3\)](#)
5. [米国農務省動植物検疫局\(USDA-APHIS\)、審査のために提出された 12 種類の植物が、バイオテクノロジー規制の対象ではないと確認したことを公表 \(2/3\)](#)
6. [米国農務省動植物検疫局\(USDA-APHIS\)、審査のために提出された 12 種類の植物が、バイオテクノロジー規制の対象ではないと確認したことを公表 \(3/3\)](#)
8. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、新食品としての、大腸菌 W\(ATCC 9637\)派生株\(大腸菌 SGR5\)により産生される 2'-フコシルラクトースの安全性に関する科学的意見書を公表 \(後半 2/2\)](#)
13. [国際がん研究機関\(IARC\)、超加工食品が、がん及び心代謝性疾患の多疾病罹患のリスク上昇に関連しているとする研究結果を発表](#)
23. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、葉酸塩に対する耐容上限摂取量\(UL\)に関する科学的意見書を公表](#)
31. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、新食品としての 2'-フコシルラクトースの用途拡張の安全性に関する科学的意見書を公表](#)
48. [米国食品医薬品庁\(FDA\)、臭素化植物油\(BVO\)の食品への使用を認可する規則を取り消す規則案を公表](#)

## ■ 表示、販売等に関する行政機関のアクション情報等

### **株式会社アリュールに対する景品表示法に基づく措置命令について**

消費者庁 - 2023/12/5 <https://www.caa.go.jp/notice/entry/035547/>

消費者庁は、令和 5 年 11 月 27 日、株式会社アリュールに対し、同社が供給する「スリムサポ(SlimSapo)」と称する機能性表示食品に係る表示について、景品表示法に違反する行為(同法第 5 条第 1 号(優良誤認)に該当)が認められたことから、同法第 7 条第 1 項の規定に基づき、措置命令を行い……

### **株式会社ハハハラボに対する景品表示法に基づく措置命令について**

消費者庁 - 2023/12/19 <https://www.caa.go.jp/notice/entry/035684/>

消費者庁は、令和5年12月7日、株式会社ハハハラボに対し、同社が供給する「メラット」と称する機能性表示食品に係る表示について、景品表示法に違反する行為(同法第5条第1号(優良誤認)に該当)が認められたことから、同法第7条第1項の規定に基づき、措置命令を行い-----

## ■ 行政・法令関連情報（その他）

「健康的で持続可能な食環境づくりのための戦略的イニシアチブ」の参画事業者を募集中です！

厚生労働省 - 2023/12/6

[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryuu/kenkou/eiyuu/syokuji\\_kijyun\\_00005.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/eiyuu/syokuji_kijyun_00005.html)

健康的で持続可能な食環境戦略イニシアチブ 令和5年度全体会合 開催案内

厚生労働省 - 2023/12/7

[https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage\\_00084.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_00084.html)

## ■ 市場予測、動向（食品・健康食品全般）

今回は特に見当たりませんでした。

## ■ 具体的健康ニーズ・素材・成分、製品情報 (市場予測・動向等)

【スポーツニュートリション】プロテインブームの新規利用者が定着へ

健康メディア.com - 2023/12/4

[https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/18410](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/18410)

スポーツ庁の調査（令和4年度スポーツの実施状況等に関する世論調査）によると、週1日以上スポーツを行う人は52.3%と前年の56.4%から減少したものの過半数を超え推移する。その内、スポーツを行う理由を「健康のため」と回答した人は79.4%に上る。競技出場するコア層からウォーキングやヨガ等を行うライト層へ、スポーツ実施者は広がりを見せて

いる。摂取目的は「疲労回復」「エネルギー補給」「筋力増加」等。既存の機能性原料をエビデンスに基づいてスポーツ向けに提案を行う動きや、新素材の提案も活発化-----

## **【水素】市場規模、前年比1割増しの236億円**

健康メディア.com - 2023/12/4

[https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/18407](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/18407)

本紙が今回2023年通期の水素商材の市場動向について調査した結果、市場規模は、前年比11.2%増の約236億円と、V字回復が見られた。2023年はコロナ収束に伴い、水素商材の主要販売チャネルである宣講販や訪販、催事等の対面販売の復活、エステサロンや医療機関、治療院など施設向けの導入増加、さらに輸出案件の回復が大きかった。今年3月に慶應義塾大学による水素吸入療法のエビデンス発表、水素分子で初の機能性表示食品の受理、法政大学・宮川路子先生執筆の書籍のヒットなど、明るいニュースが相次いだことも市場回復の追い風と-----

## **【プラセンタ】胎盤+@の付加価値提案も**

健康メディア.com - 2023/12/4

[https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/18405](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/18405)

化粧品の定番素材プラセンタは、健康食品向けでもコラーゲンと並び、美容カテゴリーの人気素材だ。肌分野や更年期症状改善に加え、疲労回復、肝機能改善、睡眠改善などのエビデンスも蓄積されている。近年は、プラセンタ単体だけでなく、酵母・乳酸菌発酵や、エクソソーム含有などの付加価値提案が活発に。また、サケ卵巣外皮や植物由来のプラセンタ様成分も、ハラル向けや新たな客層を取り込む起爆剤に。原料価格も比較的安定している。最終製品は医療機関で売り上げが伸びている。さらにコロナ収束を機に、海外市場も回復傾向にあり、美容ドリンクなどに利用が-----

## **【カシス】豊富なエビデンスを武器に新分野の開拓へ**

健康メディア.com - 2023/12/4

[https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/18402](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/18402)

カシスは、アイケア訴求の健康食品として、なじみが深く、ポリフェノールやビタミンCやミネラルを多く含むスーパーフルーツ。主な生産国はフランス、ポーランド、ニュージーランド、カナダで、EU産カシスが世界の8割を占める。業界団体の日本カシス協会や有力サプライヤーは“カシス特有のアントシアニン”に着目した研究を進め、「緑内障の進行抑制」「抗酸化」「抗ウイルス効果」「末端血流改善」「筋肉疲労軽減」「認知機能の向上作用」など、様々なエビデンスを有する。販路を拡大する商品、リピート率の高い医家向け商品、さらにコロナ収束によるインバウンドの復調により、カシスの原料供給量も伸長してい

る。一方で、メーカー各社では、豊富なエビデンスを武器に、アイケアに続く新たな市場開拓に-----

[記事のカテゴリに戻る](#)

## ■ 市場・企業動向、注目ビジネス情報

### ミドリムシから飼料と肥料を生み出すユーグレナ、国内農家の救世主となるか

MONOist - 2023/12/15 <https://monoist.itmedia.co.jp/mn/articles/2312/15/news082.html>

ユーグレナは、東京都内で会見を開き、微細藻類「ユーグレナ（和名：ミドリムシ）」を用いたサステナブルアグリテック事業を紹介した。

## ■ 消費者意識等の調査・分析

### 明治と TOPPAN 「未来の売場づくり」へ向けた購買行動調査を実施 聴覚や視覚を刺激する販促物を設置した売場で「興味関心」や「自分ゴト化」の働きに関連する部位の脳血流活性化を確認

株式会社明治 - 2023/12/4

[https://www.meiji.co.jp/corporate/pressrelease/2023/1204\\_01/index.html](https://www.meiji.co.jp/corporate/pressrelease/2023/1204_01/index.html)

株式会社 明治（本社：東京都中央区、代表取締役社長：松田 克也）と、TOPPAN ホールディングスのグループ会社である TOPPAN 株式会社（本社：東京都文京区、代表取締役社長：齊藤昌典、以下 TOPPAN）は、2023 年 10 月に「未来の売場づくり」につながる「脳血流計測」を用いた購買行動調査を共同で実施-----

### 食のマーケティングカンパニー国分グループ本社協力のもと「健康と食、栄養に関する調査 2023」がまとまりました

株式会社リンクアンドコミュニケーション - 2023/12/18

<https://www.linkncom.co.jp/news/news/1294/>

食のマーケティングカンパニー国分グループ本社協力のもと、毎年ご好評いただいている「健康と食、栄養に関する調査 2023」がまとまりました。

株式会社リンクアンドコミュニケーションは食品卸大手、食のマーケティングカンパニー—国分グループ本社の協力のもと、生活者（2,860名）に対して、食と健康、栄養に関するアンケートを実施しました。その結果がまとまりましたので、ここに公表-----

## おやつ・間食に関する実態調査 2023

～菓子・スイーツ・軽食の飲食実態・購買行動データベース～

株式会社日本能率協会総合研究所 - 2023/12/7

<https://www.jmar.biz/report2/snack2023/?tab=freereport>

- 10代～70代男女の“おやつ”実態を網羅／小・中学生対象の〔子供調査〕を実施
- 菓子・スイーツ・軽食類の喫食実態・購買行動の把握
- 20ジャンル100種類以上のおやつ・軽食を網羅
- おやつ喫食・購入シーン等のジャンル間比較を実施
- 時系列比較からみる注目の”増加傾向”おやつジャンルは？

-----

## 電通、食生活に関する生活者調査 2023、好きなものを選んで食べたい人は約9割、自らの料理で大事なことは「自分の好み」

マイライフニュース - 2023/12/19 <https://www.mylifenews.net/drink-food/39000/>

電通において、日本の食生活の「今」を知り、「これから」を共創する国内電通グループ横断プロジェクト「電通 食生活ラボ」は、全国15～79歳の1300人を対象に、「食生活に関する生活者調査 2023」（以下、同調査 調査期間：10月20日～10月23日）を実施した。同調査は、新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行、物価高騰の影響などの社会的な潮流を踏まえ、日本の食生活における生活者の意識や実態、満足度、トレンドなどを把握する目的で行った。その結果、好きなものを選んで食べたい人は約9割に達した。自らの料理で大事なことは「自分の好み」であることもわかった。

## ■ 食品・食品成分の生理機能、健康関連科学情報

### 体脂肪量、HSP47タンパク質の発現レベルで規定されると判明—阪大

QLifePro 医療ニュース - 2023/12/12

<https://www.qlifepro.com/news/20231212/hsp47-adiposity.html>

▼関連リンク・大阪大学 ResOU

[https://resou.osaka-u.ac.jp/ja/research/2023/20231204\\_1](https://resou.osaka-u.ac.jp/ja/research/2023/20231204_1)

さまざまな要因が関係し、個人差が大きい体脂肪

大阪大学は12月4日、ヒトの脂肪組織量を規定する因子としてHSP47を同定したと発表した。この研究は、同大大学院医学系研究科内分泌代謝内科学の下村伊一郎教授、肥満脂肪病態学の福原淳範寄附講座准教授、糖尿病病態医療学のシンジフン寄附講座助教（研究当時）らの研究グループによるもの。研究成果は、「Nature Communications」にオンライン掲載されて-----

## 若いうちこそ「腹八分目」

### －若齢期のみのアミノ酸摂取制限により寿命延長が可能－

理化学研究所 - 2023/12/5 [https://www.riken.jp/press/2023/20231205\\_1/index.html](https://www.riken.jp/press/2023/20231205_1/index.html)  
東京大学

理化学研究所（理研）生命機能科学研究センター 栄養応答研究チームの小坂元陽奈 基礎科学特別研究員、小幡史明 チームリーダー、東京大学大学院薬学系研究科 遺伝学教室の三浦正幸 教授らの国際共同研究グループは、食餌（食事）制限による寿命延長効果が加齢によって弱まることを、ショウジョウバエを用いた研究で明らかにしました。本研究成果は、健康長寿に向けた栄養介入法の構築・改良に貢献すると期待でき-----

**追記：寿命延長効果があるとされるメチオニン制限の効果が加齢によって大きく低下することが、ショウジョウバエで確認されたとのことです。**

## 菓子パンなど超加工食品、日本人は満腹感を感じやすい人ほど摂取量が多い傾向－東大

QLifePro 医療ニュース - 2023/12/15

<https://www.qlifepro.com/news/20231215/highly-processed-food.html>

▼関連リンク・東京大学 プレスリリース

<https://www.m.u-tokyo.ac.jp/news/press.html#20231211>

### 心血管疾患などに関わる超加工食品、摂取に関連の内的要因は？

東京大学は12月11日、日本人成人2,232人を対象とした全国規模の質問票調査データから、超加工食品の摂取量と、食に関する知識や技術、価値観、行動特性などとの間に関連があることを明らかにしたと発表した。この研究は、同大大学院医学系研究科栄養疫学・行動栄養学講座の篠崎奈々特任助教、同大研究科社会予防疫学分野の村上健太郎教授、佐々木敏名誉教授らの研究グループによるもの。研究成果は、「International Journal of Behavioral Nutrition and Physical Activity」に掲載されて-----

## 酪酸菌とヒトはケトン体を介して共生関係にある～大腸管腔内のケトン体濃度が高いことを発見、仮説を提唱～東京工科大学応用生物学部

大学プレスセンター - 2023/12/5 <https://www.u-presscenter.jp/article/post-52180.html>

東京工科大学(東京都八王子市、学長:香川豊)応用生物学部の佐藤拓己教授と神戸大学大学院科学技術イノベーション研究科の佐々木建吾・特命准教授(研究当時、現:(株)バイオパレット主席研究員)は、大腸管腔内におけるケトン体濃度の分析などをもとに、ヒトの腸内におけるケトン体の存在には特別な意味があることを提唱し-----

## **短鎖脂肪酸を多く生み出すビフィズス菌 Bifidobacterium animalis subsp. lactis GCL2505 とイヌリンによる「内臓脂肪、体脂肪の低減」効果を確認 ～ 国際科学雑誌「Nutrients」に掲載されました ～**

江崎グリコ - 2023/12/14 <https://www.glico.com/jp/newscenter/pressrelease/45877/>

江崎グリコ株式会社は、短鎖脂肪酸を多く生み出す※1 当社独自のビフィズス菌 Bifidobacterium animalis subsp. lactis GCL2505 (以下、GCL2505 株) と水溶性食物繊維イヌリンによる内臓脂肪(腹部内臓脂肪)、体脂肪(腹部総脂肪)の低減効果を確認しました。本研究成果は2023年12月7日(木)に国際科学雑誌「Nutrients」に掲載されました。当社は「タンサ脂肪酸プロジェクト」として短鎖脂肪酸の研究と啓発活動を積極的に進めており、今後も GCL2505 株と短鎖脂肪酸の可能性を探って-----

## **年々増える内臓脂肪や基礎代謝・免疫力の低下などの原因は？ 腸内細菌が産生する「短鎖脂肪酸」に研究者が注目**

マイライフニュース - 2023/12/19 <https://www.mylifenews.net/health-medical/38958/>

年齢を重ねるにつれ、「太りやすくなった」「胴回りが年々大きくなってきた」「風邪をひきやすくなった」といった悩みを持つ人が増えているようだ。腸内環境が健康に重要な役割を果たすことは知られているが、腸内細菌が作り出す「短鎖脂肪酸」が、今、研究者たちが大注目している、太りにくい体づくりを始めとしたヘルスケアのバロメーターだという。そこで今回、腸内環境研究のスペシャリストである、メタジェン代表取締役社長 CEO で慶應義塾大学先端生命科学研究科特任教授の福田真嗣先生に、腸内細菌そして短鎖脂肪酸の最新情報について詳しい話を聞いて-----

## **1000 本以上の皮膚毛細血管を一度に可視化し定量化する新技術 肌・全身の健康状態や変化の把握に利用できる可能性**

花王株式会社 - 2023/12/7

<https://www.kao.com/jp/newsroom/news/release/2023/20231207-003/>

花王株式会社（社長・長谷部佳宏）解析科学研究所・ヘルス&ウェルネス研究所は、広視野で多数の皮膚毛細血管を撮影し、深層学習を用いて毛細血管の数や面積を算出する技術を開発しました。さらに、この技術を用いて、実際の肌における毛細血管の個人差や部位差、刺激への応答性の違いを確認することができました。この成果は今後、肌や肌にあらわれる健康状態の把握、毛細血管の反応を考慮した製品の開発・提案に役立つと期待-----

## **【メタジェン x キューサイ】継続的なケールの摂取により腸内環境が変化し排便回数が増加することが明らかに**

株式会社メタジェン - 2023/12/11 <https://metagen.co.jp/2023/12/11/20231211-1119/>

株式会社メタジェン（代表取締役社長 CEO・福田 真嗣 以下、当社）は、キューサイ株式会社（代表取締役社長 佐伯 澄）との共同研究で、4週間にわたるケールの摂取が腸内環境を変化させ、排便回数を増加させることを明らかにしました。また、その効果が得られるヒトの特徴として、排便量が少ないことを見出しました。本研究成果は、2023年11月29日、オンライン科学雑誌「Frontiers in Nutrition」に掲載され-----

## **「コオロギ×乳酸菌」で免疫賦活効果の相乗効果を発見 サプリメントやプロテイン、ペットフードの商品開発へ**

特許出願のお知らせ。コオロギ粉末と乳酸菌 K-1 を組み合わせた場合の NK 細胞活性化作用は約 2.6 倍に。

株式会社エコロギー - 2023/12/6

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000019.000082961.html>

株式会社エコロギー（本社：東京都新宿区、代表取締役 CEO: 葦苈 晟矢、以下エコロギー）は、乾燥コオロギ粉末と乳酸菌を組み合わせることで、免疫賦活効果を向上させる効果があることを確認し、特許出願いたしました。今後、サプリメントやプロテイン、ペットフードへ活用するため、得た知見をもとに新しい商品の開発に取り組んでまいります-----

## **消化吸収の先にある栄養の本質を考えるきっかけに「ウェルネストレンド白書 Vol.3」－オピニオンからの視点**

ウェルネス総研レポート online - 2023/12/18 <https://wellnesslab-report.jp/3108/>

一般社団法人ウェルネス総合研究所は、20代～70代、約4800名の生活者の健康・ウェルネスに関する意識と行動分析に基づき、今後予測されるヘルス・トレンドシナリオを洞察した調査レポート『ウェルネストレンド白書 Vol.3』を2023年10月2日に刊行しまし

た。早稲田大学 ナノ・ライフ創新研究機構規範科学総合研究所 ヘルスフード科学部門の矢澤一良教授に、栄養学の専門家から見た白書への感想や活用法について伺い……

## 老化を治療できる時代が目前に 生成 AI の活用で予防医学の革命に挑む GMO と東大

マイナビニュース - 2023/12/12

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20231212-2838694/>

以下の4件は、一般社団法人日本スポーツ栄養協会 公式情報サイト「スポーツ栄養 Web」掲載記事（2023年12月4日～20日）から選定したものです。

## 乳製品の摂取頻度とメンタルヘルスとの間に有意な関連 新型コロナ禍の中国で大学生を調査

<https://sndj-web.jp/news/002530.php> (2023/12/3)

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）パンデミック下の中国の大学生を対象に行われた横断研究の結果、乳製品の摂取量が多いほど、感情の問題や社会的適応の困難さなどで評価したメンタルヘルスの不調が少ないという関連のあることがわかった。著者によるとこの研究は、中国の大学生の乳製品摂取量とメンタルヘルス状態との関連を明らかにした、初の研究……

## 未成年の過体重・肥満者は、卵の摂取量が多いほど「代謝的に健康な肥満」の可能性が高い

<https://sndj-web.jp/news/002529.php> (2023/12/2)

過体重や肥満の未成年では、卵の摂取量が多いほど、代謝的には健康であることが多いとするデータが、イランから報告された。とくに女子より男子でこの関連が強く認められると……

## 持久系アスリートの血糖調整機構とパフォーマンスの関連 連続血糖測定で明らかになったこと

<https://sndj-web.jp/news/002534.php> (2023/12/5)

近年になり連続血糖測定（CGM）が急速に普及したことで明らかになってきた、持久系アスリートの血糖調節機構の特徴とパフォーマンスとの関連に焦点を当てた総説論文が発表された。要旨を紹介……

## β-アラニンの格闘技におけるパフォーマンス、体組成、生化学検査値などへの影響 システマティックレビュー

<https://sndj-web.jp/news/002536.php> (2023/12/7)

格闘技アスリートがβ-アラニンを摂取することによるパフォーマンスや体組成、生化学検査値などへの影響に関する、システマティックレビューの結果が報告された。体組成には有意な変化が認められず、筋力や格闘技特有のパラメーターについては有意な向上が示されたと-----

### ■ その他の食品関連科学・技術情報

豚骨スープのおいしさ、動物性と植物性の違いを可視化 農研機構など

サイエンスポータル - 2023/12/4 [https://scienceportal.jst.go.jp/newsflash/20231204\\_n01/](https://scienceportal.jst.go.jp/newsflash/20231204_n01/)

順天堂大、落花生皮中のポリフェノール成分の簡易分析法の開発— 安価な健康食品の開発を目指して —

日経バイオテック - 2023/12/13 <https://bio.nikkeibp.co.jp/atcl/release/23/12/13/18792/>

### ■ その他の科学・技術情報

理論タンパク質量情報を活用した新しい微生物種同定技術

—20万件の原核微生物ゲノム情報をもとに、質量分析により多様な原核微生物種を迅速同定—

国立研究開発法人産業技術総合研究所 - 2023/12/5

[https://www.aist.go.jp/aist\\_j/press\\_release/pr2023/pr20231205/pr20231205.html](https://www.aist.go.jp/aist_j/press_release/pr2023/pr20231205/pr20231205.html)

ポイント

- ヒトや動物、食品、海洋や土壌など、広範な環境中で検出される3万種以上の原核微生物種を同定可能
- 未培養微生物を含む多様な原核微生物種を迅速に同定
- 感染症原因微生物の特定、食品分野の微生物検査、環境微生物分析などの迅速化に貢献

-----

## ライオンが生成 AI と検索システムを用いた「知識伝承の AI 化」ツールを開発、検証を完了

IOTNews - 2023/12/11 <https://iotnews.jp/ai/239309/>

ライオン株式会社は、社内の知見を有効活用するための「知識伝承の AI 化」ツールの自社開発を進め、研究領域での検証を完了したことを発表した。

「知識伝承の AI 化」ツールの開発は、クラウドサービスプロバイダが提供する生成 AI と検索サービスを組み合わせ、ライオン社内で進められているもの……

### ■ その他

*英文情報サイト Foodnavigator-asia に 12 月 7 日付けで、英文記事の和訳版が掲載されましたのでご紹介いたします。タイトルのクリックで記事本文が閲覧できます。*

[サイエンス ショート:タイの超加工食品、中国の精密な 3D プリンターによる主食、シンガポールの中国人による健康調査結果など](#)

[サステナビリティ抜粋:PepsiCo の起業家コラボレーション、RedMart の e コマース動向、APAC の昆虫由来食品など](#)

[トレンドトラッカー:RedMart の e コマーストレンド、プレミアムな値ごろ感、健康的な高齢化など](#)

[安全第一:インドの新たな食品安全プラットフォーム、日本の原発処理水放出の影響、フィリピンの食品表示変更](#)

[ジャパン フォーカス:アサヒスーパードライの業績、森永製菓の新たな機会、協和発酵のポストバイオティクスの継続的成功、食品廃棄物削減など](#)

以上